茨城県教育財団文化財調査報告第229集

犬田神社前遺跡 1

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ

平成 16 年 3 月

日本道路公団
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第229集

犬田神社前遺跡1

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ

平成16年3月

日本道路公団
財団法人　茨城県教育財団

遺跡遠景

銅造観世音菩薩立像（第838号土坑出土遺物）

序

茨城県は，県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために，高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに，広域的な交通ネットワークの整備を進めております。北関東自動車道建設事業も，その目的に添って計画されたものであります。

このたび，日本道路公団は，岩瀬町犬田地区において，北関東自動車道（協和～友部）建設事業を決定いたしました。この事業地内には埋蔵文化財包蔵地である犬田神社前遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は，日本道路公団から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成14年４月から平成15年１月まで発掘調査を実施しました。

本書は，犬田神社前遺跡の調査成果を収録したものです。本書が，学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である日本道路公団から多大なる御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，岩瀬町教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，衷心より感謝申し上げます。

平成16年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，日本道路公団東京建設局水戸工事事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成14年度に発掘調査を実施した，西茨城郡岩瀬町大字犬田字中根前340番地ほかに所在する犬田神社前遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は，以下のとおりである。

調査　平成14年4月1日～平成15年1月31日

整理　平成15年4月1日～平成16年3月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第二課長鈴木英治のもと，以下の者が担当した。

首席調査員兼調査第二課第1班長	萩野谷　悟	平成14年10月1日～平成15年1月31日
首席調査員兼調査第二課第2班長	村上　和彦	平成14年4月1日～平成14年9月30日
首席調査員	山口　　厚	平成14年8月1日～平成14年11月30日
首席調査員	高野　節夫	平成14年4月1日～平成15年1月31日
主任調査員	白田　正子	平成14年7月1日～平成14年7月31日
主任調査員	横倉　要次	平成14年12月1日～平成15年1月31日
主任調査員	榊　　雅彦	平成14年10月1日～平成14年10月31日
主任調査員	石川　武志	平成14年4月1日～平成15年1月31日
副主任調査員	浦和　敏郎	平成14年4月1日～平成14年6月30日

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理第二課長鶴見貞雄のもと，主任調査員　榊雅彦，同　石川武志が担当した。

石川　　第1章，第2章，第3章第1節，第3節2～5，第4節

榊　　第3章第2節～第3節1，第4節

5　本書の作成にあたり，銅造観世音菩薩立像，権，馬鈴の成分分析，曲げ物の樹種同定分析を株式会社吉田生物研究所に，また木製臼の樹種同定分析を独立行政法人森林総合研究所に委託した。

6　銅造観世音菩薩立像については，茨城大学大学院人文科学研究科講師の後藤道雄氏にご指導いただいた。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，X軸＝＋38,880m，Y軸＝＋24,080mの交点を基準点（A 1a1）とした。なお，この原点は，日本測地系による基準点である。

調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらにこの大調査区を東西・南北に各々10等分し，4ｍ四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1区」，「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3…0とし，名称は，大調査区の名称を冠し「A 1a1区」，「B 2b2区」のように呼称した。

2　抄録の北緯および東経の欄には，世界測地系に基づく緯度・経度を（　）を付して併記した。

3　本文・全体図・実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　住居跡－S I　掘立柱建物跡－S B　土坑・墓壙－S K　竪穴状遺構－S H
井戸跡－S E　溝跡－S D　柱穴－P　ピット群－P g　地下式壙－U P

遺物　土器・陶器－P　拓本記録土器－T P　土製品－D P　石器・石製品－Q　金属製品・古銭－M

土層　撹乱－K

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構及び遺物の実測図中の表示は次のとおりである。

焼土・釉　炉・火床面　竈部材・粘土・炭化材・黒色処理

煤・油煙

土器●　土製品○　石器・石製品□　金属製品△　木製品■　硬化面 ――――

6　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は200分の1，遺構は30分の1，60分の1，80分の1に縮尺して掲載した。

(2)　遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，その場合は個々に縮尺をスケールで表示した。

(3)　文字資料のうち，焼成前に線刻されたものを「ヘラ書き」，焼成後に線刻されたものを「刻書」と分けて記述した。

6　「主軸方向」は，竪穴住居跡については炉または竈を通る軸線とし，他の遺構については長軸（径）を主軸と見なした。「主軸・長径方向」は，主軸・長径が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。(例 N－10°－E，N－10°－W)

7　遺物観察表の記載方法は次のとおりである。

(1)　計測値の単位はcm及びgで示した。なお，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

(2)　備考欄は，残存率や写真図版番号等，その他必要と思われる事項を記した。

(3)　遺物番号については，土器・拓本のみ掲載の土器片，土製品，石製品，金属製品，木製品ごとに通し番号とし，挿図，観察表，写真図版に記した番号は同一とした。

8　遺構一覧表における計測値は，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

抄　　録

ふりがな	いぬだじんじゃまえいせきいち
書名	犬田神社前遺跡1
副書名	北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	Ⅷ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第229集
著者名	榊　雅彦　　石川武志
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL029-225-6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL029-225-6587
発行年月日	2004（平成16）年3月26日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
いぬだじんじゃまえ 犬田神社前 いせき 遺跡	いばらきけんにしつくばぐん 茨城県西 つくばしあずまちょう 城都岩瀬町大 字犬田字中根 前340番地 ほか	08324 －086	36度 20分 58秒 （36度 21分 09秒）	140度 06分 11秒 （140度 06分 11秒）	48 ～ 55m	20020401 ～ 20030131	10,644㎡	北関東自動車道（協和～友部）建設事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
犬田神社前遺跡	集落跡 ほか	縄文	竪穴住居跡　6軒 土坑　10基	縄文土器（浅鉢，深鉢，器台） 石器（石鏃，石斧，磨石，敲石，凹石）	縄文時代中期，古墳時代，奈良・平安時代，中・近世にかけての複合遺跡である。縄文時代の住居跡には，有段式のものがある。古墳時代後期の住居跡からは，青銅製の馬鈴が出土している。中・近世においては，大規模な溝が確認されたことから，居館跡の一部と考えられる。この溝の周辺からは，墓壙，地下式壙，竪穴状遺構，井戸跡などが多数確認された。主な遺物として，櫛，銅造観世音菩薩立像，温石，陶磁器のほか木製品が多数出土している。
		古墳	竪穴住居跡　14軒 土坑　3基	土師器（坏，椀，高坏，壺，坩，甕，甑） 土製品（支脚） 石器（砥石） 金属製品（馬鈴）	
		奈良・平安	竪穴住居跡　37軒 掘立柱建物跡1棟 井戸跡　6基 土坑　9基	土師器（坏，鉄鉢，甕，甑，小皿） 須恵器（坏，蓋，瓶，甑） 灰釉陶器 金属製品（釘，鏃，刀子）	
		中・近世 他（時期不明を含む）	掘立柱建物跡1棟 竪穴状遺構　19基 地下式壙　19基 井戸跡　42基 墓壙　12基 土坑　1076基 溝跡　23条 ピット群　7か所	土師質土器（内耳鍋，小皿，鉢，甕） 瓦質土器（火舎，鉢，甕，焙烙，十能） 陶磁器（甕，鉢，碗，皿） 金属製品（鉈，斧，櫛，小金銅仏） 石器（臼，温石，砥石） 木器・木製品（臼，曲げ物）	

目　　次

序
例　言
凡　例
抄　録
目　次
第1章　調査経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　調査経過 …… 1
第2章　位置と環境 …… 2
　第1節　地理的環境 …… 2
　第2節　歴史的環境 …… 2
第3章　調査の成果 …… 7
　第1節　遺跡の概要 …… 7
　第2節　基本層序 …… 7
　第3節　遺構と遺物 …… 8
　　1　縄文時代の遺構と遺物 …… 8
　　(1)　竪穴住居跡 …… 8
　　(2)　土坑 …… 27
　　2　古墳時代の遺構と遺物 …… 41
　　(1)　竪穴住居跡 …… 41
　　(2)　土坑 …… 75
　　3　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 77
　　(1)　竪穴住居跡 …… 77
　　(2)　掘立柱建物跡 …… 139
　　(3)　井戸跡 …… 140
　　(4)　土坑 …… 143
　　4　中・近世の遺構と遺物 …… 148
　　(1)　掘立柱建物跡 …… 148
　　(2)　竪穴状遺構 …… 149
　　(3)　地下式壙 …… 163
　　(4)　井戸跡 …… 180
　　(5)　墓壙 …… 213
　　(6)　土坑 …… 220
　　(7)　溝跡 …… 276
　　5　その他の時代の遺構と遺物 …… 314
　　(1)　竪穴状遺構 …… 314
　　(2)　井戸跡 …… 316
　　(3)　土坑 …… 320
　　(4)　溝跡 …… 322
　　(5)　ピット群 …… 322
　　6　遺構外出土遺物・遺構一覧表 …… 330
　第4節　まとめ …… 359
付　章 …… 367
写真図版

第1章 調 査 経 緯

第1節 調査に至る経緯

日本道路公団は，常陸那珂港と北関東の各主要都市を結ぶ北関東自動車道の早期開通をめざしている。

平成10年11月4日，日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，北関東自動車道建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成10年12月15～18日に現地踏査を，平成12年12月14，15日に試掘調査を実施し，大田神社前遺跡の所在を確認した。平成13年1月17日，茨城県教育委員会教育長は日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに事業地内に大田神社前遺跡が所在する旨回答した。

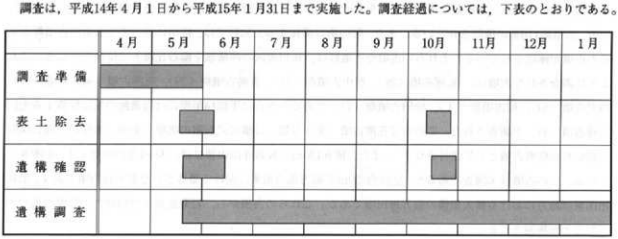
平成13年3月26日，日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき，土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は，計画変更が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると判断し，平成13年3月27日，日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成13年3月28日，日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，北関東自動車道建設に関わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成13年3月28日，茨城県教育委員会教育長は，日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに，大田神社前遺跡について，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，日本道路公団から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成14年4月1日から調査を開始した。当初は調査予定期間が平成15年3月31日まで，調査予定面積が15,135.27㎡であったが，当遺跡周辺がオオタカの餌場の範囲内にあたり，営巣期間（2～3月）に発掘調査の実施を控えるよう求められたため，茨城県教育委員会，日本道路公団と三者協議の上，期間を平成15年1月31日までに短縮し，面積を10,644㎡に縮小して調査した。

第2節 調 査 経 過

調査は，平成14年4月1日から平成15年1月31日まで実施した。調査経過については，下表のとおりである。



第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

大田神社前遺跡は，茨城県西茨城郡岩瀬町大字大田字中根前340番地ほかに所在している。

岩瀬町は，茨城県の中西部に位置し，北には富谷山，雨巻山及び高峰山があり栃木県真岡市，益子町，茂木町に接している。町の東は羽黒山を境として笠間市に，南は加波山，雨引山を境として八郷町，大和村にそれぞれ接しており，町の三方を丘陵性の山地で取り囲まれた盆地をなしている。町の北東部に位置する鍬柄峠の山間，鏡ヶ池に源を発する桜川の清流が町の中央部を東西に貫流している。平地は，桜川，大川，筑波川などの流域と山間部に入り込んだ谷状の低地などである。

当町を取り囲んでいる八溝山系は，八溝山塊，鷲の子山塊，鶏足山塊，筑波山塊から成り立っている。これらの山塊の地質は，中・古生代の地向斜に堆積された地層とこれを貫く花崗岩類からできている。台地の大部分は関東ローム層に厚くおおわれた洪積台地で，上層は赤土と呼ばれる鹿沼軽石を含む火山灰が堆積したものである。また，水田に利用されている桜川流域一帯などは，河川の浸食・堆積作用による沖積地である[1]。

当遺跡は，岩瀬町南部の大田地区にあり，標高48～55mの洪積台地上に立地し，調査前の現況は畑地である。

第2節　歴史的環境

当遺跡周辺の桜川及びその支流域の台地上には縄文時代から中世にかけての遺跡が多く分布し，また，低地を臨む丘陵上には古墳が数多く存在している。

ここでは，当遺跡と関連する縄文時代，古墳時代，奈良・平安時代，中・近世の主な周辺遺跡について述べることにする。

(1)　縄文時代

縄文時代には，桜川流域の沖積地から入り込む支谷に面した台地上の縁辺部に，集落が形成されるようになる。遺跡は岩瀬町の東部に多く，長辺寺遺跡〈13〉，舘入遺跡〈36〉，猪窪遺跡〈14〉などが位置している。また，当遺跡から南西約2.5kmの大和村の桜川右岸に高森遺跡〈43〉，高森西遺跡〈49〉が位置している。

(2)　古墳時代

古墳時代になると，遺跡数は増加の傾向を見せるようになる。昭和43年度以降の分布調査によると古墳群18か所，古墳約110基が確認されている。また，町の南に隣接する大和村では，桜川に沿って7か所の古墳群と4基の古墳が確認されている。それらの古墳や古墳群は，桜川流域の沖積地を臨む丘陵上に位置している。これまでに調査された古墳は，狐塚古墳〈28〉，岡中古墳群〈37〉，青柳古墳群〈29〉，花園古墳（第3号墳）〈10〉，西沢古墳〈34〉，樋古墳群〈4〉，松出古墳群〈11〉である。さらに平成14年度には当遺跡の東に位置する天角山神古墳〈41〉が調査された。この中で花園古墳（第3号墳）は横穴式石室の奥壁と東壁，西壁の三面に図紋が描かれた壁画古墳として注目された[2]。また，標高130mの長辺寺山山頂には，長辺寺山古墳〈3〉が所在している。この古墳は未調査であるが，全長約120mで前方部を南東に向けて築造された前方後円墳であり，旧新治国東部地方における最大規模の前方後円墳である。これらの古墳から，岩瀬盆地が古墳時代の重要の地であったことが推測される。

古墳時代の集落とされる遺跡は，辰海道遺跡〈40〉，当尚遺跡〈38〉，山王遺跡〈35〉，磯部遺跡〈5〉等がある。この中で辰海道遺跡は，平成13年度の発掘調査で古墳時代から平安時代まで続く規模の大きな集落であることが確認されている。古墳時代の豪族居館に関わる環濠遺構や9mを超える大形住居跡など拠点的な集落形成がすすめられ，やがて律令体制下へと組み入れられていったと考えられる。

(3) 奈良・平安時代

奈良・平安時代になると，犬田地区は白壁郡（真壁郡に改称は784年以降）に編入されることとなる。白壁郡は，大化の改新によって新治国から独立したものである。犬田地区は白壁郡内の伴部郷に比定されている[3]。

律令体制の衰退とともに在地領主層が出現し，天慶2（939）年の平将門の乱後，その討伐に功労のあった平貞盛の子孫が筑波山西南麓を拠点に真壁，筑波，新治の三郡を勢力下に置くようになる。そのような状況の中で岩瀬地方は「中郡」と呼ばれ，大中臣姓中郡氏が台頭してくる。

(4) 中・近世

中世になると，岩瀬地方は中郡荘（庄）と呼ばれるようになる[4]。これは，当地方が京都の蓮華王院の荘園領となり，大中臣氏中郡氏がその下司職となり，在地領主として確固たる地位を保持し，のちに土豪として発展していったのである。しかし，中郡氏の居館跡には諸説があり，明らかにされていない。

室町時代の中郡荘（庄）は，常陸国ではただ一つの幕府直轄領であり，幕府の財政を主管している伊勢氏が預かり，総代官として太田五郎左衛門氏を派遣していた。さらに応永年間には中郡荘（庄）犬田郷は鎌倉法花堂領となったことが知られている。当遺跡の東に位置する椎木城〈18〉は伊勢氏の城で，応永12年に居を構えたのが最初とされている[4]。のちに，永享の乱から結城合戦へ移行する過程で，足利持氏の遺子安王丸が中郡で蜂起したこととの関連がうかがわれる。

近世になり，岩瀬地方は笠間藩の支配下に入る。元和年間の犬田の検地帳によれば，有力農民である八家（藤兵衛，五兵衛，新太郎，五郎兵衛，九兵衛，惣左衛門，左京之助，主人）が村内農地の80％を保有していたことになっている[4]。また，当時の岩瀬の村々には受領名，官途名，名字をもった農民が多数存在している。

※文中の〈　〉内の番号は，表1及び第1図の該当番号と同じである。

註

1）日本の地質『関東地方』編集委員会 『日本の地質3　関東地方』 共立出版　1986年10月

2）伊藤重敏 『花園整備古墳（弟3号墳）調査報告書』 岩瀬町教育委員会　1985年3月

3）中山信名 『新編常陸国誌』 雄書房　復刻版　1978年12月

4）岩瀬町史編さん委員会 『岩瀬町史　通史編』 岩瀬町　1987年3月

参考文献

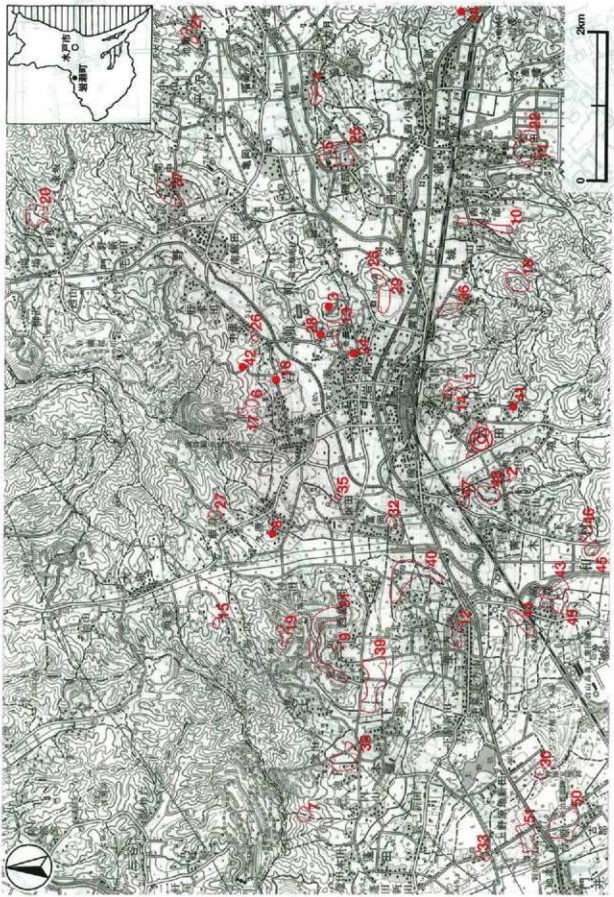
・茨城県教育庁文化課 『茨城県遺跡地図　地図編』 茨城県教育委員会　2001年3月

・茨城県教育庁文化課 『茨城県遺跡地図　地名表編』 茨城県教育委員会　2001年3月

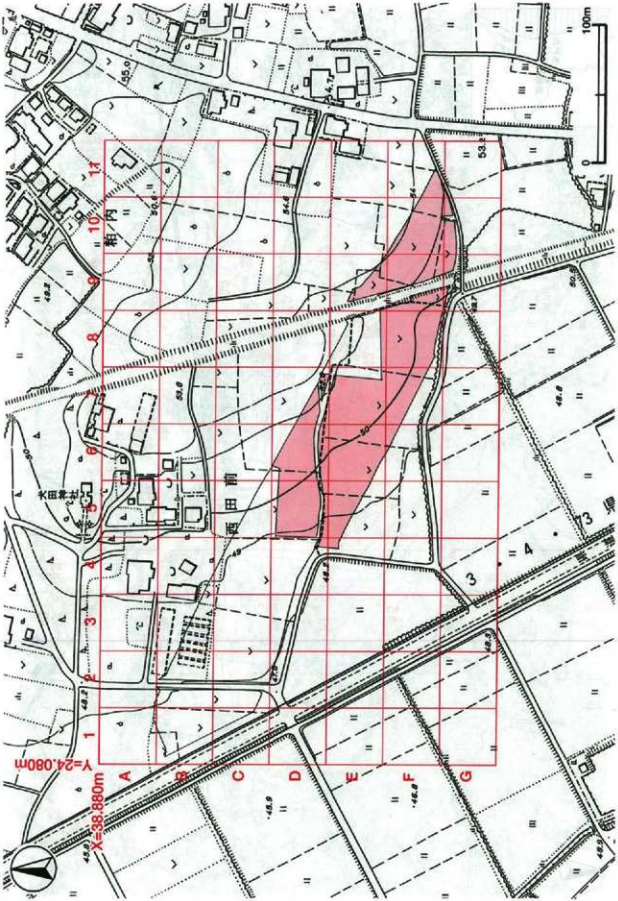
・茨城地方史研究会編 『茨城の歴史　県西編』 茨城新聞社　2002年5月

表1　犬田神社前遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世	番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
◎	**犬田神社前遺跡**		○	○	○	○	○	○	26	中里古墳群				○			
1	猪窪古墳群				○				27	飯渕古墳群				○			
2	大神田古墳群				○				28	狐塚古墳群				○			
3	長辺寺山古墳				○				29	青柳古墳群				○			
4	稲古墳群				○				30	上野原瓦窯跡					○		
5	磯部遺跡		○		○				31	坂戸古墳群				○			
6	富谷古墳群				○				32	富岡城跡						○	
7	二門塚古墳				○				33	上野原遺跡			○				
8	森山台地古墳				○				34	西沢古墳				○			
9	布着山古墳				○				35	山王遺跡				○	○		
10	花面古墳群				○				36	防人遺跡		○	○	○	○		
11	松田古墳群	○	○	○	○		○	○	37	間中古墳群				○			
12	星の宮古墳群				○				38	当向遺跡		○	○	○	○	○	○
13	長辺寺遺跡		○	○					39	金谷遺跡				○	○	○	○
14	猪窪遺跡		○	○					40	辰海道遺跡			○	○	○	○	○
15	堀の内古窯跡群					○			41	犬田山神古墳		○	○	○	○	○	
16	郷の塚古墳				○				42	富谷弥陀古墳				○			
17	富谷城跡						○		43	高森遺跡		○					
18	横本城跡						○		44	高森古墳群				○			
19	坂戸城跡						○		45	青木古墳群				○			
20	門毛城跡						○		46	白山古墳群				○			
21	池亀城跡						○		47	二宮古墳群				○			
22	松田城跡						○		48	青木神社裏古墳				○			
23	谷中城跡						○		49	高森西遺跡		○			○	○	
24	岩瀬城跡						○		50	新治郡衙跡					○		
25	磯部城跡						○		51	新治廃寺跡					○		



第1図　大田神社前遺跡周辺遺跡位置図



第２図　大田神社前遺跡調査区設定図

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

犬田神社前遺跡は，縄文時代から中・近世までの複合遺跡である。調査前の現況は畑で，調査面積は10,644㎡である。

今回の調査によって検出された遺構は，縄文時代の竪穴住居跡6軒，土坑10基，古墳時代の竪穴住居跡14軒，土坑3基，奈良・平安時代の竪穴住居跡37軒，掘立柱建物跡1棟，井戸跡6基，土坑9基，中・近世の溝跡18条，掘立柱建物跡1棟，地下式壙19基，竪穴状遺構15基，井戸跡34基，土坑112基，時期不明の溝跡5条，竪穴状遺構4基，井戸跡8基，土坑976基，ピット群7群である。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）で191箱が出土した。縄文時代では中期前葉の阿玉台式土器がほとんどである。また，古墳時代中期から平安時代末期までの土師器，須恵器が出土している。その他おもなものとして，土師質土器，瓦質土器，陶器，磁器，石鏃，石斧，凹石，磨石，蔵石，剥片，砥石，石臼，温石，刀子，鉄鏃，釘，鎌，馬鈴，煙管，古銭，権，銅造観世音菩薩立像，曲げ物，木製臼などが出土している。

第2節 基本層序

調査区中央部のE7h7区にテストピットを設定し，約2.3m掘り下げて基本土層の観察を行った。

第1層は耕作土で，層厚は20～30㎝である。

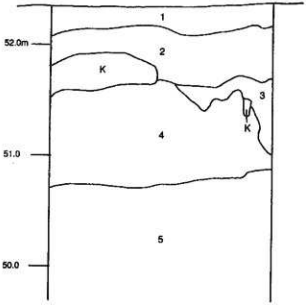
第2層は，褐色をしたハードローム層で，層厚は30～45㎝である。ローム大ブロック・ローム中ブロックを主とし，ローム小ブロックとローム粒子を少量含んでおり，粘性・締まりともに強い。第二黒色帯を含んでいるが，分層できる程度の堆積は確認できなかった。なお，第2層下にある攪乱は，袋状土坑の可能性があるが調査区域外のため確認できなかった。

第3層は，黄褐色をしたハードローム層で，層厚は15～55㎝である。鹿沼軽石粒子を少量，鹿沼軽石大・中ブロックを微量含んでいる。粘性・締まりともに強い。鹿沼軽石層の漸移層である。

第4層は，上部が黄色，下部が明黄褐色をした鹿沼軽石層である。層厚は20～80㎝で，粘性が弱く締まりは強い。

第5層は，褐色をしたハードローム層で，白色スコリア粒子と黒色粒子を少量含み，粘性・締まりともに強い。第5層は，第4層より60㎝程掘り下げた部分までしか確認していないため，層厚は不明である。

なお，第2層から第3層上面で遺構は確認され，第2層から第5層にかけて掘り込まれている。



第3図 基本土層図

第3節　遺構と遺物

1　縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構としては，竪穴住居跡6軒，土坑10基が確認された。以下，遺構と遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第28号住居跡（第4～7図）

位置　調査区西部のD6j5区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　南西は第34号住居，また，北東部分は第15号地下式壙に掘り込まれている。中央部分は第1068号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸7.4m，短軸5.9mの長方形と推定され，主軸方向は，N－23°－Wである。二段に掘り込まれている住居で，上段の掘り込みは，北西部分のみ確認できた。下段の高さは20cm，上段は10cmで緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，広い範囲に硬化面が見られた。北東コーナーから南西コーナーにかけて壁溝をもっている。

炉　炉は確認されなかった。

ピット　17か所。P1～P4のピットは配列から主柱穴と考えられる。P5～P8と，壁の立ちあがり部分の径の小さなピットは，深さや径がまちまちであり，配列から補助柱穴と判断した。

ピット土層解説

1　暗褐色　ローム ブロック・炭化物少量
2　暗褐色　ローム ブロック少量
3　灰褐色　ローム ブロック中量，鹿沼パミス ブロック微量
4　褐色　ローム ブロック中量，鹿沼パミス ブロック微量
5　黒褐色　ローム ブロック微量

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

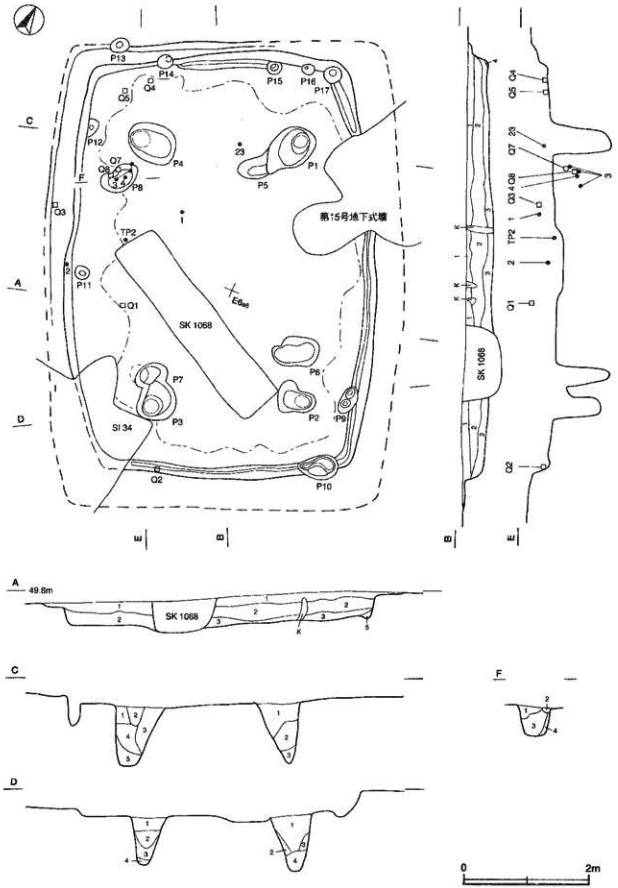
1　黒褐色　ローム ブロック・鹿沼パミス ブロック微量
2　黒褐色　ローム ブロック・炭化物少量
3　極暗褐色　ローム ブロック・焼土ブロック・炭化物微量
4　暗褐色　ローム ブロック少量
5　褐色　ローム ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片415点，石器6点（敲石3，磨石3）が中央部から西側にかけての覆土中層から下層を中心に出土している。3，4は，P8の覆土下層から，23は下段北側の床近くから出土している。その他に覆土上層から土師器片20点，須恵器片4点が出土しており後世の混入と考えられる。石器の多くは，下層や本跡のコーナー部分から出土している。

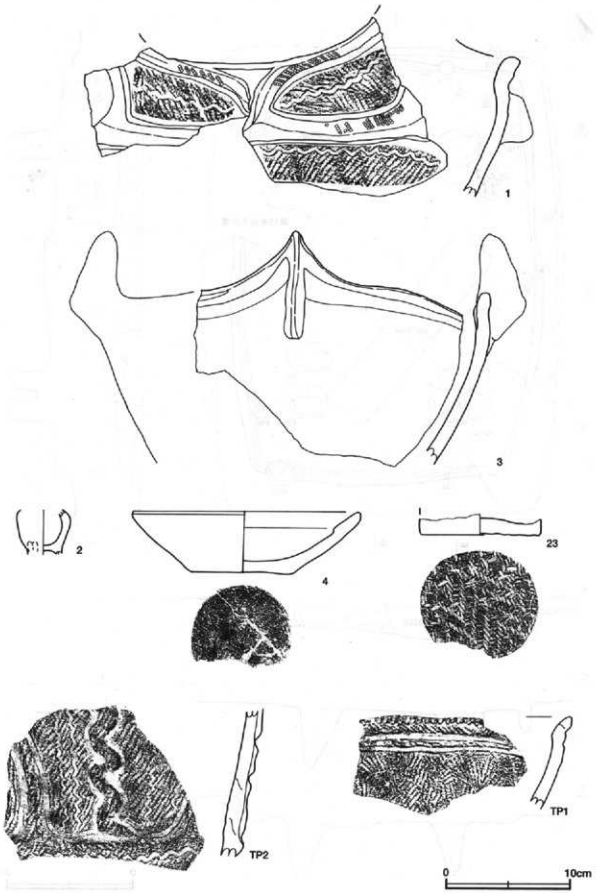
所見　時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表（第5～7図）

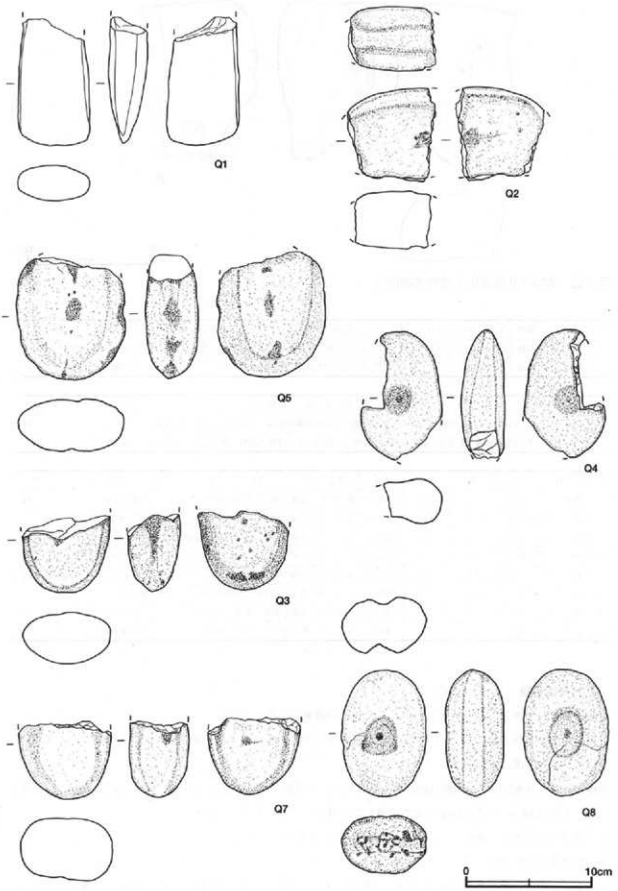
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	－	(11.4)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部は波状を呈し，隆帯区画内に沒L単節縄文，その上に波状沈線を施文	上段中層	15%	
2	縄文土器	ミニチュア	－	(3.6)	－	長石・雲母	灰褐	普通	胴部下端に指による調整痕，胴部半分に被熱	中層埋際	90%	PL37
3	縄文土器	深鉢	(30.8)	(18.9)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	L撚糸に4つの突起，口縁内部に稜をもつ，無文で内面がよく磨かれている	P8下層	10%	PL37



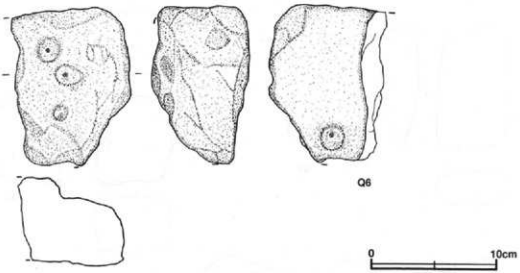
第4図　第28号住居跡実測図



第5図　第28号住居跡出土遺物実測図(1)



第６図　第28号住居跡出土遺物実測図(2)



第７図　第28号住居跡出土遺物実測図(3)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
4	縄文土器	浅鉢	18.1	5.1	8.0	長石・雲母・スコリア	にぶい橙	普通	無文で口縁内側に稜，内側・外側ともよく磨かれている	Ｐ８下層	85%　PL37
23	縄文土器	深鉢	－	(1.3)	9.5	長石・雲母・スコリア	にぶい橙	普通	底部網代痕	下層	5％

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP１	中期中葉	口縁部片でRL単節縄文を施文。口唇部にはは等間隔の刻み。口縁部に２本の平行沈線	覆土中	PL56
TP２	中期中葉	RL単節縄文を施文。隆帯を貼付し区画。区画内に波状隆帯を貼付。隆帯に沿って沈線	西側床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｑ１	磨製石斧	(10.3)	5.2	3.1	(263.0)	輝緑岩	基部欠損，定角式，両刃	下段西中層	PL58
Ｑ２	磨石	(7.4)	(7.1)	5.1	(379.0)	安山岩	３面に擦痕，２面被熱	下段東壁際下層	
Ｑ３	敲石	(6.1)	7.0	4.1	(222.0)	安山岩	４面に擦痕，先端部に敲打痕	上段北西床上	
Ｑ４	磨石	10.2	6.4	3.4	(254.0)	安山岩	４面に擦痕，表・裏面に凹み１か所ずつ	下段北側床上	PL58
Ｑ５	敲石	(9.9)	8.6	4.2	(521.0)	安山岩	４面に擦痕，表・裏面に凹み２か所ずつ	下段北側床上	PL58
Ｑ６	凹石	(12.6)	(9.5)	(7.3)	(988.0)	安山岩	凹みは表面に３か所，裏面に１か所	覆土中	
Ｑ７	磨石	(6.2)	7.3	4.7	(282.0)	安山岩	４面に擦痕，表裏とも被熱	下段西側下層	PL58
Ｑ８	凹石	10.1	6.2	4.6	399.0	安山岩	磨石を凹石，敲石に転用	上段西側下層	PL58

第33号住居跡（第８～12図）

位置　調査区で西部のＥ６a9区に位置し，台地上の南側に立地している。

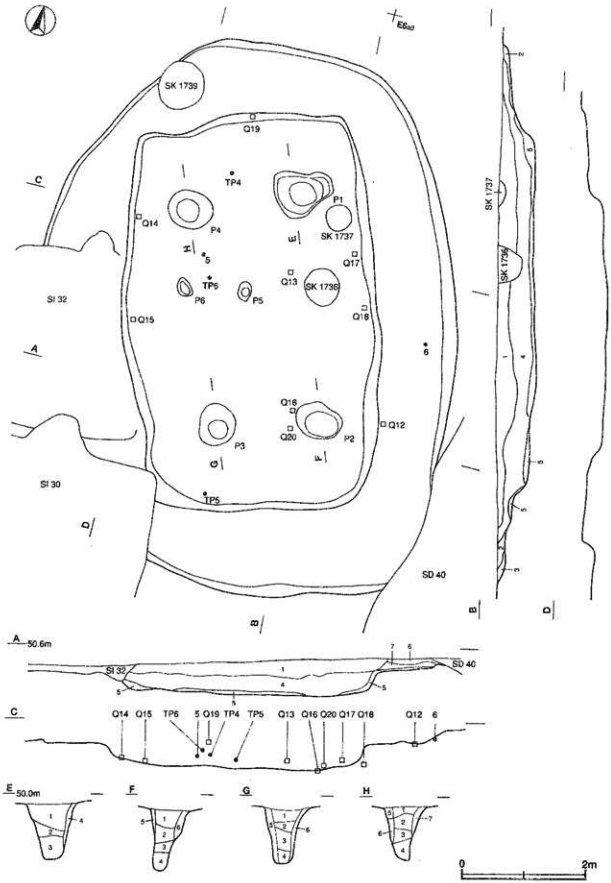
重複関係　南西部分を第30・32号住居に，北側を第1739号土坑に，東側を第1736・1737号土坑に，南東コーナー付近を第40号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸9.0m，短軸6.4mの隅丸長方形で，二段掘り込みの住居である。主軸方向は，N－17°－Wである。下段は30cm，上段は10cmの高さで緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。硬化している部分は特に認められなかった。

炉　炉は確認されなかった。

ピット　６か所。配列からＰ１～Ｐ４は，主柱穴と考えられる。主柱穴の深さは88～100cmで，覆土はしまりが弱く粘性が強い。その他のピットは径が小さく掘り込みも浅いことから，補助的なものとみられる。



第8図　第33号住居跡実測図

ピット土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	5	黒褐色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	6	黒褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック微量	7	黒褐色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ロームブロック少量			

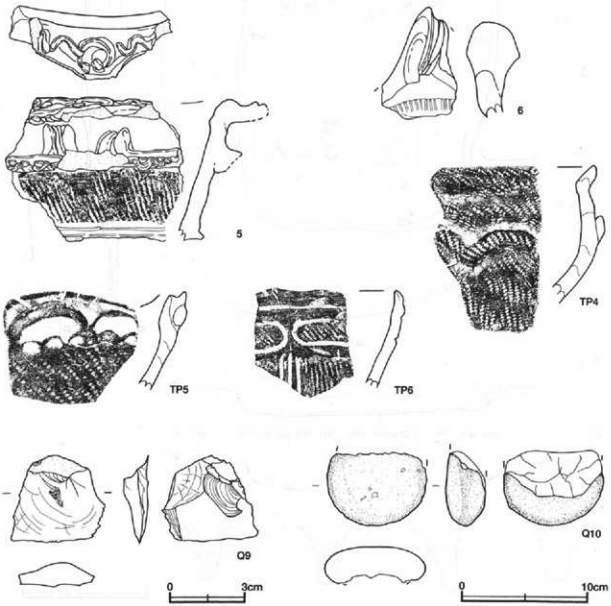
覆土　7層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

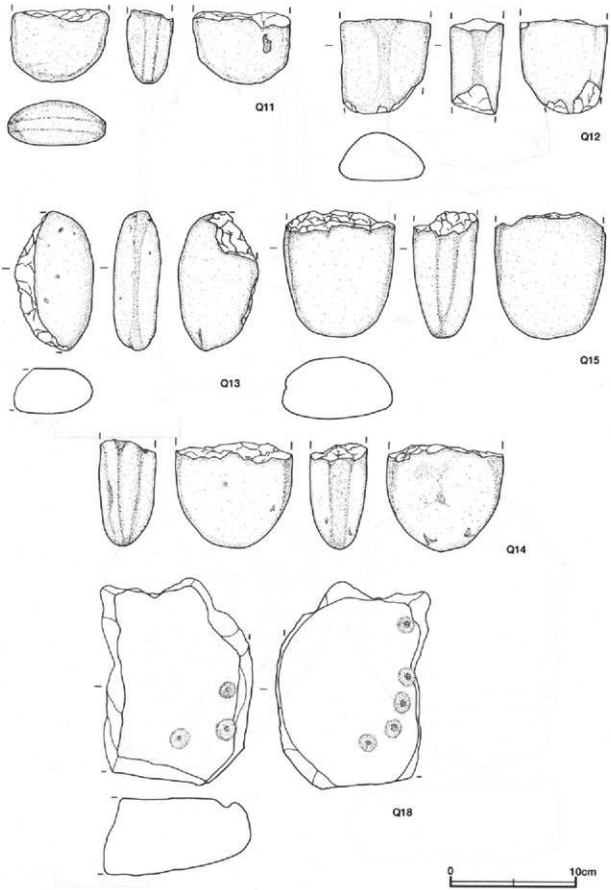
1	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2	黒褐色	ロームブロック少量	6	暗褐色	ローム粒子微量
3	極暗褐色	ローム粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
4	褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況　縄文土器片1429点，石器12点（凹石５，磨石６，剥片１）が下段の床面全体から出土している。縄文土器片の多くは，中層から出土している。５は下段の覆土中層から，６は上段の床面から出土している。石器の多くは，下段の床面から出土している。その他に須恵器片２点が出土しているが，覆土上層からであり後世の混入と考えられる。

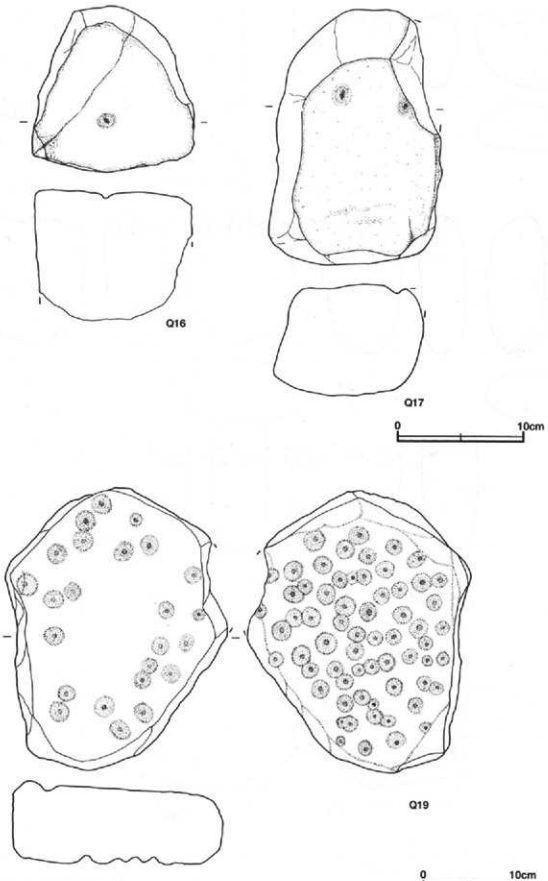
所見　本跡の時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



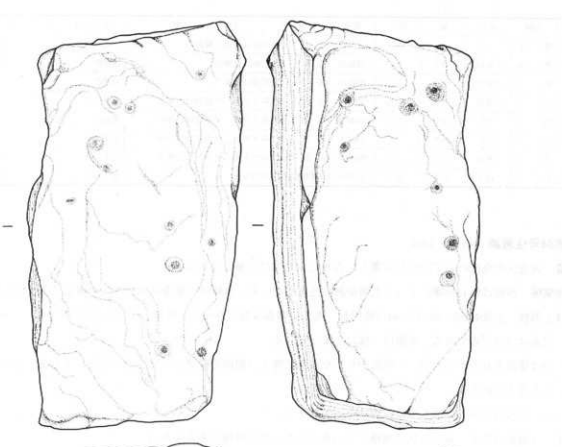
第９図　第33号住居跡出土遺物実測図(1)



第10図　第33号住居跡出土遺物実測図(2)



第11図　第33号住居跡出土遺物実測図(3)



第12図　第33号住居跡出土遺物実測図(4)

第33号住居跡出土遺物観察表（第９～12図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	－	(11.3)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部は隆帯区画内にRL単節縄文を施文,口唇部は平坦で,処行隆帯を貼付	下段中層	5％
6	縄文土器	深鉢 把手	－	(7.7)	－	長石・雲母	暗褐	普通	内側を丁寧に磨いてある。胴部との間は，爪形の押引文を施文	上段床面	5％

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP４	中期中葉	口縁部に連弧状の隆帯を貼付し，RL単節縄文を施文。内面は横方向に磨き	北側中層	PL56
TP５	中期中葉	口縁部に波状の隆帯を貼付し，ヘラで成形後に下部を指頭で押圧。胴部にはLR単節縄文を施文	南側中層	PL56
TP６	中期後葉	口縁部には薄い隆帯があり，内部を隆帯に沿った沈線文で区画し，区画内に縄文を施文。胴部には３本の沈線による懸垂文	中央部上層	PL56

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q９	剥片	3.0	3.8	0.9	11.0	チャート	片面調整	覆土中	
Q10	磨石	(6.0)	7.9	3.1	(190.0)	安山岩	使用面は両側面。被熱により一部赤変	覆土中	
Q11	磨石	(5.9)	7.8	3.7	(219.0)	安山岩	使用面は全側面。裏面被熱により一部黒変	覆土中	PL58
Q12	磨石	(7.6)	7.3	4.1	(316.0)	安山岩	使用面は全側面	中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　　徴	出土位置	備　考
Q13	磨　石	11.1	6.3	3.7	(329.0)	安 山 岩	使用面は両面と側面	中央下層	PL58
Q14	磨　石	(8.6)	9.4	4.4	(509.0)	安 山 岩	使用面は全側面	西壁際	PL58
Q15	磨　石	(10.2)	8.9	5.1	(639.0)	安 山 岩	使用面は両面	西壁際	
Q16	凹　石	(13.3)	(12.9)	(10.5)	(2390.0)	安 山 岩	凹み２か所，平坦部分に擦痕	南側床上	
Q17	凹　石	20.5	13.7	8.8	(3640.0)	安 山 岩	凹み２か所，平坦部分に擦痕	東壁際	
Q18	凹　石	22.2	16.3	8.3	4530.0	花 崗 岩	凹み８か所，平坦部分に擦痕	東壁際	
Q19	凹　石	29.9	23.5	8.9	(8040.0)	花 崗 岩	凹み90か所，平坦部分に擦痕	北上段床	PL59
Q20	凹　石	42.9	22.8	10.5	1720.0	黒雲母片岩	凹み18か所	南下段床	PL59

第84号住居跡（第13・14図）

位置　調査区中央部のＤ７h2区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　西側は第41号溝によって上層が掘り込まれている。南側は，調査区域外のため確認できなかった。

規模と形状　長径4.2m，短径1.6mの楕円形である。壁高は34～37cmで，外傾して立ち上がっている。

床　床面はほぼ平坦である。床面は一様にしまっている。

炉　炉は確認されなかったが，中央部からやや西側に焼土の範囲が確認できた。その付近に炉があったのではないかと考えられる。

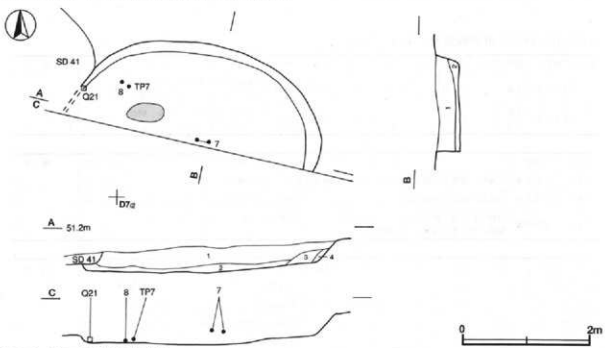
ピット　主柱穴とみられるものは，特に確認されなかった。

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

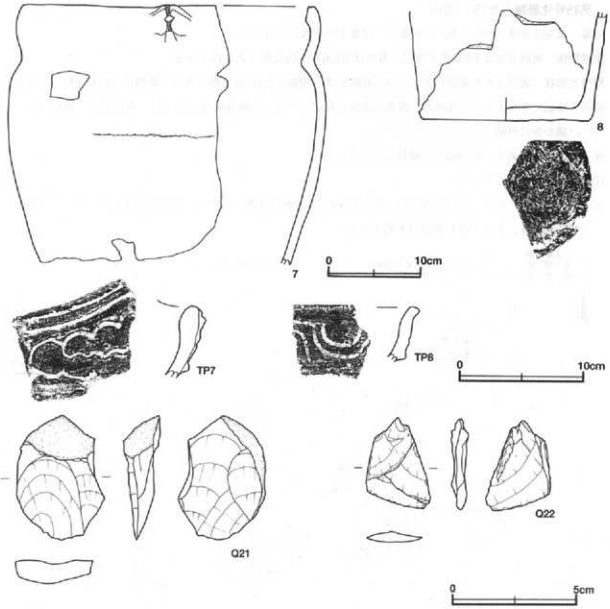
土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片96点，石器２点（剥片）が出土している。８は床面から出土している。Q21の剥片は，西側の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第13図　第84号住居跡実測図



第14図　第84号住居跡出土遺物実測図

第84号住居跡出土遺物観察表（第14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
7	縄文土器	深鉢	[31.4]	(28.1)	－	石英・長石・雲母・スコリア	にぶい褐	普通	無文，口縁部に2単位の突起貼付	中層	30%　PL37
8	縄文土器	深鉢	－	(8.9)	13.5	長石・雲母・スコリア	にぶい橙	普通	内外面とも磨き，底部に網代痕	床面	20%

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP7	中期中葉	口唇部には2本の平行沈線があり，隆起線で区画された内側にコンパス文を施文	西側床上	PL56
TP8	中期中葉	平行隆帯間に押引文を施文	覆土中	PL56

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	剥片	5.0	3.5	1.5	20.0	チャート	両面調整	西側床面	
Q22	剥片	3.7	2.6	0.7	4.9	チャート	先端に刃こぼれ状の剥離	覆土中	

第85号住居跡（第15～17図）

位置　調査区中央部のD７18区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　南西部分は第887号土坑に，東側は第886号土坑に掘り込まれている。

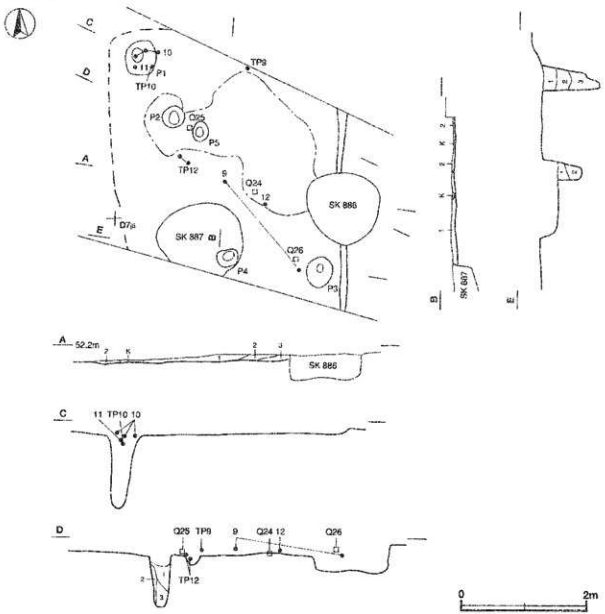
規模と形状　確認された範囲においては，長軸3.7m，短軸3.5mの長方形である。西側は，削平されているため範囲を確認できなかった。北側は，調査区域外に延びている。主軸方向は，N－３°－Wである。壁高は６～10cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。中央部分が硬化している。

炉　炉は確認されなかった。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ３の深さは，65～125cmで，床面の北西コーナー，中央部，南東コーナーと斜めに並んでいる。Ｐ４，Ｐ５も含め性格は明確である。

ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム・ブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム・ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム・ブロック少量



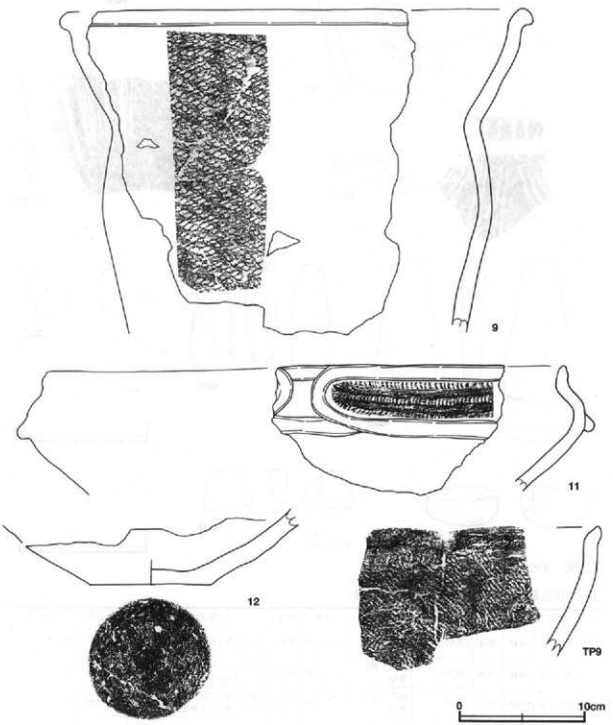
第15図　第85号住居跡実測図

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

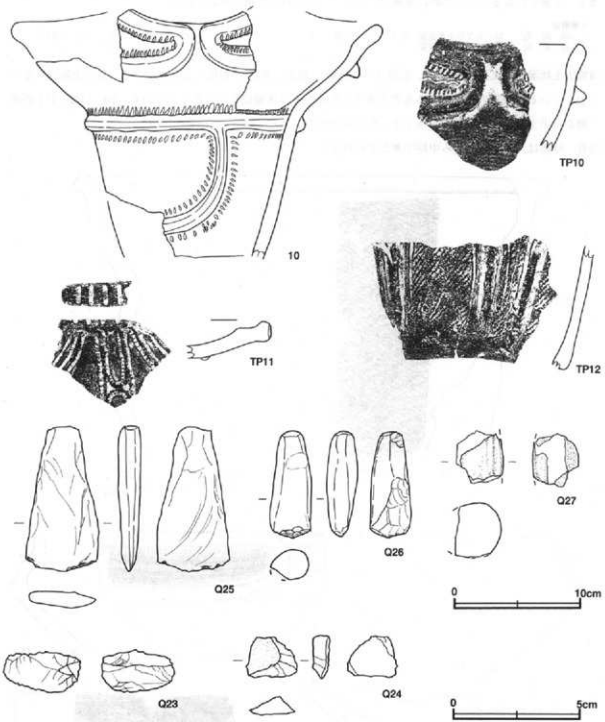
土層解説
1　暗　褐　色　　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　　ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片627点，石器5点（石斧2，磨石，剥片2）が出土している。その他に土師器片2点が出土しているが後世の混入によるものと考えられる。9は床面近くから出土している。10，11は，P1の覆土上層から出土している。石器の多くは，中央部分から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉と思われる。



第16図　第85号住居跡出土遺物実測図(1)



第17図　第85号住居跡出土遺物実測図(2)

第85号住居跡出土遺物観察表（第16・17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
9	縄文土器	深鉢	[36.1]	(25.9)	—	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	LR単節縄文施文	床面付近	30%
10	縄文土器	深鉢	[29.6]	(18.7)	—	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	内外面とも丁寧な磨き，隆帯に沿って押引の爪形文を施文	P 1 上層	30%
11	縄文土器	浅鉢	[41.2]	(10.0)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部を隆帯で区画し，隆帯の内側を中央に押引文を施文。胴部は無文	P 1 上層	20%
12	縄文土器	浅鉢	—	(4.9)	9.6	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	無文	床面付近	20%

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP9	中期中葉	LI線部にナデによる線溝があり，そのドに縄文が施文。内側は磨かれている。	中層	PL56
TP10	中期中葉	LI線部を隆帯で区画，隆帯の内側は隆帯に沿って透彫刺突文，中央に沈線を施文	P I 上層	PL56
TP11	中期中葉	波状口縁，波頂部は平坦で刻みが入っている。胴部は浅い隆線で区画し，隆線に沿って押引文が施文	覆土中	PL56
TP12	中期中葉	LR単節文地に隆帯，その両脇に沈線文が施文	中央部床直	PL56

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q23	磨	斧	1.6	3.0	—	3.0	チャート	両面調整	覆土中	
Q24	磨	斧	1.7	2.6	0.6	2.2	石　英	一部自然面，先端に刃こぼれ状の剥離	中央床面	
Q25	石	斧	11.6	5.7	1.7	14.0	緑泥片岩	先端に刃こぼれ状の剥離，打製擦形	中央床面	PL58
Q26	石	斧	8.4	3.3	2.5	94.0	安 山 岩	基端と刃に挽いくびれ，磨製定角式	南側床面	PL58
Q27	磨	石	(3.8)	(4.1)	4.5	(77.0)	凝 灰 岩	3面に擦痕	覆土中	

第89号住居跡（第18・19図）

位置　調査区中央部のD 7J3区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　南西コーナー部は，第90号住居跡の上に床が構築されている。東側は第1714号土坑に掘り込まれている。南側は，本跡の上に床を貼って第88号住居が構築されている。

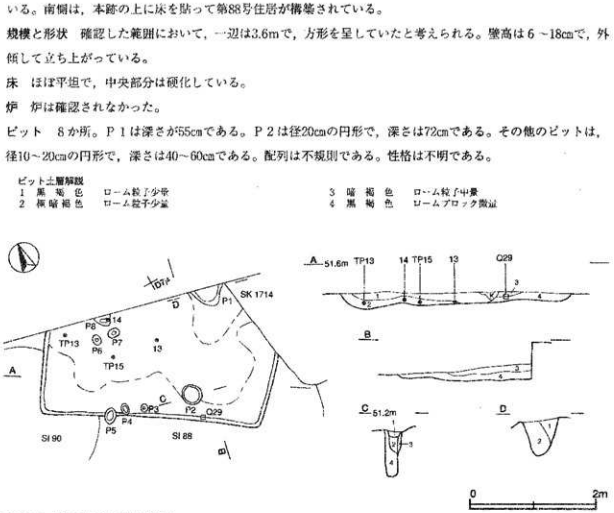
規模と形状　確認した範囲において，一辺は3.6mで，方形を呈していたと考えられる。壁高は6～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部分は硬化している。

炉　炉は確認されなかった。

ピット　8か所。P 1は深さが55cmである。P 2は径20cmの円形で，深さは72cmである。その他のピットは，径10～20cmの円形で，深さは40～60cmである。配列は不規則である。性格は不明である。

ピット土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子少量
2　極暗褐色　　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　　ロームブロック微量



第18図　第89号住居跡実測図

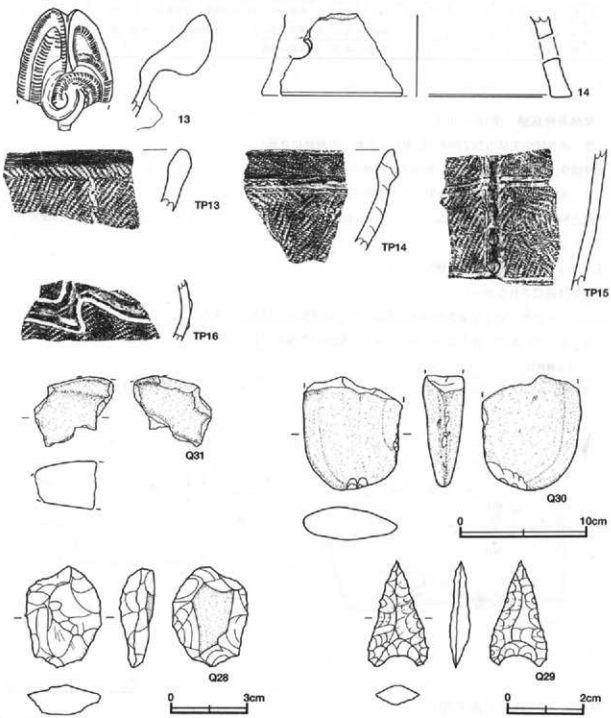
覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック微量（しまりが強い）	3	黒　褐　色	ロームブロック微量
2	暗 褐 色	ロームブロック微量	4	暗　褐　色	ロームブロック・底沼パミス微量

遺物出土状況　縄文土器片737点，石器4点（石鏃，剥片，磨石，石斧）が出土している。13，14は，第2層から出土している。Q29の石鏃は，南壁際から出土している。その他に，土師器片25点，須恵器片2点，磁器片1点が出土しているが，覆土上層から出土しており後世の混入によるものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第19図　第89号住居跡出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
13	縄文土器	深鉢 把手	－	(9.1)	－	長石・雲母・スコリア	にぶい橙	普通	隆帯内側に押引の爪形文，隆帯の左側はナデの後に押引文	床面	5％ PL37
14	縄文土器	器台	－	(5.5)	(24.6)	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	無文，内外面ともミガキ，脚部に1孔	下層	10％

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP13	中期中葉	口唇部は磨いてあり，口近部にRL単節文を施文。口近部下から胴部にかけては，結節をもつRL単節縄文を施文	下層	PL56
TP14	中期中葉	口近部下端に，二本の半截元紐。口近部に縄文を施文。口近部から胴部にかけてRL単節縄文を施文	覆土中	PL56
TP15	中期中葉	胴部に隆帯状をした押圧垂下する隆帯。隆帯をはさんで左右に断く押引いた沈線がめぐる。地文は，RL単節縄文	下層	
TP16	中期中葉	RL単節縄文を施文とし，波状の隆起線の周囲に沿って沈線を巡らす。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q28	剥片	4.0	3.0	1.4	16.0	チャート	両面剥離，自然面が裏面に残る	中層	
Q29	石鏃	2.8	1.6	0.5	1.5	チャート	基部の抉り深く，側縁は弧線	焼土下層	
Q30	石斧	(9.0)	7.9	3.3	(268.0)	安山岩	自然石の転用，石鹸部と先端に敲打痕	覆土中	PL58
Q31	磨石	(5.7)	(6.3)	4.0	(151.0)	安山岩	3面に擦痕	中層	

第90号住居跡（第20図）

位置　調査区中央部のD7j3区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　東側の部分では，本跡が埋まった後に，第88号住居と第89号住居が構築されている。

規模と形状　長径2.8m，短径2.7mの円形である。壁高は，36～48cmではほぼ垂直に立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部分は硬化している。

炉　炉は確認されなかった。

ピット　4か所。配列から主柱穴と思われるのはP1～P3である。P1，P2は径30cmの円形で，深さはP1が44cm，P2が55cmである。P3は長径が25cmの楕円形で深さは34cmである。P4については性格不明である。

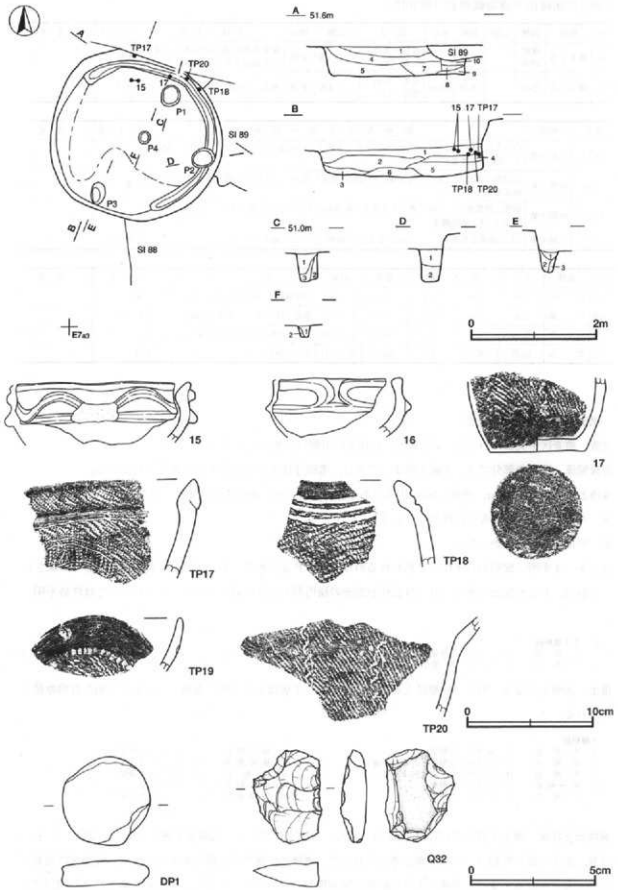
ピット土層解説
1 黒褐色　ローム粒少量
2 黒褐色　ローム粒少量，焼土ブロック微量
3 暗褐色　ローム粒少量，焼土ブロック微量

覆土　10層からなる。第5～10層は人為堆積で，第1～4層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1 黒褐色　ローム粒微量
2 黒褐色　ローム粒微量（しまりが強い）
3 黒褐色　ローム粒・炭化粒子微量
4 褐暗褐色　ローム粒微量
5 黒褐色　ローム粒微量
6 極暗褐色　ローム粒微量
7 暗褐色　ローム粒少量
8 暗褐色　ローム粒微量
9 極暗褐色　ローム粒子少量
10 褐暗褐色　ローム粒少量

遺物出土状況　縄文土器片271点，石器1点（剥片）が出土している。北側第1層から集中して出土している。

所見　出土土器の時期は，中期中葉と考えられるが，遺物が中層から上層にあることから，廃絶後の投棄の可能性が考えられる。また，本跡の上に第89号住居が構築されていることから，本跡が廃棄された時期は第89号住居が構築される以前と考えられる。



第20図　第90号住居跡・出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考	
15	縄文土器	深鉢	(14.2)	(4.9)	—	長石・雲母	橙	普通	口縁部の2本の平行する隆帯間に波状の隆帯を貼付。無文	北側上層	10%	PL37
16	縄文土器	深鉢	(10.4)	(4.7)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部は、隆帯貼付後に強いナデ	覆土中	15%	
17	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	7.5	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部にLR単節文施文	上層	20%	

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP17	中期中葉	口縁部に隆帯を貼付、RL単節縄文を施文。波状と胴部の間に平行沈線と、胴部に沈線による画線を施用	北側中層	PL57
TP18	中期中葉	口縁部に沿って3本の平行沈線が巡り、RL単節縄文を施文	北側中層	PL57
TP19	中期中葉	口縁部と内面はナデによる整形。胴部には縄文が施文。胴部と口縁部との間に押引文を施文	覆土中	PL57
TP20	中期中葉	RL単節縄文を施文とし、結節縄文を縦位に施文	北側上層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
DP1	土器片円盤	3.5	3.5	0.9	14.0	縄文時代中期の土器片を素材、円形、周縁を整形	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q32	剥片	3.7	2.8	1.1	11.0	チャート	両面剥離で自然面が残る	覆土中	

(2) 土 坑

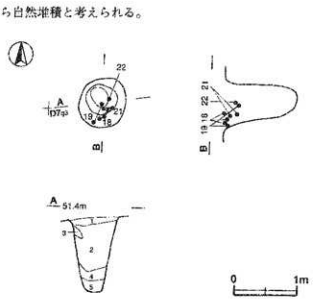
第190号土坑（第21・22図）

位置 調査区中央部のD7f3区に位置し，台地上の北側に立地している。

規模と形状 長径0.8m，短径0.7mの楕円形で，主軸方向はN－22°－Eである。深さは114cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

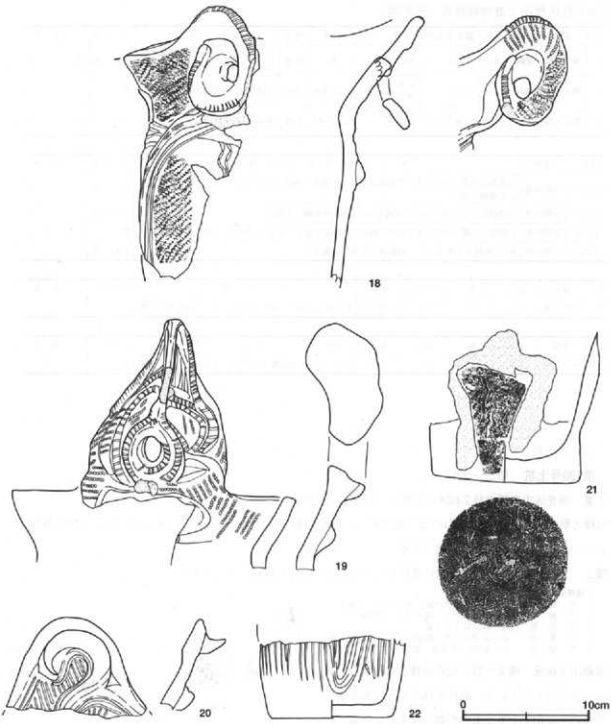
土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
3 黒褐色 ロームブロック少量
4 黒褐色 ロームブロック・流出パミスブロック少量
5 黒褐色 ロームブロック少量，流出パミスブロック微量



第21図 第190号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片32点が覆土中層から上層にかけて出土している。破片がほとんどであるが，特徴のある把手をもつものが数点出土している。

所見 上器は覆土中層から上層にあるため，本跡廃絶からやや遅れて投棄されたものと考えられる。廃絶の時期は，中期中葉以降と考えられる。



第22図　第190号土坑出土遺物実測図

第190号土坑出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考	
18	縄文土器	深鉢	[20.5]	(22.4)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	RL単節縄文を施文，胴部に結節縄文と上下方向の波状沈線，鼓鍵状の把手	中層	20%	PL38
19	縄文土器	深鉢	[18.4]	(20.0)	－	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	把手の隆帯に刻み目，RL単節縄文，胴部には一部結節縄文	中層	5%	PL37
20	縄文土器	深鉢 把手	－	(7.3)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	把手の底面部の厚い隆帯に沿って二本の沈線，沈線で区画された中に短沈線を施文	覆土中	5%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
21	縄文土器	深鉢	—	(12.4)	11.8	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部の網代痕は，ナデによる成形のため目立たない。縄文を沈線で区画，中央に波状沈線	中層	10%
22	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	9.9	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	胴部にV字に開く隆帯が3単位，隆帯の間は櫛描き沈線を上下に施文	中層	30% PL37

第338号土坑（第23図）

位置　調査区中央部のE７a8区に位置し，台地上の南側に立地している。

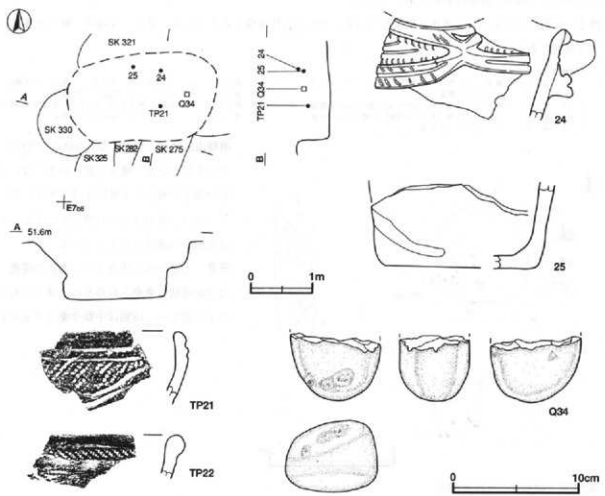
重複関係　第275・282・325・330号土坑によって削平され，開口部分の形状が確認できなかった。また，北側は，第321号土坑に掘りこまれているため，壁の立ち上がりが確認できなかった。

規模と形状　確認できた範囲では，おおよそ長径2.5m，短径1.4mの楕円形で，主軸方向はN－83°－Eである。深さは92cmで，底面は平坦である。壁はやや内傾気味に立ち上がっている。

覆土　他の遺構に掘りこまれているため堆積状況は明確でない。

遺物出土状況　縄文土器片80点，磨石１点が出土している。縄文土器片の多くは，覆土上層から中層にかけて出土している。図示した遺物は，中層から出土していて，本跡が廃棄された後に流れ込んだものと考えられる。

所見　時期は，出土土器と遺構の形状から，中期中葉と考えられる。



第23図　第338号土坑・出土遺物実測図

第338号土坑出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
24	縄文土器	深鉢	－	(7.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	波状口縁に隆帯を厚く貼付し隆帯上に爪文を施文，隆帯に沿って押引文が施文	中層	10%
25	縄文土器	深鉢	－	(7.0)	[11.7]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	無文，底部はナデ成形，胴部下端に一部磨き	中層	10%

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP21	中期中葉	平行する沈線で口縁部は区画され，区画内にLR単節縄文を充填	中層	
TP22	中期中葉	口唇部に隆帯を貼付し，隆帯上にRL単節縄文を施文。隆帯に沿ってナデ	覆土中	

番号	器種	材	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q34	磨石	石	(5.5)	7.4	5.7	(308.0)	安山岩	全面に擦痕，敲打による剥離が3か所	中層	

第379号土坑（第24～26図）

位置　調査区中央部のE 7 b7区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　東側の部分で第1400号土坑を掘り込み，開口部分を第283・324・377号土坑に掘り込まれている。

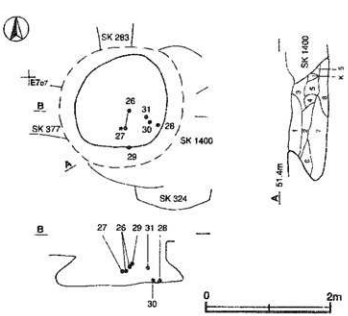
規模と形状　確認できる範囲でのおよその規模は，長径2.1m，短径2.0mの円形で，深さは64cmである。

底面は平坦であり，断面は袋状を呈している。

覆土　8層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第3～5層は，壁の崩落による堆積層である。

土層解説

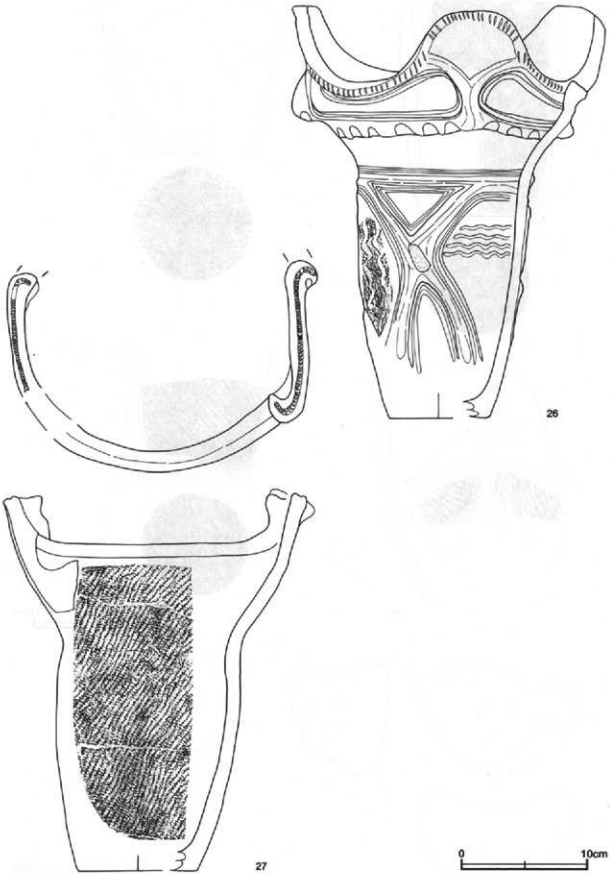
1	暗褐色	焼沼パミスブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・焼沼パミス微量
2	黒褐色	焼沼パミス少量，ロームブロック・焼土ブロック微量	6	黒褐色	ロームブロック・焼沼パミス微量
3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・焼沼パミス少量	7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・焼沼パミス微量
4	黒褐色	ロームブロック微量	8	黒褐色	ロームブロック・焼沼パミス微量



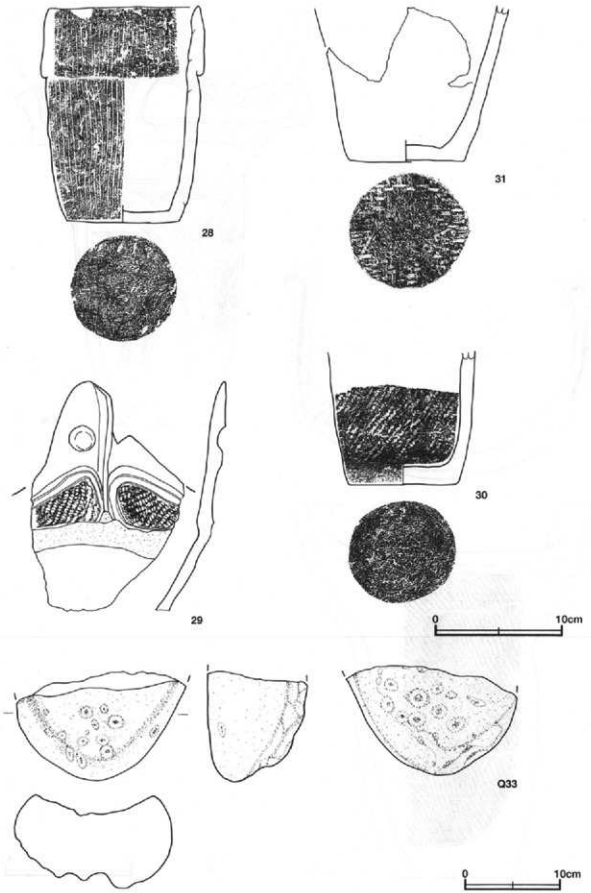
第24図　第379号土坑実測図

遺物出土状況　縄文土器片239点，凹石1点が出土している。縄文土器片の多くは，南側の覆土中層から下層にかけて出土している。28は，底面付近から横位で出土し，30は底面から逆位で出土している。

所見　上器の出土状況から，本跡の廃絶とほぼ同時期に遺棄されたものと考えられる。出土土器から，時期は中期中葉と考えられる。



第25図　第379号土坑出土遺物実測図(1)



第26図　第379号土坑出土遺物実測図(2)

第379号土坑出土遺物観察表（第25・26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考	
26	縄文土器	深鉢	23.2	32.8	[8.6]	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部に山形把手，隆帯区画に沿って二本の平行沈線。頸部には無文帯，胴部X字隆帯を波状沈線	中層	90%	PL38
27	縄文土器	深鉢	23.6	29.9	[9.2]	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部が平坦でS字状に押引文施文の把手が二対，LR単節縄文を口縁部から胴部にかけて施文	中層	85%	PL28
28	縄文土器	深鉢	12.0	17.3	8.8	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	公鉢をナデ整形後，櫛歯状工具によって縦位に沈線を施文	底面付近	100%	PL37
29	縄文土器	深鉢	－	(18.0)	－	石英・長石・雲母	褐	普通	大きな把手の隆帯ナデ整形，口縁部を区画する隆帯に沿った二本の平行沈線があり，RL単節縄文を充填	中層	10%	
30	縄文土器	深鉢	－	(10.5)	8.7	石英・長石・雲母・スコリア	にぶい褐	普通	LR単節縄文地文を施文，下端はナデによって縄文を消してある。底面は丁寧なナデ整形	底面	30%	
31	縄文土器	深鉢	－	(12.4)	9.1	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	底部に網代痕，胴部は無文，胴部下端は削り成形後焼き	中層	5%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q33	凹石	(11.6)	(17.9)	10.6	(1110.0)	花崗岩	石面としても使用，28か所に凹みあり	下層	PL59

第448号土坑（第27・28図）

位置　調査区中央部のF7c8区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　第1711・1366号土坑，第1号井戸によって北側の大部分が掘り込まれている。全体的に削平されており，底面付近しか確認できなかった。

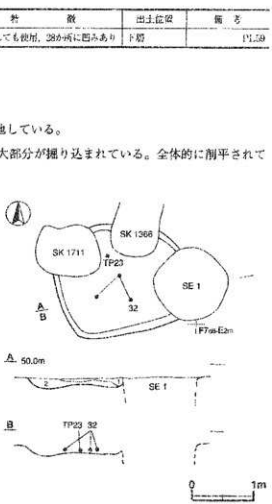
規模と形状　確認できた範囲では，長径2.1m，短径1.9mの楕円形で，主軸方向はN－67°－Eである。深さは10～15cmである。底面は平坦で，緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　2層からなる。削平されているため堆積状況は明確でない。鹿沼層を掘り込んでいる。

土層解説
1　黒　褐　色　鹿沼パミスブロック少量，ローム・ブロック・焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム・ブロック・鹿沼パミスブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片44点が底面付近から出土している。32は底面近くから出土しており，TP23と同一個体と考えられる。

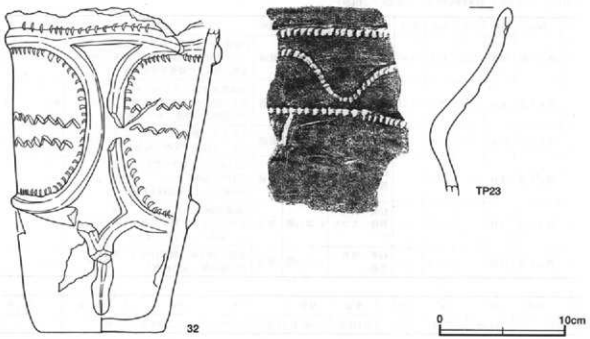
所見　時期は，出土土器と遺構の形状から中期中葉と考えられる。



第27図　第448号土坑実測図

第448号土坑出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考	
32	縄文土器	深鉢	－	(26.0)	10.2	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	隆帯で胴部は3つに区画され，隆帯に沿って細太の押引爪形文を施文。区画内に波状沈線が二本，底部はミガキ後ナデ	底面付近	70%	PL38



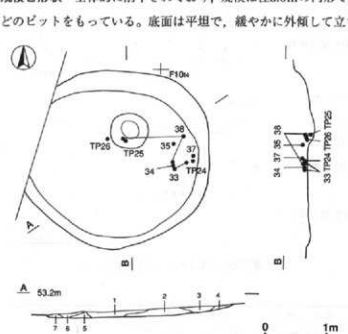
第28図　第448号土坑出土遺物実測図

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP23	中期中葉	口縁部を幅広の角押文で区画，区画内に波状の角押文を施文	底面	PL57

第828号土坑（第29～31図）

位置　調査区東部のF10f3区に位置し，台地上の南側に位置している。

規模と形状　全体的に削平されており，規模は径3.0mの円形で深さは10cmである。北側に径60cm，深さ10cmほどのピットをもっている。底面は平坦で，緩やかに外傾して立ち上がっている。



第29図　第828号土坑実測図

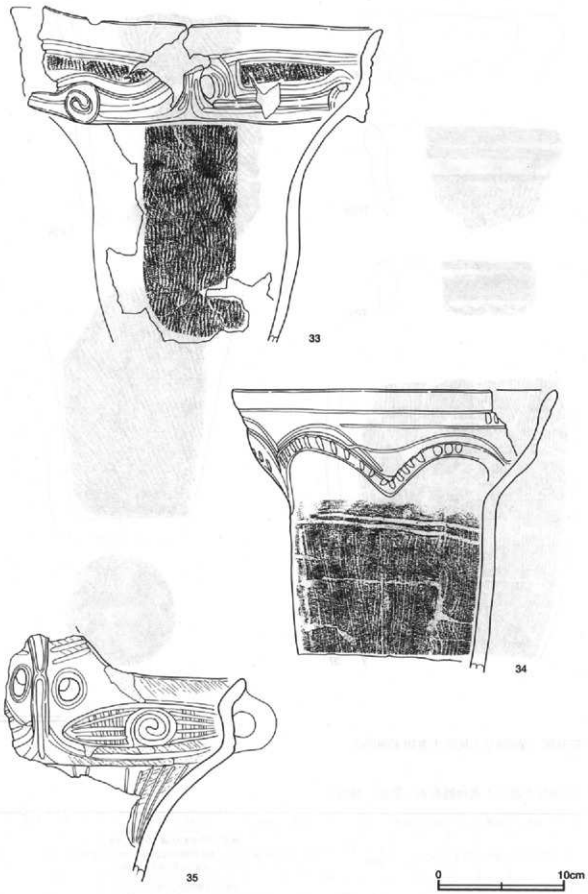
覆土　7層からなる。全体的に削平されているために堆積状況は明確でない。

土層解説

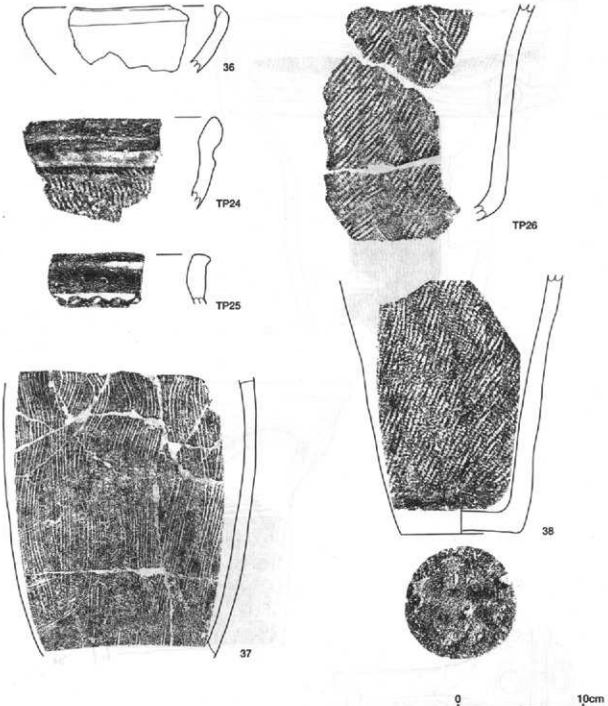
1	暗褐色	ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック・鹿沼パミスブロック・炭化物少量
3	褐色	ロームブロック少量，炭化物微量
4	褐色	ロームブロック少量
5	褐色	ロームブロック少量，鹿沼パミスブロック微量
6	暗褐色	ロームブロック少量，鹿沼パミスブロック微量
7	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片119点が，底面付近から出土している。33，34，35と大きな破片が多いことから，遺構が廃棄される時点で投げ込まれたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器と遺構の形状から，中期後葉と考えられる。



第30図　第828号土坑出土遺物実測図(1)



第31図　第828号土坑出土遺物実測図(2)

第828号土坑出土遺物観察表（第30・31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考	
33	縄文土器	深鉢	[29.4]	(26.9)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部の隆帯区画内に縄文を充填し区画に沿って沈線,胴部状の突起をもち,それを中心にした対称な位置に隆帯による渦巻文	東側壁際	50%	PL38
34	縄文土器	深鉢	[25.8]	(22.5)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁には連弧状に刻みの入った隆帯。頸部と胴部の間に沈線。胴部には縦位に条線文を施文	下層	40%	PL38

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
35	縄文土器	深鉢	－	(19.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部は隆帯で区画され，眼鏡状の突起をもつ。隆帯内に羽巻文を中心に縦横に沈線が施文。隆帯上に縄文が施文してあるが，磨耗のため節は不明確	東側埋際	20%
36	縄文土器	深鉢	[14.6]	(5.4)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	無文，内側に稜	覆土中	20%
37	縄文土器	深鉢	－	(22.0)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部の上から下へ曲線的な擬描条縄文，胴部下端はナデ成形	東側埋際	40%
38	縄文土器	深鉢	－	(20.4)	9.5	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部にLR単節縄文を施文，下端は削り後ナデ成形，底部は削り後に補なナデ	東側埋際	40% PL37

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP24	中期後葉	口縁に幅広の平行沈線。胴部には縄文が施文してあるが，磨耗のため節は不明確	東側下層	
TP25	中期後葉	口辺部はナデ整形で内側に稜。口辺部に沿って刺突文がめぐる	北側ピット	
TP26	中期後葉	胴部に結節をもつLR単節縄文を施文	下層	

第832号土坑（第32図）

位置　調査区東部のＦ10g3区に位置し，台地上の南側に立地している。

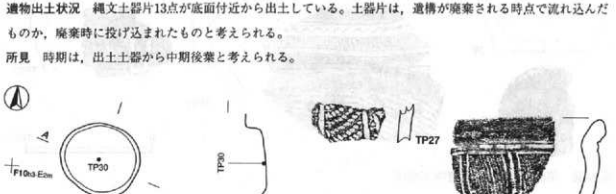
規模と形状　全体的に削平されており，規模は径1.2mの円形で，深さは30cmである。底面は平坦で，緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　２層からなる。全体に削平されているため堆積状況は明確でない。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・底沼パミスブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片13点が底面付近から出土している。土器片は，遺構が廃棄される時点で流れ込んだものか，廃棄時に投げ込まれたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。



第32図　第832号土坑・出土遺物実測図

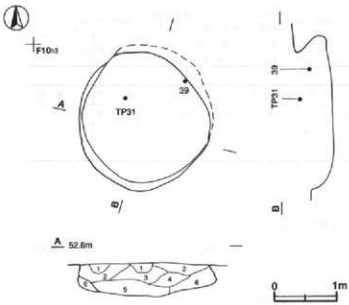
第832号土坑出土遺物観察表（第32図）

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP27	中期後葉	単節縄文を地文とし，沈線による懸垂文で区画	覆土中	
TP28	中期後葉	LR単節縄文を施文	覆土中	
TP30	中期後葉	燃糸文を地文とし，半截竹管による平行沈線で，口縁部を区画	中央底面	PL57

第833号土坑（第33・34図）

位置　調査区東部のF10h3区に位置し，台地上の南側に立地している。

規模と形状　削平されているために開口部分は確認できなかった。確認できた範囲では，長径2.5m，短径2.3mのほぼ円形で，深さは50cmである。断面は袋状を呈し，内傾して立ち上がっている。底面は平坦である。



第33図　第833号土坑実測図

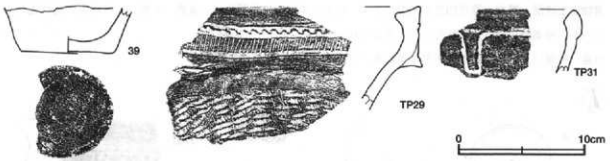
覆土　6層からなる。第5・6層は自然堆積で，その他は人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2	暗	褐	色	砂粒少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3	褐		色	ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
4	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子少量
5	黒	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
6	褐		色	ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片200点が出土している。土器片の多くは，中層から上層にかけて出土している。図示した遺物は，中層から出土している。遺構が廃棄された後，投げ込まれたものと考えられる。

所見　出土土器と遺構の形状から，時期は中期中葉と考えられる。



第34図　第833号土坑出土遺物実測図

第833号土坑出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
39	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	7.5	長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部下端は無文	北東側壁際	5％

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP29	中期中葉	口縁部には沈線間交互刺突による連続コの字状文と縦短沈線，RL単節縄文を縦方向に施文	覆土中	PL57
TP31	中期中葉	口縁部はナデ，内側に稜，口近部に沈線施文	中央部中層	PL57

第834号土坑（第35・36図）

位置　調査区東部のＦ10h4区に位置し，台地上の南側に立地している。

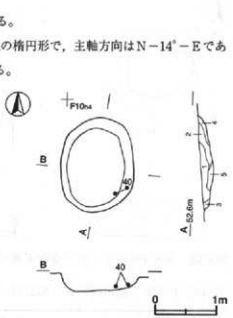
規模と形状　全体的に削平されており，規模は長径1.6m，短径1.2mの楕円形で，主軸方向はＮ－14°－Ｅである。深さは30cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

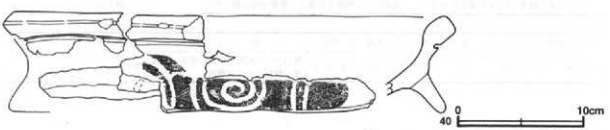
土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・底沼パミスブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量，鹿沼パミスブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片34点が，底面付近から出土している。土器片は，遺構が廃棄された時点で流れ込んだものと考えられる。

所見　出土土器から，時期は中期後葉と考えられる。



第35図　第834号土坑実測図



第36図　第834号土坑出土遺物実測図

第834号土坑出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備　考
40	縄文土器	深鉢	[34.6]	(8.0)	－	長石・雲母	浅黄	普通	口辺部直線下に鍔状の隆帯，鍔状隆帯の上には渦巻文を描く	南東コーナー底面	5％

第844号土坑（第37図）

位置　調査区東部のＦ10h6区に位置し，台地上の南側に立地している。

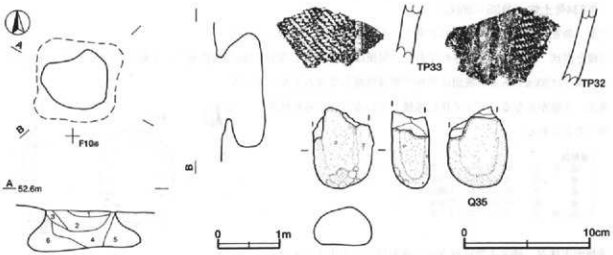
規模と形状　削平されているため，開口部分は明確でない。底面は1.4m四方の方形であり，深さは70cmである。断面は袋状を呈し，内傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土　6層からなる。含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片38点，敲石１点が出土している。覆土中からの出土で，廃棄時に投げ込まれたものと考えられる。

所見　出土土器と遺構の形状から，中期後葉と考えられる。



第37図　第844号土坑・出土遺物実測図

第844号土坑出土遺物観察表（第37図）

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP32	中期後葉	RL単節縄文を地文とし，隆帯による懸垂文があり，微隆帯に沿って浅く沈線を施文	覆土中	
TP33	中期後葉	LR単節縄文を地文とし，沈線による懸垂文を施文。懸垂文間は擦り消し	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q35	敲石	(6.4)	4.8	3.0	(120.0)	安山岩	磨石からの転用で全面に擦痕。先端部に投打による剥離痕	覆土中	

第1400号土坑（第38・39図）

位置　調査区中央部のE７b7区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　西側は第379号土坑に掘り込まれており，開口部分も第274・324号土坑に削平されている。

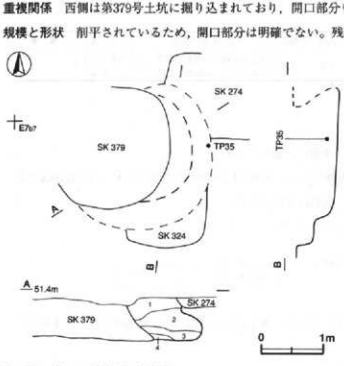
規模と形状　削平されているため，開口部分は明確でない。残存する底面は平坦で，長径約2.4m，短径約0.7mしか確認できなかった。深さは64cmである。断面は袋状で内傾して立ち上がっている。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

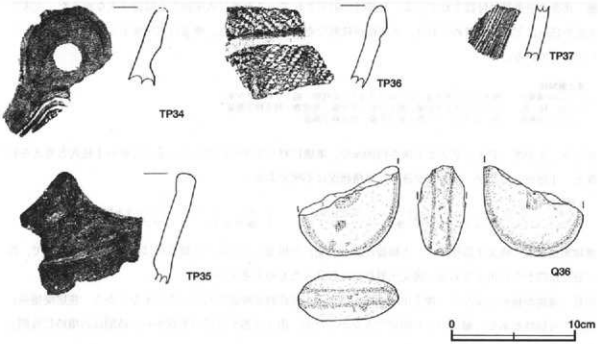
土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・腐沼パミス少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　灰　褐　色　ロームブロック・腐沼パミス少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片87点，磨石１点が出土している。覆土中からの出土で，廃棄時に投げ込まれたものと考えられる。

所見　出土土器と遺構の形状から，時期は中期中葉と考えられる。



第38図　第1400号土坑実測図



第39図　第1400号土坑出土遺物実測図

第1400号土坑出土遺物観察表（第39図）

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP34	中期中葉	把手部分は中央部に円形の凹み。口縁部はRL単節縄文に平行沈線を施文	覆土中	
TP35	中期中葉	無文，内側に稜	東側下層	
TP36	中期中葉	口辺部と胴部にRL単節縄文を施文，口辺部に太沈線	覆土中	
TP37	中期中葉	内側が丁寧に磨かれている。胴部には条線文を施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	磨石	(7.3)	8.1	4.0	(212.0)	安山岩	全面に擦痕，両面の中央部に凹みが見られることから，凹石としても使用した可能性あり	覆土中	PL58

2　古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構としては竪穴住居跡14軒，土坑３基が確認された。以下，確認された遺構と遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第１号住居跡（第40図）

位置　調査区のほぼ中央部Ｅ６j0区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　西側を第41号溝に掘り込まれている。また，北東側を第２号住居に，中央部を第３号井戸に，南壁を第２号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　長軸は3.3mで，短軸が最大で2.7mのみ確認され，方形または長方形と考えられる。主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁高は４cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は，南壁と東壁で確認された。

竈　北壁の中央部に付設されている。袖部は，削平されているために火床面しか確認できなかった。火床部は床面を15cmほど掘りくぼめており，火床面が被熱で赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・粘土ブロック少量
2	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量
3	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土粒子中量，粘土粒子微量

ピット　2か所。P 1，P 2とも深さ約20cmで，東壁に対して平行に並んでいることから主柱穴と考えられる。

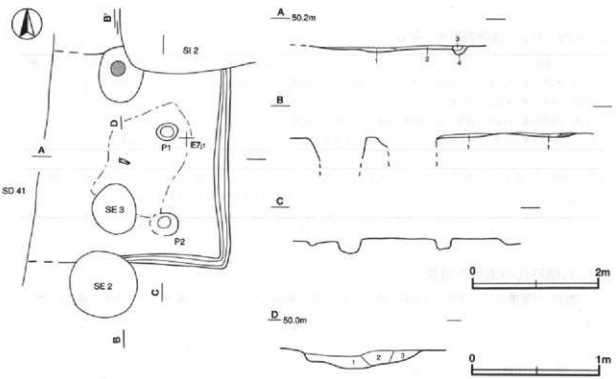
覆土　4層からなるが，堆積層が薄く，堆積状況は不明である。

土層解説

1	黒	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量	3	黒	色	ロームブロック少量
2	黒	色	ロームブロック中量，焼土ブロック微量	4	極暗褐色		ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片７点，土師器片20点（甕）が出土している。土師器片はすべてが甕の細片で，覆土下層や壁際からの出土である。縄文土器片は流れ込んだものと考えられる。

所見　遺物が極めて少なく，覆土中や床面から焼土や炭化材が確認されていることなどから，住居廃絶後に焼失した可能性がある。細片のため図示できなかったが，出土土器や住居の形状から，時期は古墳時代後期と考えられる。



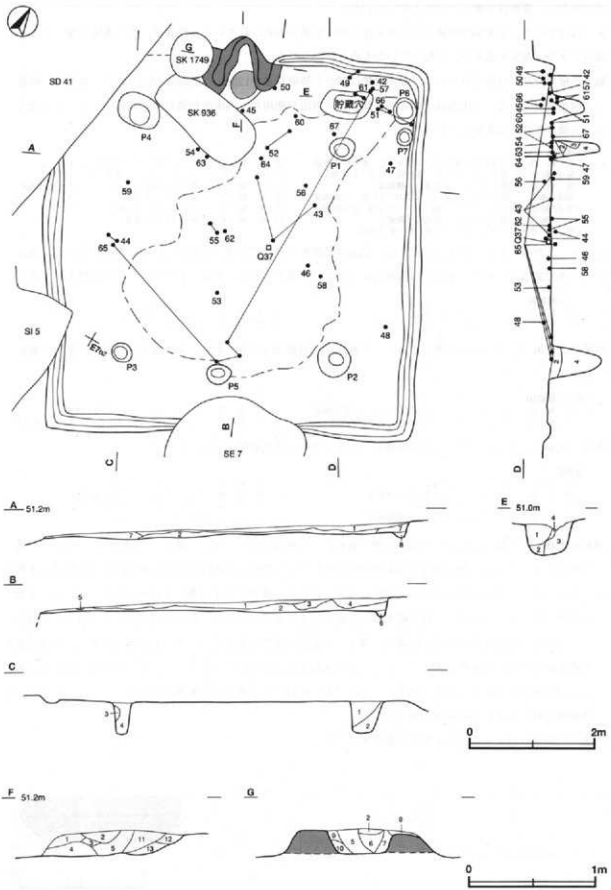
第40図　第１号住居跡実測図

第６号住居跡（第41～44図）

位置　調査区中央部のＥ７a2区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　北西側を第41号溝に，南西側を第5号住居に，南壁中央部を第７号井戸に掘り込まれている。また，竈の南側を第936号土坑に，竈の西側を第1749号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸，短軸ともにほぼ６ｍの方形で，主軸方向はＮ－28°－Ｗである。壁高は７～31cmで，北壁は



第41図　第６号住居跡実測図

ほぼ直立し，東壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，北東部の貯蔵穴から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は，他の遺構に掘り込まれて確認できない部分もあるが，全周していたものと推測される。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで123cm，袖部幅122cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し，火床面が被熱で赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ちあがっている。

竈土層解説

1	暗　褐　色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	8	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子・小礫微量
2	極暗褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量	9	褐　　色	ロームブロック・焼土ブロック微量
3	暗　褐　色	焼土小ブロック少量，小礫微量	10	暗　褐　色	焼土粒子中量，ロームブロック・砂粒微量
4	極暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量	11	黒　褐　色	焼土ブロック少量
5	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量	12	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量
6	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	13	暗　褐　色	焼土ブロック微量
7	褐　　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量			

ピット　7か所。P１～P４は，深さ50～83cmで配列から主柱穴と考えられる。P５は南壁寄りの竈に向かい合う位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P６，P７については性格不明である。

ピット土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック微量	3	黒　褐　色	炭化粒子少量，ロームブロック微量
2	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量	4	黒　褐　色	ローム粒子少量

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸75cm，短軸45cmの長方形で，深さは50cmである。底面は皿状で，壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	3	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

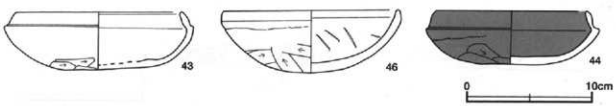
覆土　8層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

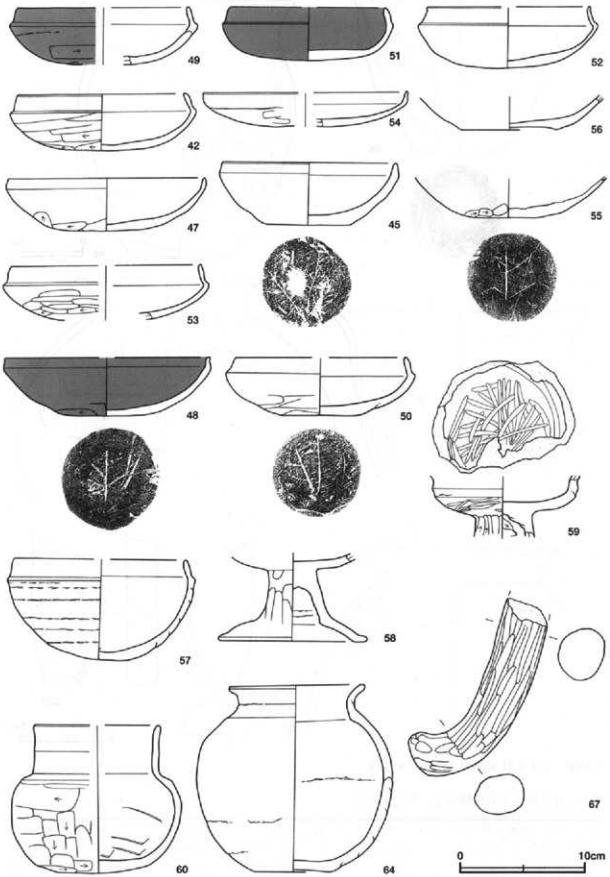
1	黒　褐　色	ロームブロック微量	5	黒　褐　色	ロームブロック少量
2	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化材微量	6	黒　褐　色	ロームブロック・炭化材中量
3	黒　　色	ロームブロック微量	7	黒　褐　色	ロームブロック・炭化物少量
4	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化物微量	8	黒　褐　色	ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片557点（坏235，甕・甑322），須恵器片10点（坏４，甕６），石製品２点（砥石），陶器片１点が出土している。他に縄文土器片が293点出土しているが，本跡の周辺から縄文時代の住居跡や土坑が確認されており，流れ込みや混入によるものと考えられる。遺物の大半は覆土下層から出土している。土器は住居全体に散らばっているが，特に竈東側の貯蔵穴付近に集中している。64は，竈南側の床面直上から横位で出土している。61は体部の半分が貯蔵穴に埋まった正位の状態で出土している。42はほぼ完形で，貯蔵穴北側の壁際床面から正位の状態で出土している。47も床面から正位の状態で出土している。45は焚口部付近の床面からほぼ完形のまま正位の状態で出土している。43，65はともに破片が広範囲に散らばっていることから，住居廃絶時に投げ込まれた可能性がある。

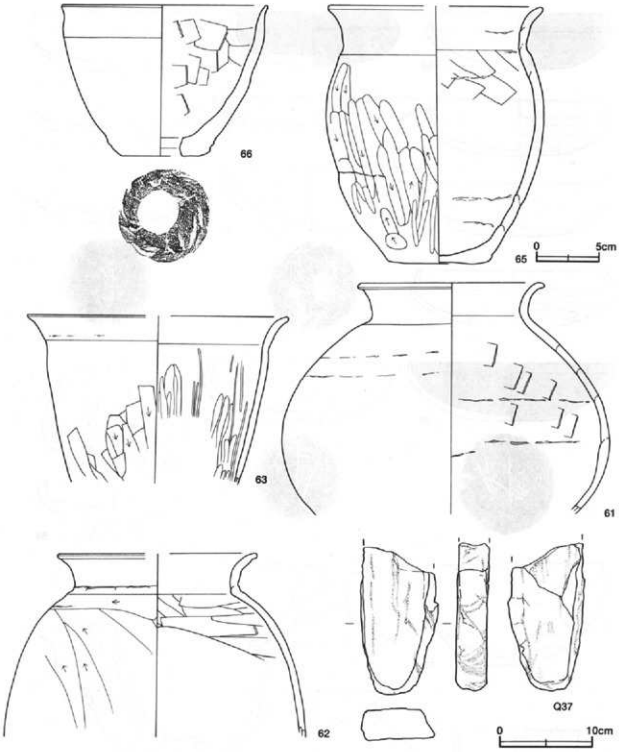
所見　時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第42図　第６号住居跡出土遺物実測図(1)



第43図　第６号住居跡出土遺物実測図(2)



第44図　第６号住居跡出土遺物実測図(3)

第６号住居跡出土遺物観察表（第42～44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
42	土師器	坏	13.2	4.7	－	石英	橙	良好	体部外面ヘラ削り，口縁・内面横ナデ	覆土近埋部	95%	PL39
43	土師器	坏	13.0	4.1	－	赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り	床面	95%	PL39
44	土師器	坏	12.2	4.3	－	長石	橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・内面横ナデ	下層，床面	95%	PL39

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考	
45	土 師 器	坏	13.7	5.0	6.6	石英・長石・赤粒	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ナデ	床面	85%	PL39
46	十 師 器	坏	13.8	5.0	—	石英・長石・小礫	橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁部横ナデ，内面ヘラナデ	下層	90%	PL39
47	土 師 器	坏	15.7	4.4	5.7	長石	橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・内面横ナデ	床面	90%	PL39
48	土 師 器	坏	(16.3)	4.6	4.8	雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・内面横ナデ	中層	60%	
49	十 師 器	坏	(13.6)	4.6	—	赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・内面横ナデ	貯蔵穴付近中層	50%	
50	十 師 器	坏	(13.6)	4.7	5.0	赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・内面横ナデ	中層	70%	
51	土 師 器	坏	(12.2)	4.3	—	雲母	にぶい黄橙	普通	内・外面ヘラナデ	貯蔵穴付近床面	50%	
52	土 師 器	坏	(13.0)	4.9	—	石英	浅黄橙	不良	外面ヘラ削り後ナデ，口縁・内面横ナデ	床面	40%	
53	土 師 器	坏	(15.0)	(4.4)	—	長石・赤色粒子	褐灰	普通	体部外面ヘラ削り，口縁・内面横ナデ	中央部床面	30%	
54	十 師 器	坏	(16.2)	2.7	—	長石	明赤褐	普通	内・外面ナデ	床面	20%	
55	上 師 器	坏	—	(3.2)	4.4	石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り	中央部床面	40%	
56	土 師 器	坏	—	(2.8)	7.7	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ	中層	20%	
57	土 師 器	椀	(13.7)	8.2		長石	にぶい赤褐	普通	底部ヘラ削り，口縁部横ナデ，内面ナデ，体部撫さ	北壁付近下層	30%	PL39
58	土 師 器	高坏	—	(7.2)	11.6	石英・長石	にぶい黄橙	普通	脚部ヘラ削り後ヘラナデ	中央部床面	50%	
59	上 師 器	高坏	—	(5.1)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ削り，坏部外面ヘラ撫さ，内面ヘラ撫さ	西側床面	40%	
60	土 師 器	壺	(9.8)	11.9	7.5	石英・長石	にぶい橙	普通	底部一方向ヘラ削り	北側床面	60%	PL39
61	土 師 器	甕	19.0	(24.5)	—	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ，口縁部横ナデ	貯蔵穴内下層	60%	PL40
62	十 師 器	甕	(20.6)	(19.5)	—	長石・小礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁部横ナデ，内面ヘラナデ	中央部床面	20%	
63	上 師 器	甑	(27.5)	(17.7)	—	長石	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ撫さ，口縁部横ナデ	床面	20%	
64	土 師 器	小形甕	10.7	15.1	6.4	石英・長石	にぶい橙	良好	内外面ナデ，口縁部横ナデ	北側床面	95%	PL40
65	上 師 器	甕	(16.9)	20.8	8.1	石英・長石・小礫	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，下端部ナデ，口縁部横ナデ，底部ヘラ削り，内面ヘラナデ	西側床面	80%	PL40
66	上 師 器	鉢	16.6	12.2	6.0	石英・長石	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，内面ヘラナデ，外面ナデ	P 6 付近中層	55%	
67	土 師 器	脚		(14.3)		長石・赤色粒子	黒褐	普通	ヘラ磨き，底部ヘラ削り	P 1 付近床面	5%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
Q37	砥 石	(15.6)	3.3	8.1	(69.4)	頁岩系砂岩	一面使用	中央部床面	

第9号住居跡（第45図）

位置　調査区西部のD 5j3区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　北西側を第2号地下式壙に掘り込まれている。また，東側を第410号土坑に，南西コーナー部を第405号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.8m，短軸4.0mの長方形で，主軸方向はN－67°－Wである。壁高は11cmほどで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。東半分の広い範囲が踏み固められている。また，中央やや東寄りに，床が熱を受けて赤変している部分を確認した。炉の可能性も考えられる。

ピット　1か所。P 1は深さ30cmで，一辺が70cmほどの不整方形であるが，性格は不明である。

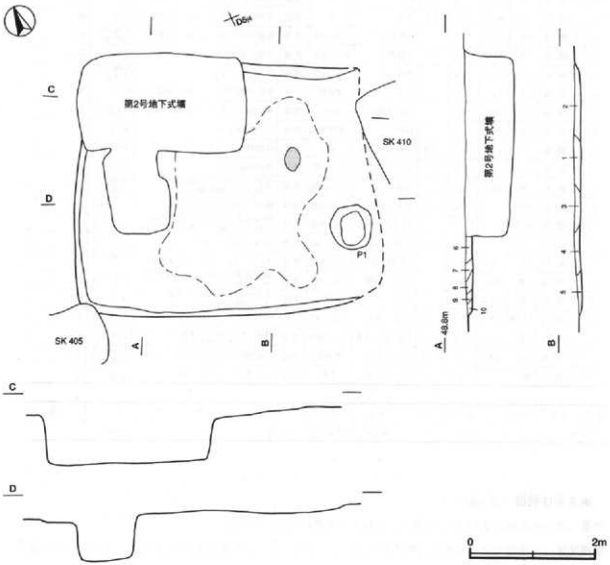
覆土　10層からなり，レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム ブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム ブロック少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム ブロック少量
7　暗　褐　色　ローム ブロック微量
8　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子微量
9　黒　褐　色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
10　褐　色　ローム ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片2点，土師器片47点（坏22，甕25），須恵器片4点（坏），陶器片1点が出土している。

土器片の大半は細片で混入によるものと考えられる。

所見　時期は，住居の形状と出土土器から古墳時代中期と考えられる。



第45図　第９号住居跡実測図

第23号住居跡（第46～48図）

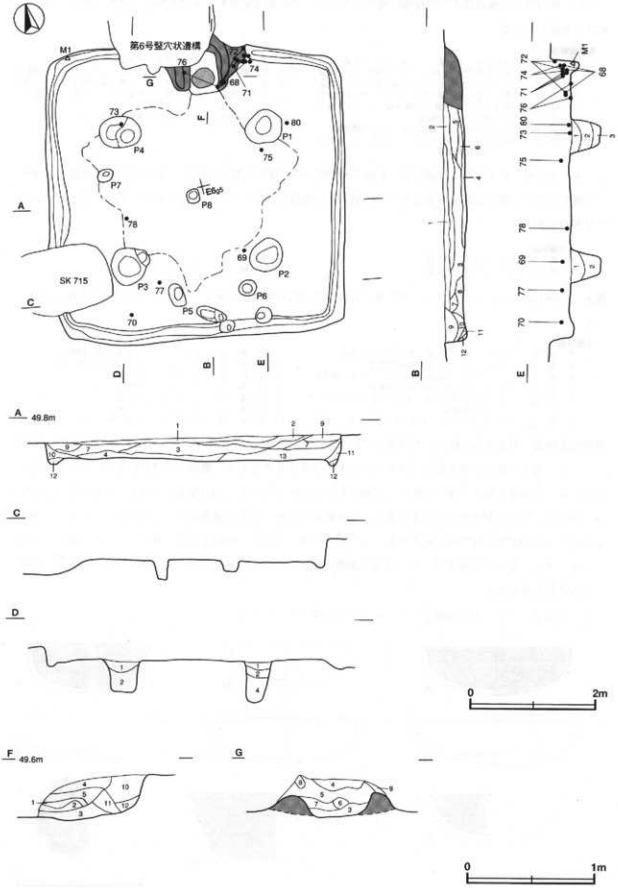
位置　調査区西部のＥ６f4区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　第24号住居跡を掘り込んでいる。北壁部分を第６号竪穴状遺構に，また南西側を第715号土坑に掘り込まれている。南側壁溝をピットに掘り込まれているが，本跡との関係は不明である。

規模と形状　長軸4.7m，短軸4.6mの方形で，主軸方向はＮ－14°－Ｅである。壁高は20～30cmで，直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部から各主柱穴，竈にかけて踏み固められている。また，重複する遺構に掘り込まれている部分を除き，整溝が確認されていることから，全周していたものと推測される。

竈　北壁中央部に付設されており，袖部幅は100cmである。煙道部付近が第６号竪穴状遺構に掘り込まれてい



第46図　第23号住居跡実測図

るため，焚口部から煙道部までの規模は確認できない。火床部は床面を8㎝ほど掘りくぼめており，火床面が被熱で赤変している。

竈土層解説

1	黒　　色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量	
2	黒　　色	粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量	
3	黒　　色	ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量	
4	黒　褐　色	焼土ブロック中量，ロームブロック・小礫少量	
5	黄　灰　色	粘土ブロック中量，小礫少量，ロームブロック・焼土ブロック微量	
6	黒　褐　色	ロームブロック・粘土ブロック・小礫微量	
7	暗灰黄色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量	
8	黒　褐　色	ロームブロック少量	
9	黒　褐　色	ロームブロック・粘土ブロック少量，小礫微量	
10	灰　　色	粘土ブロック・小礫中量，焼土ブロック微量	
11	オリーブ黒色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量	
12	灰　　色	粘土ブロック多量，焼土ブロック少量	

ピット　8か所。P1～P4は深さ30～45㎝で，配列から主柱穴と考えられる。また，P5は南壁寄りの中央部に位置しており，深さが30㎝あることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8については，性格不明である。

ピット土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック少量	
2	灰　褐　色	ロームブロック少量	
3	褐　　色	ロームブロック中量	
4	暗　褐　色	ロームブロック中量	

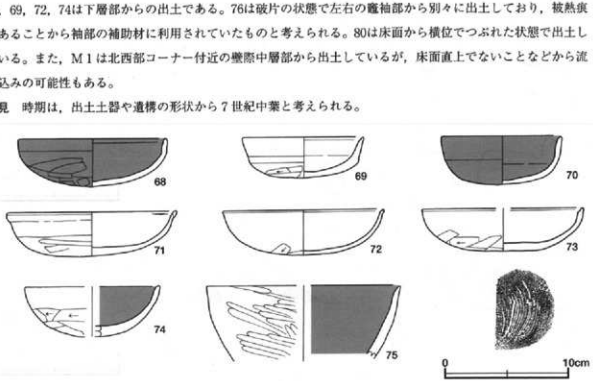
覆土　13層からなり，ロームブロックを多く含み，不自然な堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

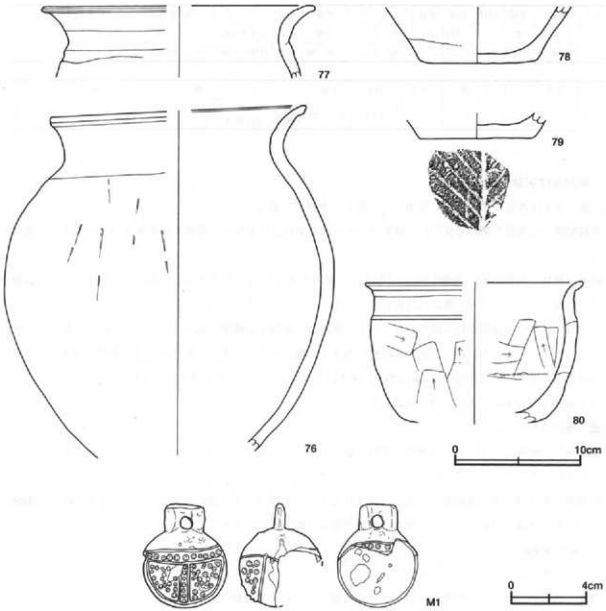
1	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	
2	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化材微量	
3	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	
4	灰　褐　色	ロームブロック中量，炭化物微量	
5	黒　褐　色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量	
6	黒　褐　色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック微量	
7	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化物微量	
8	灰　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	
9	黒　褐　色	ロームブロック少量	
10	灰　褐　色	ロームブロック中量	
11	暗　褐　色	ロームブロック中量	
12	灰　褐　色	ロームブロック中量	
13	灰　褐　色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量	

遺物出土状況　縄文土器片68点，土師器片701点（坏156，甕545），須恵器片11点，金属製品1点（馬鈴）が出土している。縄文土器片や須恵器片は流れ込みや混入によるものである。竈周辺に遺物が集中しているほか，全体的には，完形品を含めて覆土中層から下層にかけて出土している。73は床面から斜位の状態で出土している。68，69，72，74は下層部からの出土である。76は破片の状態で左右の竈袖部から別々に出土しており，被熱痕があることから袖部の補助材に利用されていたものと考えられる。80は床面から横位でつぶれた状態で出土している。また，M1は北西部コーナー付近の壁際中層部から出土しているが，床面直上でないことなどから流れ込みの可能性もある。

所見　時期は，出土土器や遺構の形状から7世紀中葉と考えられる。



第47図　第23号住居跡出土遺物実測図(1)



第48図　第23号住居跡出土遺物実測図(2)

第23号住居跡出土遺物観察表（第47・48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考	
68	土師器	坏	12.0	3.8	－	長石	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り	竈右袖付近下層	95%	PL40
69	土師器	坏	9.8	3.2	－	長石	にぶい橙	普通	下端部ヘラ削り，口縁部横ナデ，内部ナデ	P 2付近下層	95%	PL39
70	土師器	坏	9.7	3.9	－	長石	灰褐	普通	口縁部横ナデ，内・外面ナデ	南側下層	95%	PL39
71	土師器	坏	13.5	3.6	－	雲母	にぶい黄橙	良好	外面ヘラ削り後ナデ，内面・口縁部横ナデ	竈右袖付近下層	60%	
72	土師器	坏	12.8	3.6	－	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部ヘラ削り，内・外面ナデ	竈右袖付近下層，上層	60%	
73	土師器	坏	[12.9]	3.4	－	石英・長石	灰黄褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面・口縁部横ナデ	P 4付近床面	45%	
74	土師器	坏	[10.6]	(3.9)	－	白色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面・口縁部横ナデ	竈右袖付近中層	30%	
75	土師器	椀	[15.6]	(6.0)	－	白色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ	P 1付近中層	10%	
76	土師器	甕	[20.3]	[27.2]	－	石英・長石・雲母	灰褐	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ナデ	竈左石袖床面	60%	PL40
77	土師器	甕	[21.6]	(5.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ	南側下層	5%	
78	土師器	甕	－	(4.5)	9.4	石英・長石	にぶい赤褐	普通	内外面ナデ	西側床付近	10%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
79	土師器	甕	－	(2.0)	[9.0]	石英・長石	赤褐	普通	底部本葉痕	覆土中	5%
80	土師器	小形甕	[17.2]	(11.2)	－	石英・金石	にぶい褐	普通	体部内・外面ヘラ削り，口縁部横ナデ	P 1付近床面	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	馬鈴	5.5	4.3	－	(58.6)	青銅	楕円で方形に区画された体部に疎文を配置。縦は鈴口と同一方向	北壁中層	PL62

第24号住居跡（第49・50図）

位置　調査区西部のＥ６g5区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　北西側を第23号住居に，南東コーナー部を第1121号土坑に，貯蔵穴の東側を第1726号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.9m，短軸4.8mの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁高は５～22cmで，西側は緩やかに外傾して立ち上がり，他はほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で中央部が踏み固められている。壁溝は，重複する遺構に掘り込まれている部分を除き巡っている。南西コーナー部の貯蔵穴付近に馬蹄形の高まりが確認できた。また，周仕切り溝が東壁と西壁から１条ずつ確認された。長さは約130cm，幅は20cm，深さは10cmほどで，いずれも壁際から中央に向かって延びている。南東部Ｐ２付近床面には炭化材が確認された。

竈　確認されなかった。

ピット　12か所。Ｐ１，Ｐ２は東壁と平行に並んでいることから主柱穴と考えられる。Ｐ３～Ｐ12については性格不明である。

貯蔵穴　周仕切り溝，馬蹄形の高まりに囲まれるように南西コーナー部に位置している。長軸90cm，短軸80cmの長方形で，深さは45cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

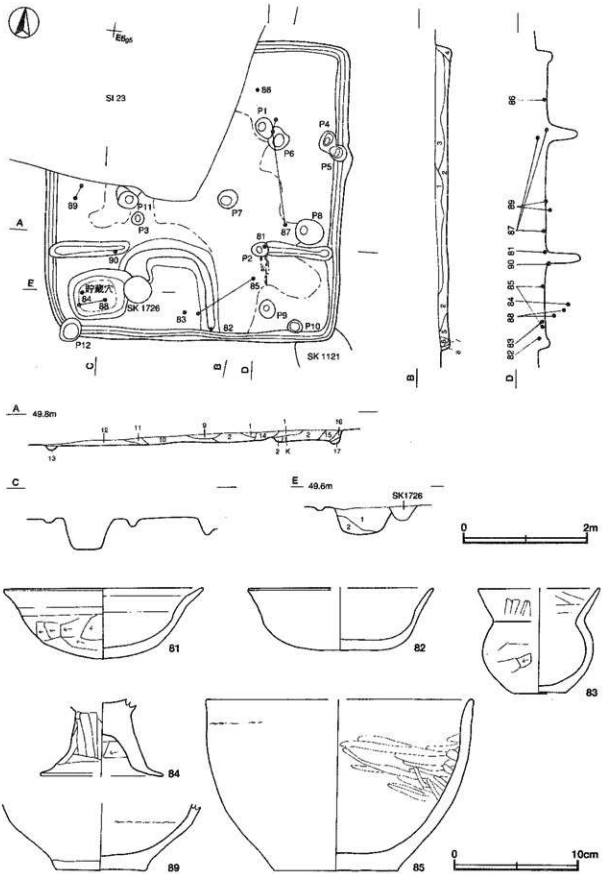
貯蔵穴土層解説
1　黒　色　　ローム ブロック少量，焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　　ローム ブロック少量

覆土　17層からなり，含有物やブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

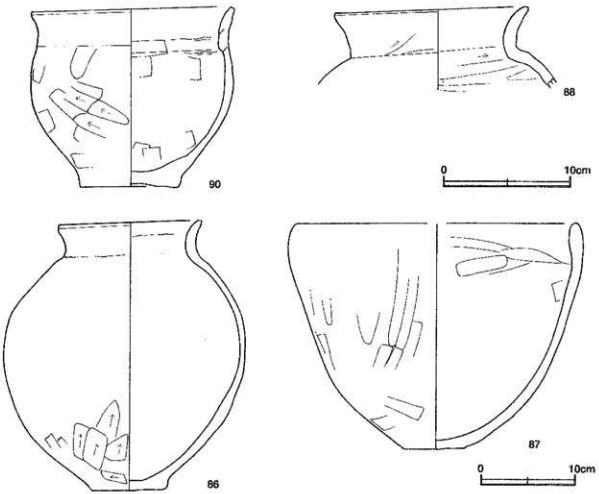
土層解説
1　黒　褐　色　　ローム ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　　ローム ブロック少量，炭化物微量
3　黒　褐　色　　ローム ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　灰　褐　色　　ローム ブロック少量
5　灰　褐　色　　ローム ブロック少量，炭化物微量
6　黒　褐　色　　ローム ブロック微量
7　黒　褐　色　　ローム ブロック少量
8　褐　　色　　ローム ブロック多量
9　灰　褐　色　　ローム ブロック中量，炭化物微量
10　黒　褐　色　　ローム ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化材微量
11　灰　褐　色　　ローム ブロック中量，炭化物少量
12　暗　褐　色　　ローム ブロック中量
13　灰　褐　色　　ローム ブロック中量
14　暗　褐　色　　ローム ブロック・炭化物中量
15　黒　褐　色　　ローム ブロック・炭化物少量
16　灰　褐　色　　ローム ブロック少量
17　灰　褐　色　　ローム ブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片21点，土師器片225点（坏22，甕・鉢203），礫７点が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土器は全体的に覆土下層から床面にかけて出土している。86は床面から横位で，押しつぶされたような状態で出土している。また，81は正位で，83，90は逆位の状態で床面直上から出土している。84，88は貯蔵穴内から出土している。85や87は床面あるいは床付近の別々の位置から出土した破片が接合したものであり，投棄された可能性がある。

所見　時期は，出土土器から６世紀前半と考えられる。また，覆土中に炭化物や焼土を含んでいること，南東部の床面に炭化した柱材が確認できたこと，85や87のように床面もしくは床付近の別々の位置の破片が同一個体となることから，住居廃絶時もしくは廃絶後に焼失したものと考えられる。



第49図　第24号住居跡・出土遺物実測図



第50図　第24号住居跡出土遺物実測図

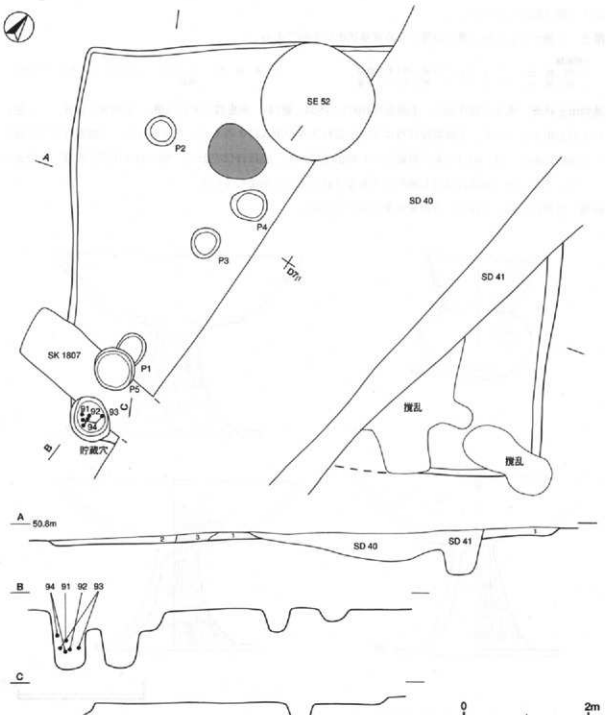
第24号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
81	土師器	坏	16.0	5.7	－	石英・長石	にぶい赤褐	普通	体部外赤ヘラ割り，内面・口縁部横ナデ	P 2 上面	80%	PL40
82	土師器	坏	[14.8]	5.0	6.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内・外面横ナデ	南壁際中層	60%	
83	土師器	坩	[9.8]	8.5	4.0	長石	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り，口縁部ヘラ磨き，内面ナデ	南側床付近	50%	
84	土師器	高坏	－	(5.6)	[10.0]	雲母	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ削り後ナデ，内面一方向のヘラ崩り	貯蔵穴内下層	30%	
85	土師器	鉢	[21.3]	13.9	10.0	石英・長石・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き，体部外面ナデ	南側床面	80%	PL40
86	土師器	甕	14.5	28.0	7.5	石英・長石・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ割り後ナデ，内面ナデ	床面	80%	PL41
87	土師器	鉢	[28.8]	23.5	6.4	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面縦方向へのヘラナデ，内面ヘラナデ	東側床面	50%	
88	土師器	甕	14.0	(6.4)	－	長石	にぶい褐	普通	内面ヘラ崩り後ナデ，口縁部横ナデ	貯蔵穴内上層	10%	
89	土師器	甕	[15.9]	(5.4)	[7.0]	長石	にぶい赤褐	普通	内面ヘラナデ，体部外面ナデ	西側床面	5 %	
90	土師器	小形甕	15.6	14.2	7.7	長石・小礫	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ，口縁部横ナデ	間仕切り溝内上層	60%	PL41

第31号住居跡（第51・52図）

位置　調査区中央部のＤ６10区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　本跡を分断するように，南北に延びる第40・41号溝に掘り込まれている。北壁付近を第52号井戸に掘り込まれている。また，南西コーナー部を第1807号土坑に掘り込まれている。



第51図　第31号住居跡実測図

規模と形状　北東コーナー部が調査区域外となっているが，壁の残存状況から判断して，長軸が7.8m，短軸が6.9mの長方形で，主軸方向はN－57°－Eである。壁高は15cmで緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。

炉　中央部やや北寄りで，火床面が被熱で赤変している。

ピット　5か所。P1，P2は配列から主柱穴であると考えられる。P3～P5は性格不明である。

貯蔵穴　南西コーナー部で壁際に位置している。長径70cm，短径65cmの楕円形で，深さは60cmである。底面は

皿状で豊は直立している。

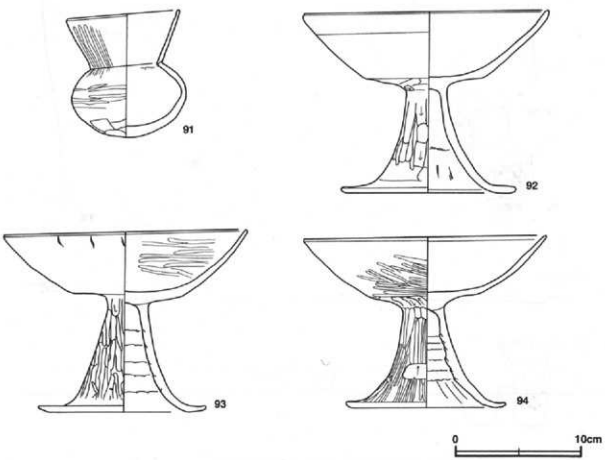
覆土　3層からなるが，覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片33点，土師器片108点（坏34，甕74），須恵器片8点（甕），土師質土器片5点，磁器片1点が出土している。土師器片以外はすべて流れ込みや混入によるものと考えられる。土師器片の多くは甕の体部片である。91～94はともに貯蔵穴からの出土で，91，92はほぼ完形で，93，94は坏部と脚部とに分かれている。また，91～93はほぼ同じ場所から重なり合うように出土している。

所見　時期は，出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第52図　第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
91	土師器	甕	8.8	10.2	－	雲母・小礫	橙	良好	体部・口縁部ヘラ磨き，底部ヘラ削り	貯蔵穴内中層	100%	PL40
92	土師器	高坏	19.3	14.5	13.0	石英・雲母	橙	普通	脚部削り後磨き，内面ナデ	貯蔵穴内中層	95%	PL41
93	土師器	高坏	19.2	14.6	12.3	石英・雲母	橙	普通	脚部ヘラ磨き，坏部内・外面磨き	貯蔵穴内中層，上層	100%	PL41
94	土師器	高坏	19.1	13.7	12.7	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部・坏部ヘラ磨き	貯蔵穴内中層，上層	95%	PL41

第45号住居跡（第53・54図）

位置　調査区西部のＤ５ｃ区に位置し，台地上の北側に立地している。

規模と形状　西部分が調査区域外であるため，南北軸は3.9m，東西軸は3.0mだけが確認され，方形または長方形と推測される。壁高は15cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，貯蔵穴の南隅から西側にかけて馬蹄形の高まりが確認された。また，壁溝が巡っている。

竈　確認されなかった。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸120cm，短軸80cmの長方形で，深さ30cmである。底面は平坦で外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ローム ブロック・焼土ブロック少量	
2	黒褐色	ローム ブロック少量，炭化粒子微量	
3	黒褐色	ローム ブロック少量	
4	極暗褐色	ローム粒子少量	
5	黒色	ローム粒子少量	

ピット　確認されなかった。

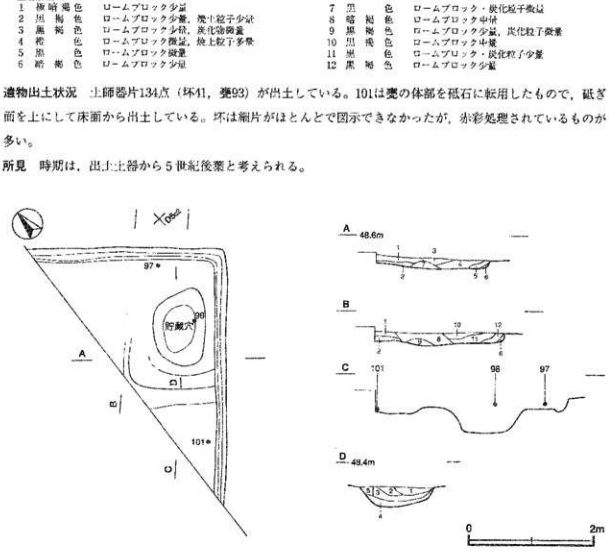
覆土　12層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

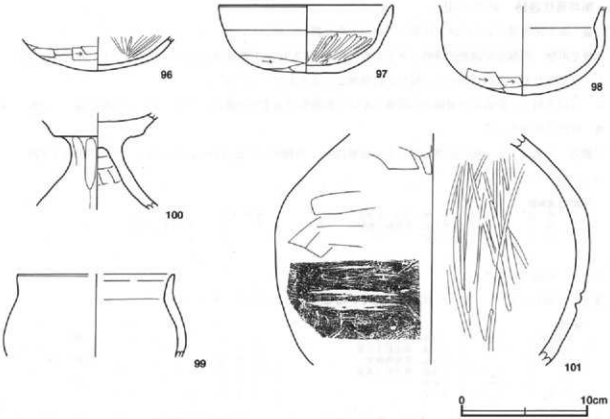
1	極暗褐色	ローム ブロック少量	
2	黒褐色	ローム ブロック少量，焼土粒子少量	
3	黒褐色	ローム ブロック少量，炭化物微量	
4	褐色	ローム ブロック微量，焼土粒子多量	
5	黒色	ローム ブロック微量	
6	暗褐色	ローム ブロック少量	
7	黒色	ローム ブロック・炭化粒子微量	
8	暗褐色	ローム ブロック中量	
9	黒褐色	ローム ブロック少量，炭化粒子微量	
10	黒褐色	ローム ブロック中量	
11	黒色	ローム ブロック・炭化粒子少量	
12	黒褐色	ローム ブロック少量	

遺物出土状況　土師器片134点（坏41，甕93）が出土している。101は甕の体部を祖石に転用したもので，砥ぎ面を上にして床面から出土している。坏は細片がほとんどで図示できなかったが，赤彩処理されているものが多い。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。



第53図　第45号住居跡実測図



第54図　第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
96	土師器	坏	－	(2.4)	－	雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土中	30%
97	土師器	坏	13.7	5.4	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き，口縁部横ナデ	北壁付近下層	60%
98	土師器	椀	－	(7.0)	－	赤色粒子	橙	普通	体部下端部ヘラ削り，体部外面ナデ，内面ヘラ磨き	貯蔵穴上面	60%
99	土師器	椀	(12.3)	(6.6)	－	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ，内・外面ナデ	覆土中	20%
100	土師器	高坏	－	(9.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ヘラナデ	覆土中	40%
101	土師器	甕	－	(18.3)	－	石英・長石・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き	南側床面	30%　PL41

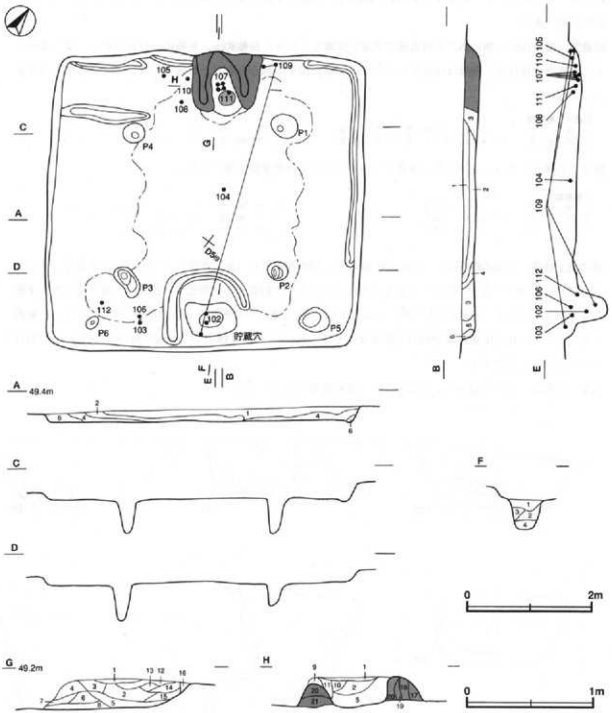
第51号住居跡（第55～57図）

位置　調査区西部のD5e8区に位置し，台地上の北側に立地している。

規模と形状　長軸5.1m，短軸4.8mの方形で，主軸方向はN－35°－Wである。壁高は27～37cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から竈へかけての中央部分が踏み固められている。壁溝は，北壁・東壁のみに確認できた。また，間仕切り溝が西壁から1条確認された。長さは約140cm，幅20cmである。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cm，袖部幅100cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床部は，床面と同じ高さの平坦面を使用し，火床面が被熱で赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。火床部のやや奥に甕が逆位の状態で置かれていたが，被熱痕がないことから，住居廃絶時のものと考えられる。



第55図　第51号住居跡実測図

覆土層解説

1	暗　褐　色	焼土ブロック少量，ロームブロック微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック少量，粘土粒子微量
3	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
4	暗　褐　色	焼土ブロック・粘土ブロック少量
5	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子・小礫微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック中量，粘土粒子少量
7	灰　褐　色	焼土ブロック少量，ロームブロック微量
8	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量
9	暗　褐　色	ロームブロック少量
10	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量
11	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量
12	黒　褐　色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
13	灰オリーブ色	粘土粒子多量，焼土粒子少量，ロームブロック微量
14	灰黄褐色	焼土粒子中量，粘土ブロック中量，炭化物少量
15	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量
16	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
17	灰黄褐色	ロームブロック中量，粘土ブロック少量
18	暗灰黄色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量，小礫微量
19	にぶい黄褐色	ロームブロック中量，粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
20	灰黄褐色	ロームブロック中量，粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック微量
21	黒　褐　色	粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・砂粒微量

ピット　6か所。P１～P４は，深さ40～60cmでその配列から主柱穴と考えられる。P５，P６については，性格不明である。

貯蔵穴　竈の向かい側にあたる南東壁中央部に位置している。長軸80cm，短軸50cmの長方形で，深さは45cmである。底面は皿状で，壁はほぼ直立している。南壁に面する部分を除き，貯蔵穴を囲むように馬蹄形の高まりが巡っている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
3　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子多量

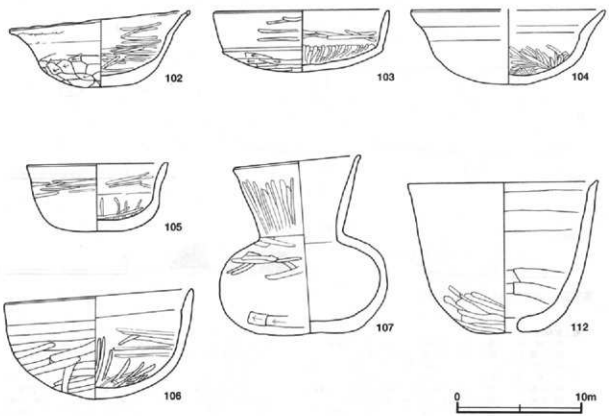
覆土　6層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

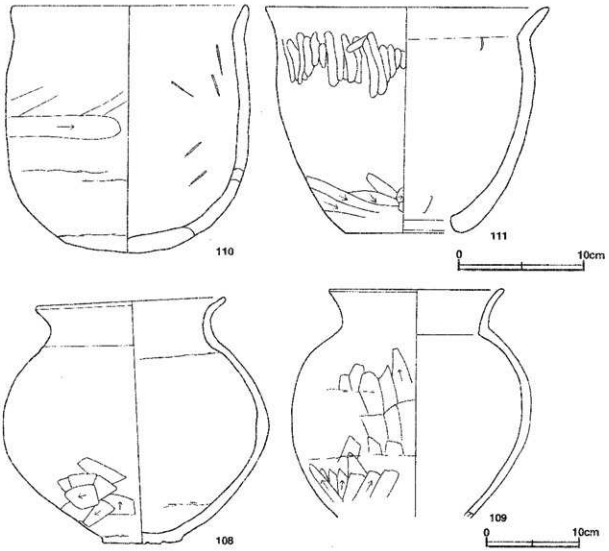
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量
6　黒　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片564点（坏70，甕・甑494），須恵器片４点（鉢）が出土している。須恵器片はすべて覆土上層からの出土であり，混入によるものと考えられる。土師器片の８割近くは甕片で，竈周辺や覆土下層から多く出土している。107は土圧で押しつぶされているが，竈の中心部から逆位の状態で出土しており，被熱痕がないことから住居廃絶時の祭祀的な意味合いと考えられる。110は横位で左袖部外側の付け根から，111は竈内から正位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀末から６世紀前葉と考えられる。



第56図　第51号住居跡出土遺物実測図(1)



第57図　第51号住居跡出土遺物実測図(2)

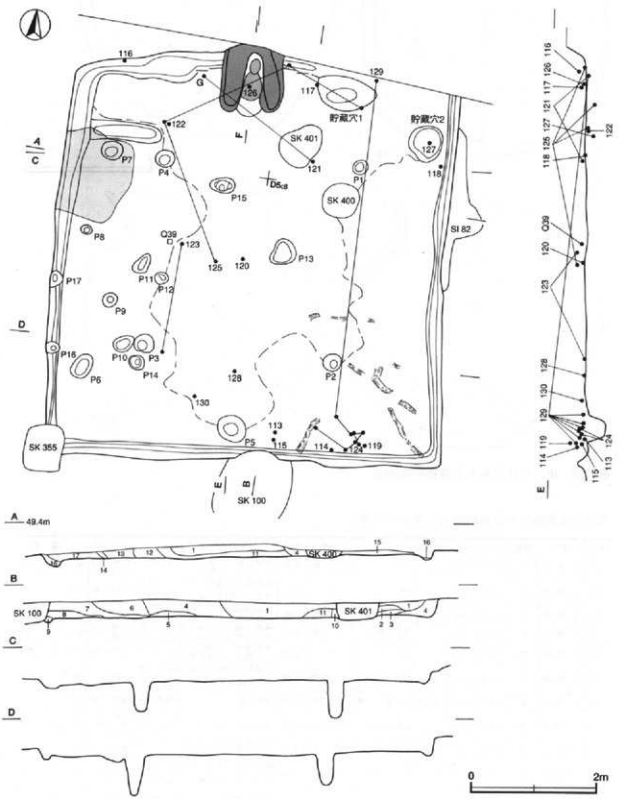
第51号住居跡出土遺物観察表（第56・57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
102	土師器	坏	14.2	6.1	－	長石	にぶい橙	良好	体部外面ヘラ削り，口縁部横ナデ，内面ヘラ磨き	貯蔵穴内中層	90%	PL41
103	土師器	坏	13.8	5.0	－	長石	橙	良好	体部外面下端部ヘラ削り，口縁部外面ヘラ磨き後ナデ，内面ヘラ磨き	南側下層	55%	PL42
104	土師器	坏	(15.5)	6.0		石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ナデ，内面ヘラ磨き，口縁部横ナデ	中央部下層	30%	
105	土師器	坏	11.2	5.5	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下端部ヘラ削り後ナデ，体部ヘラ磨き，内面ヘラ塗彩	北壁付近中層	100%	PL41
106	土師器	椀	14.3	8.9	－	長石	赤	良好	体部外面ヘラ磨き後ナデ，内面ヘラ磨き，口縁部横ナデ	南側下層	90%	PL42
107	土師器	坩	10.2	14.2	5.2	石英・長石	にぶい赤褐	普通	下端部ヘラ削り，体部外面ヘラ磨き，口縁部ヘラ磨き，内面ナデ	火床部	90%	PL42
108	土師器	甕	19.3	25.9	8.2	石英・長石・小礫	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁部横ナデ	竈付近中層	95%	PL43
109	土師器	甕	18.0	(24.0)	－	石英・長石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ	貯蔵穴内下層・竈付近東側	60%	PL43
110	土師器	甕	18.4	19.7	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面出て其痕	竈付近下層	80%	PL42
111	土師器	甑	22.2	18.0	9.1	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，体部上裏縦方向ヘラナデ，口縁部横ナデ，内面ヘラナデ	火床面	80%	PL42
112	土師器	甑	15.2	12.1	6.0	石英・長石	橙	普通	体部下端部ヘラナデ後ヘラ磨き，内面ヘラナデ，口縁部横ナデ	P 6付近床面	95%	PL42

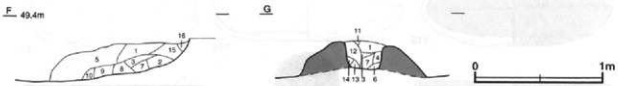
第61号住居跡（第58～61図）

位置　調査区西部のＤ５c7区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　北東側を第82号住居，第400・401号土坑に掘り込まれている。また，南西コーナー部を第355号土坑



第58図　第61号住居跡実測図(1)



第59図　第61号住居跡実測図(2)

に，南壁を第100号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北東コーナー部が調査区域外となっているが，長軸6.5m，短軸6.3mで形状はほぼ方形である。主軸方向はN－4°－Wである。壁高は8～25cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南側の出入り口ピット付近から北壁にかけて広い範囲が踏み固められている。壁溝は，他遺構との重複部分を除き巡っている。南東コーナー付近から中心部に向かって多量に炭化した柱材が確認できた。また，北西部には焼土塊が確認された。間仕切り溝が西壁にある。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cm，袖部幅100cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し，火床面が被熱で赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰　褐　色	焼土ブロック・粘土粒子少量	10	黒　褐　色	焼土ブロック少量
2	黒　褐　色	焼土ブロック・粘土粒子少量	11	黒　　色	焼土ブロック・ローム粒子微量
3	灰 黄 褐 色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量	12	にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量
4	赤　褐　色	焼土ブロック多量，粘土粒子微量			
5	褐　　色	焼土ブロック・粘土粒子少量	13	暗 赤 褐 色	焼土ブロック多量，ロームブロック微量
6	黒　褐　色	焼土粒子少量，炭火粒子微量	14	暗 赤 褐 色	ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
7	暗 赤 褐 色	焼土粒子中量			
8	暗 赤 褐 色	焼土ブロック少量	15	黒　褐　色	焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土粒子微量
9	暗 赤 褐 色	粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量	16	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，ロームブロック微量

ピット　17か所。P1～P4は，深さ50～70cmで配列から主柱穴と思われる。P5は南壁寄りの中央部に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。その他のピットについては，性格不明である。

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は，竈の東側に位置している。長径100cm，短径55cmの楕円形で深さは25cmである。断面は椀状を呈している。貯蔵穴2は，北東部に位置している。長径60cm，短径55cmでほぼ円形である。上層部には別遺構が重複しているために深さは10～20cmと浅い。底部は平坦で，急な立ち上がりである。

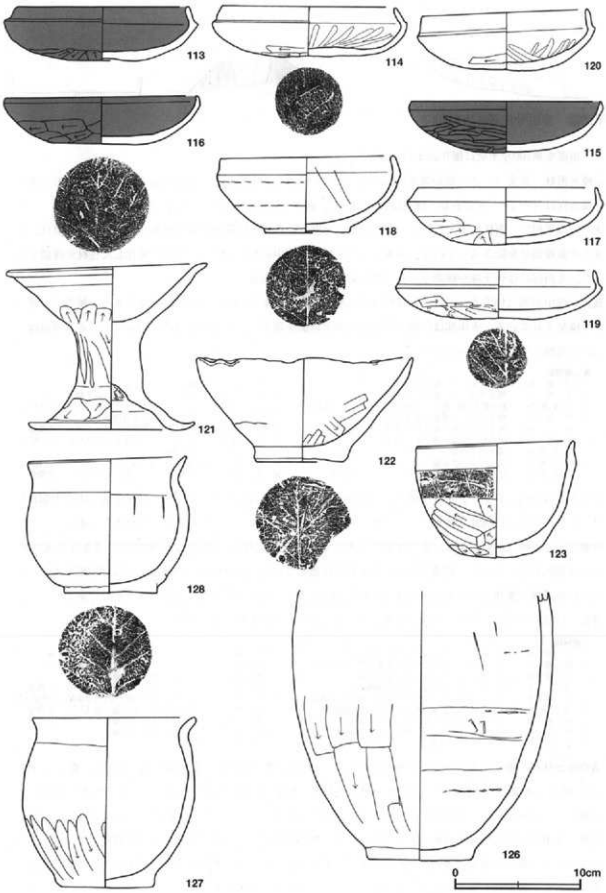
覆土　17層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

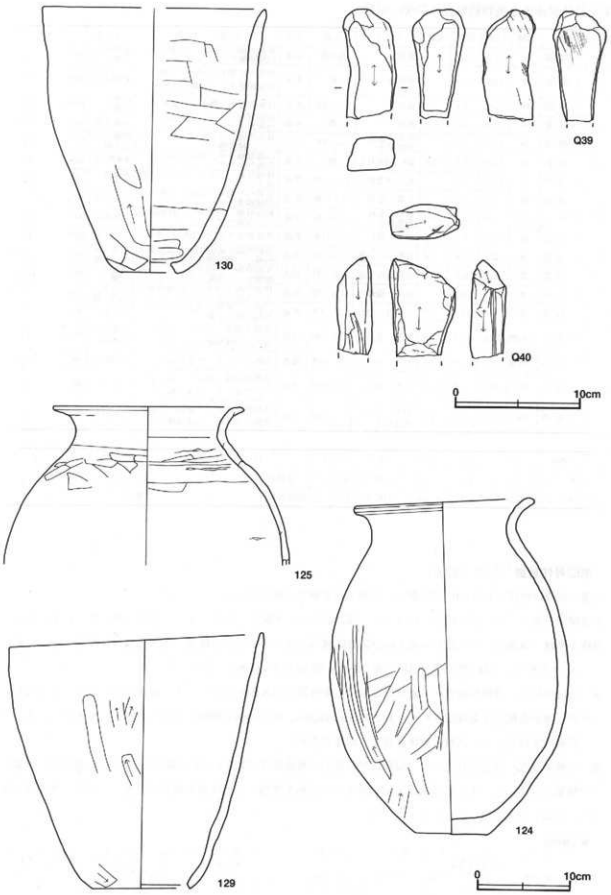
1	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	10	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量
2	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	11	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化物微量
3	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	12	極 暗 褐 色	ロームブロック少量
4	褐　　色	ロームブロック少量，炭化物微量	13	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
5	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	14	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
6	極 暗 褐 色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	15	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
7	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	16	褐　　色	ロームブロック中量
8	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	17	暗　褐　色	ロームブロック中量
9	暗　褐　色	焼土ブロック少量，ロームブロック微量			

遺物出土状況　縄文土器片16点，土師器片1885点（坏899，甕・甑986），須恵器片6点（坏4，甕2），石製品2点(砥石)，陶器片1点が出土している。縄文土器片，陶器片は流れ込みや混入によるものと考えられる。127は横位で，118は逆位で，128は斜位でそれぞれ床面から出土している。126は竈内から正位で出土している。

所見　南東部の炭化材は床面直上のものであること，西側部分にかなり広範囲に焼土を確認できること，床面直上もしくは覆土下層部に遺物の散在が多数みられることから，住居利用中もしくは廃絶時に焼失したものと考えられる。時期は，出土土器から6世紀末から7世紀前葉と考えられる。



第60図　第61号住居跡出土遺物実測図(1)



第61図　第61号住居跡出土遺物実測図(2)

第61号住居跡出土遺物観察表（第60・61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
113	土師器	坏	13.6	4.4	－	雲母	淺黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ，口縁部横ナデ	南壁寄り下層	100%	PL43
114	土師器	坏	13.6	4.0	－	赤色粒子	橙	普通	底部ヘラ削り，内面ヘラ磨き，口縁部横ナデ，体部外面ナデ	南壁際中層	100%	PL43
115	土師器	坏	15.0	4.1	－	長石	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ	南西寄り中層	100%	PL43
116	土師器	坏	15.3	4.0	7.3	雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き，口縁部ナデ	北壁下層	95%	PL43
117	土師器	坏	14.2	4.5	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ，口縁部横ナデ	貯蔵穴付近下層	95%	PL43
118	土師器	坏	13.8	6.1	6.8	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面ナデ，内面ヘラナデ	東壁際南側	95%	PL43
119	土師器	坏	15.0	4.0	－	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，口縁部・内面横ナデ	南壁寄り上層	80%	PL43
120	土師器	坏	13.3	5.0	－	石英・雲母	にぶい橙	普通	底部ヘラ削り，内面ヘラ磨き，口縁部横ナデ	中央部床面	90%	
121	土師器	高坏	15.9	13.3	12.0	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ削り，口縁部横ナデ，内面ナデ	北側床面	90%	PL46
122	土師器	鉢	17.2	8.3	7.1	石英・長石	にぶい赤褐	普通	体部外面ナデ，体部内面ヘラナデ	北側床面	80%	PL45
123	土師器	鉢	12.2	10.6	5.6	石英・長石・小礫	にぶい橙	普通	体部外面に縦方向ヘラ磨き後ナデ（横磨き後部分状態），口縁部横ナデ，内面ナデ	中央部床面，中層	80%	PL45
124	土師器	甕	18.2	35.6	7.7	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，口縁部横ナデ，内面ナデ	南壁寄り中層	80%	PL44
125	土師器	甕	19.7	(16.7)	－	長石・微礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ，口縁部横ナデ，内面ヘラナデ	中央から北領下層	40%	PL44
126	土師器	甕	－	(21.6)	8.0	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	内面底で丸底，内面ヘラ削り，体部外面ヘラ削り	火床面	40%	
127	土師器	小形甕	12.8	13.7	7.8	石英・長石	にぶい橙	普通	体部下端部ヘラ削り，底部ヘラ削り，口縁部横ナデ，内面ナデ	貯蔵穴2内中央	95%	PL45
128	土師器	小形甕	12.4	10.8	7.5	石英・長石	にぶい黄橙	普通	内面ヘラナデ，体部外面ナデ	南側床面	100%	PL45
129	土師器	甑	26.0	27.0	10.2	石英・長石	にぶい黄橙	普通	体部外面縦方向ヘラ削り後ナデ，内面ナデ，口縁部横ナデ	下層，床面	90%	PL44
130	土師器	甑	[17.7]	21.2	4.8	石英・長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ナデ，下端部ヘラ削り，内面ヘラナデ，口縁部横ナデ	南側東寄せ	70%	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q39	砥石	(8.9)	4.2	2.7	(168.7)	凝灰岩	三面使用	中央部床付近	
Q40	砥石	(7.9)	5.3	2.8	(166.7)	砂岩	四面使用	覆土中	

第62号住居跡（第62・63図）

位置　調査区西部のD5g9区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　東コーナー部付近から西コーナー部にかけて，本跡を二分するように第15号溝に掘り込まれている。

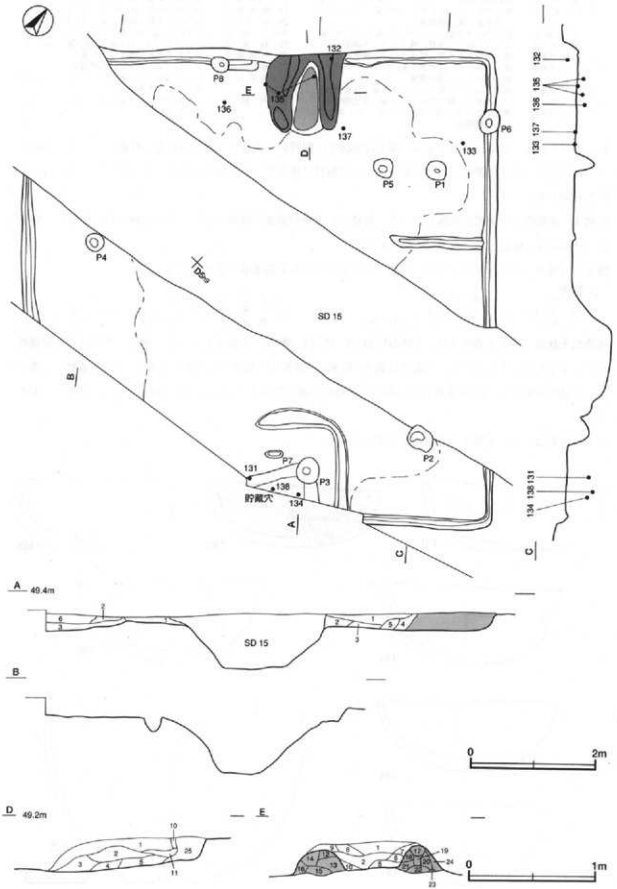
規模と形状　南側コーナー部から東方向が調査区域外となっているが，確認できる部分から推定すると一辺が約7.6mの方形で，主軸方向はN－34°－Wである。壁高は13～25cmで，直立している。

床　ほぼ平坦で，南側貯蔵穴から竈付近にかけて中央部が踏み固められている。壁際には周回すると考えられる，間仕切り溝が東壁に1条確認された。長さ150cm，幅20cm，深さ10cmで壁際から中央に向かって延びている。また，貯蔵穴を囲むように北側と東側に高まりが確認された。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで123cm，袖部幅125cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し，火床面が被熱で赤変している。煙道は火床部から外傾したあと急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
3　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
4　暗褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
5　暗褐色　焼土ブロック多量，粘土ブロック中量
6　灰褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
7　褐灰色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量



第62図　第62号住居跡実測図

8	褐灰色	粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
9	灰褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量
10	灰黄褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土ブロック少量
11	褐灰色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
12	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
13	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック・粘土ブロック・砂粒微量
14	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，砂粒微量
15	暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化物微量
16	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子・小礫微量
17	灰黄褐色	粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒少量
18	暗赤褐色	焼土粒子中量，粘土粒子少量，砂粒微量
19	灰褐色	粘土粒子多量，砂粒少量，焼土粒子微量
20	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
21	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
22	灰黄褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
23	暗褐色	ロームブロック少量，小礫微量
24	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物・粘土ブロック微量
25	灰褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量

ピット　8か所。P1，P2ともに，深さは30cmで，配列から主柱穴と考えられる。貯蔵穴コーナー部のP3は，竈に向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。その他のピットについては，性格不明である。

貯蔵穴　南壁際の中央部に位置している。貯蔵穴の南側が調査区域外となっており長軸が最大で57cm，短軸が最大で45cmまで確認され，方形と考えられる。

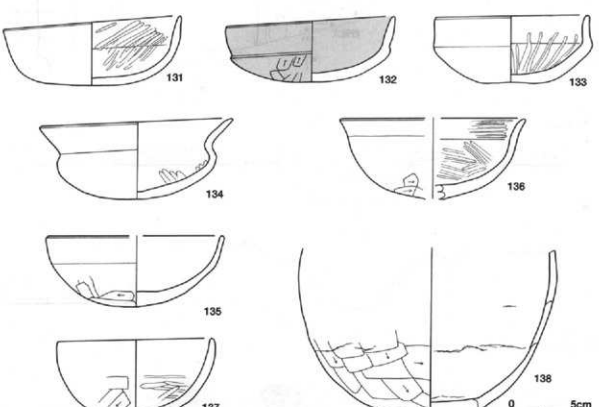
覆土　6層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量
2	黒褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6	黒褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片5点，土師器片339点（坏174，甕165）が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土器片は竈内，貯蔵穴，壁寄りの部分からの出土が多い。132は竈袖部と壁の接する位置から斜位で，133は東壁に近い部分の床面から斜位で出土している。坏の細片では，赤彩されたものが多い。

所見　時期は，出土土器から5世紀末と考えられる。



第63図　第62号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
131	土師器	坏	14.5	5.6	－	石英・長石	赤褐	普通	体部外面ナデ，内面ヘラ磨き	貯蔵穴底面	95%	PL45
132	土師器	坏	13.6	5.4	－	長石	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ナデ	右袖部中層	95%	PL43
133	土師器	坏	12.3	5.6	－	石英・長石	にぶい褐	普通	体部外面ナデ，口縁部横ナデ，内面ヘラ磨き	東壁付近床面	95%	PL44
134	土師器	坏	15.5	6.6	－	石英・長石	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，内面ヘラナデ，内面ナデ	貯蔵穴内下層	80%	
135	土師器	坏	[14.3]	5.8	－	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，口縁部横ナデ	右袖部内床面	50%	
136	土師器	坏	[15.0]	6.7	－	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部・口縁内面ヘラ磨き，体部外面ナデ，口縁外部横ナデ	北東付近床面	40%	
137	土師器	鉢	12.5	5.6	－	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラ磨き	右袖部付近床面	95%	PL44
138	土師器	甕	－	(14.0)	7.2	長石・小礫	灰黄褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	貯蔵穴内底部	30%	

第65号住居跡（第64図）

位置　調査区西部のＤ６d2区に位置し，台地上の北側に立地している。

壁複関係　第66号住居跡の北西側を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.3m，短軸4.2mの方形で，主軸方向はＮ－22°－Ｗである。壁高は25～35cmで，東壁は外傾して立ち上がり，他は直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部から竈にかけての部分が踏み固められている。壁溝は全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cm，袖部幅137cmである。袖部は，ロームの基部上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し，火床面が被熱で赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がり，その後，直立している。

竈土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	11	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量，粘土ブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量	12	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	13	褐褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
4	暗褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック微量	14	暗褐色	ローム粒子・粘土ブロック少量
5	黒褐色	粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	15	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
6	暗褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック微量	16	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
7	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック少量	17	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
8	暗褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量	18	褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック微量
9	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量	19	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
10	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	20	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
			21	極暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量

ピット　１か所。深さは18cmであるが南壁の中央寄りの竈に向かい合う位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量
2	極暗褐色	ロームブロック中量

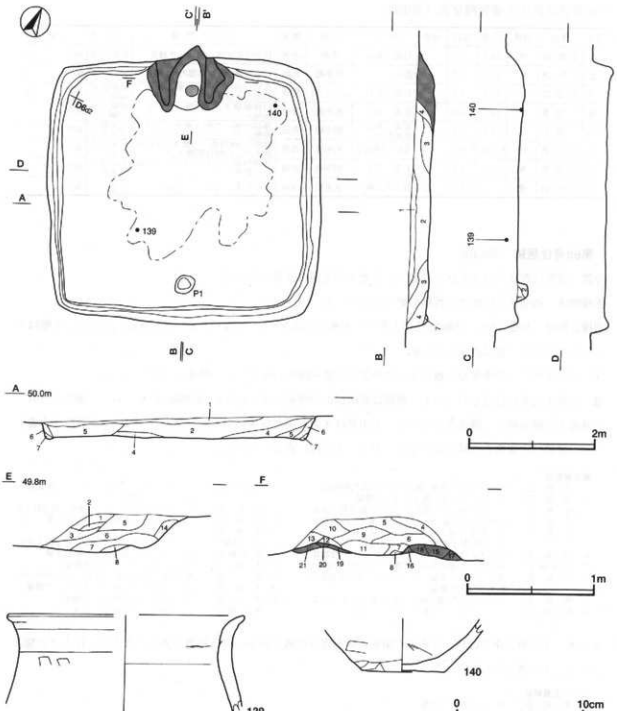
覆土　７層からなり，ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	5	黒色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック微量	6	黒褐色	ローム粒子少量
3	黒色	ロームブロック少量，粘土粒子微量	7	黒褐色	ローム粒子少量
4	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量			

遺物出土状況　縄文土器片５点，土師器片178点（坏72，甕106），礫１点が出土している。土器は細片がほとんどである。坏片では，赤彩処理，黒色処理のものが確認できた。

所見　時期は，出土土器や住居の形状から古墳時代後期と考えられる。



第64図　第65号住居跡・出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表（第64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
139	土師器	甕	[18.4]	(7.9)	－	石英・長石・小礫・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ，体部内・外面ナデ	中央部中層	5％
140	土師器	甕	－	(4.3)	6.7	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	北側コーナー付近床面	5％

第66号住居跡（第65・66図）

位置　調査区西部のＤ６d3区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　北西側を第65号住居に掘り込まれている。

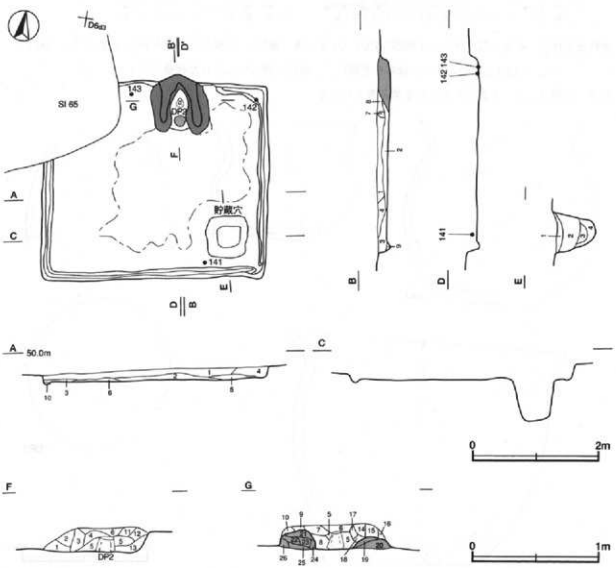
規模と形状　長軸3.6m，短軸3.2mの長方形で，主軸方向はＮ－６°－Ｗである。壁高は８～23cmで外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南東コーナー部の貯蔵穴を囲むように中央部から北東部にかけて踏み固められている。壁溝は北壁西寄りの部分では確認されなかったが，他の部分では周回している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm，袖部幅90cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。竈のほぼ中央部で土製支脚が確認された。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用し，火床面が被熱で赤変している。煙道は火床面から直立している。

竈土層解説

1	黒　褐　色	焼土粒子中量，ローム粒子少量	6	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
2	黒　褐　色	ロームブロック・粘土粒子少量・焼土ブロック微量	7	灰　褐　色	焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
3	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	8	黒　褐　色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
4	黒　褐　色	焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土ブロック少量			
5	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量			



第65図　第66号住居跡実測図

9	黒褐色	粘土ブロック少量，ローム・ブロック・焼土ブロック微量	
10	黒褐色	ローム粒子・粘土ブロック少量	
11	灰色	粘土粒子中量，焼土ブロック微量	
12	暗褐色	粘土粒子中量，ローム・ブロック・焼土ブロック少量	
13	黒褐色	ローム・ブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量	
14	暗赤褐色	焼土粒子多量，粘土粒子少量	
15	黄褐色	粘土粒子多量，焼土粒子少量，ローム・ブロック・小礫微量	
16	黒褐色	ローム・ブロック・粘土粒子少量	
17	黒褐色	焼土ブロック少量	
18	褐色	ローム・ブロック少量	
19	暗褐色	ローム・ブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	
20	極暗褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・粘土粒子少量，微量パミスブロック微量	
21	暗赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・ローム・ブロック・小礫微量	
22	褐色	ローム・ブロック少量，焼土・砂粒微量	
23	黄褐色	粘土粒子多量，ローム・ブロック少量	
24	黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，ローム・ブロック・砂粒微量	
25	褐色	ローム・ブロック中量	
26	黒褐色	ローム粒子少量	

ピット 確認されなかった。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長軸67cm，短軸65cmの方形で，深さ63cmである。底面は凹状で，壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ローム・ブロック少量，炭化材微量	
2	黒褐色	ローム・ブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量	
3	黒褐色	ローム・ブロック少量，炭化物微量	
4	暗褐色	ローム・ブロック中量	

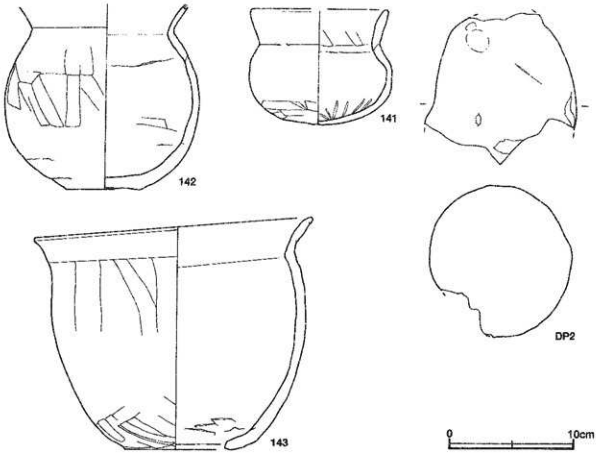
覆土 10層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム・ブロック・炭化物少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量	
2	極暗褐色	ローム・ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量	
3	暗褐色	ローム・ブロック中量，焼土ブロック微量	
4	暗褐色	ローム・ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量	
5	暗褐色	ローム・ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量	
6	暗褐色	ローム・ブロック・焼土ブロック中量	
7	暗褐色	ローム・ブロック中量，炭化物微量	
8	極暗褐色	粘土ブロック少量，ローム・ブロック・焼土ブロック微量	
9	暗褐色	ローム・ブロック中量	
10	暗褐色	ローム・ブロック少量	

遺物出土状況 縄文土器片16点，土師器片79点（坏4，甕・甑75），土製品1点（支脚），石器1点（凹石）が出土している。143は北壁沿いから口縁部を北側にし，横位で押しつぶされた状態で出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第66図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表（第66図）

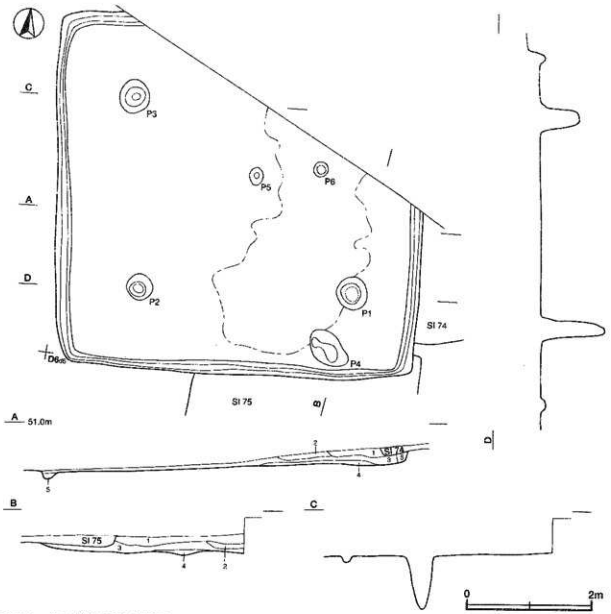
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
141	土師器	壺	(10.7)	9.4	—	長石	にぶい黄橙	普通	体部下端部ヘラ削り，内面を底面方向から放射状にヘラナデ，口縁部横ナデ	南壁寄り下層	50%	
142	土師器	小形甕		(15.0)	6.0	石英・長石・小礫	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ，口縁部横ナデ	北東コーナー部床面	60%	
143	土師器	甕	22.0	18.5	8.0	長石・小礫	明赤褐	普通	体部下端部ヘラ削り，外面縦方向ヘラ削り，口縁部横ナデ，内面ナデ	北壁寄り床面	95%	PL45

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
D6'2	安山岩	(12.4)	(12.1)	—	(1160.0)	外面ナデ，指頭痕	覆	

第73号住居跡（第67・68図）

位置　調査区西部のD6c6区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　南側を第75号住居に，また東側を第74号住居に掘り込まれている。



第67図　第73号住居跡実測図

規模と形状　北東部が調査区域外となっているが，長軸5.8m，短軸5.7mの方形と考えられる。主軸方向はN－8°－Wである。壁高は5～15cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から東側の部分にかけて踏み固められている。壁溝は，確認できた部分では周回している。

竈　確認されなかった。

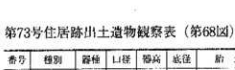
ピット　6か所。P1～P3は，深さ65～105cmで配列から主柱穴と考えられる。他のピットについては，性格不明である。

覆土　5層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1 黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2 暗褐色　ローム粒子少量
3 極暗褐色　ロームブロック中量
4 暗褐色　ローム粒子中量，炭化ブロック微量
5 褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片22点，土師器片80点（坏27，甕53），須恵器片2点が出土している。縄文土器片，須恵器片は流れ込みや混入によるものと考えられる。遺物のほとんどが，覆土中層から出土している。坏の小片では赤彩されたものが見られる。

所見　時期は，出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第68図　第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
144	土師器	坏	(13.6)	(3.6)	－	雲母	にぶい橙	普通	体部内面・口縁部横ナデ，外面ナデ	覆土中	20%

第88号住居跡（第69図）

位置　調査区中央部のD7J3区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　第89・90号住居跡を掘り込んでいる。また，東側を第1号溝，第1714号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　本跡北側が調査区域外になっていること，また本跡の大部分が削平されていることから，規模及び形状は不明である。確認できる部分から主軸方向はN－3°－Wと考えられる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められ，北側には焼土塊が確認された。壁溝は確認されなかった。

竈　確認されなかった。

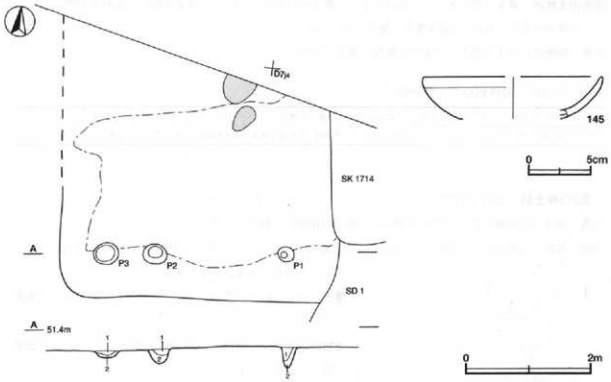
ピット　3か所。いずれも性格不明である。

ピット土層解説
1 黒褐色　ロームブロック少量
2 暗褐色　ロームブロック少量

覆土　掘り込みが浅いため，確認できなかった。

遺物出土状況　縄文土器片5点，土師器片10点（坏2，甕8）が出土している。縄文土器片は流れ込みによるものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第69図　第88号住居跡・出土遺物実測図

第88号住居跡出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
145	土師器	坏	[14.4]	(3.3)	－	雲母	にぶい橙	普通	体部内面・口縁部横ナデ，外面ナデ	覆土中	20%

(2) 土　坑

第24号土坑（第70図）

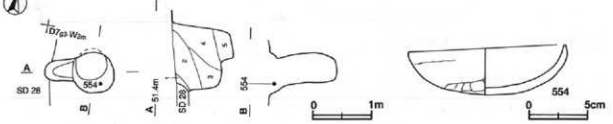
位置　調査区西部のＤ７g2区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　第28号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸1.2m，短軸0.7mの不定形で，主軸方向はＮ－70°－Ｅである。深さは117cmで，壁はほぼ直立している。底面は皿状である。

覆土　５層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量



第70図　第24号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片８点，土師器片４点，礫１点が出土している。縄文土器片は破断面が磨耗しており，人為堆積時の混入である。554は覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から古墳時代後期と考えられる。

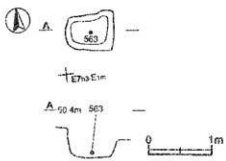
第24号土坑出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
564	土師器	坏	13.4	4.3	－	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面下端部ヘラ削り	上層	60%

第213号土坑（第71・72図）

位置　調査区中央部のＥ７g3区に位置し，台地上の南側に立地している。

規模と形状　長軸0.8m，短軸0.6mの長方形で，主軸方向はＮ－90°である。深さは40cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

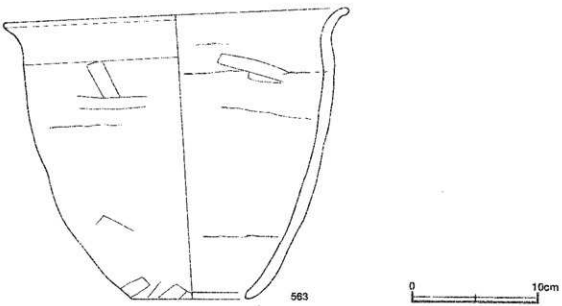


第71図　第213号土坑実測図

覆土　ローム粒子や鹿沼パミスを少量含んだ黒褐色土を新潟としている。

遺物出土状況　土師器片10点（甕）が出土している。563は覆土下層から横位で出土している。

所見　時期は，出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第72図　第213号土坑出土遺物実測図

第213号土坑出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
563	土師器	甕	26.9	23.2	9.4	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面ナデ，口縁部横ナデ	下層	98%

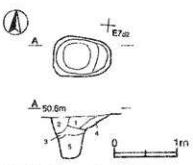
第1047号土坑（第73図）

位置　調査区中央部のＥ７d1区に位置し，台地の南側に立地している。

規模と形状　長軸0.9m，短軸0.7mの楕円形で，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。深さは約70cm で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土　５層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム ブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ローム ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
5　黒褐色　ローム ブロック少量



第73図　第1047号土坑実測図

遺物出土状況　土師器片７点が出土している。土器は細片のため図示できなかった。

所見　時期は，出土土器から古墳時代後期と考えられる。

3　奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構としては，竪穴住居跡37軒，掘立柱建物跡１棟，井戸跡６基，土坑９基を確認した。以下，確認された遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第２号住居跡（第74・75図）

位置　調査区中央部のＥ７11区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　第1号住居跡の北側を掘り込み，東側を第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸は3.7m，短軸は東側が溝に掘り込まれているため，最大で3.6m しか確認できなかったが方形または長方形と考えられる。主軸方向はＮ－６°－Ｗである。壁高は14～27cm ではぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，出入り口付近から中央部にかけて踏み固められている。また，壁溝は南壁の一部と北壁で確認された。

竈　北壁中央部に付設されており，袖部幅は120cm で，焚口部から煙道部までは80cm である。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面が被熱で赤変している。煙道は火床面から外傾し，その後すぐに直立している。

竈土層解説
1　極暗褐色　ローム ブロック微量
2　極暗褐色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3　暗赤褐色　ローム ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　黒褐色　粘土ブロック少量，ローム ブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
5　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土ブロック・砂粒微量
6　黒褐色　ローム ブロック・砂粒少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム ブロック・炭化物微量
8　暗褐色　ローム粒子・粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック微量
9　黒褐色　ローム ブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
10　灰褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
11　黒褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
12　黒褐色　砂粒中量，粘土粒子少量，炭化物微量
13　灰黄褐色　砂粒中量，焼土粒子・粘土ブロック少量
14　黒褐色　砂粒中量，炭化粒子少量
15　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，砂粒少量

ピット　３か所。Ｐ１，Ｐ２はいずれも深さが15cm 前後であるが，性格は不明である。Ｐ３は深さが19cm で，南壁寄りの竈に向い合って位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

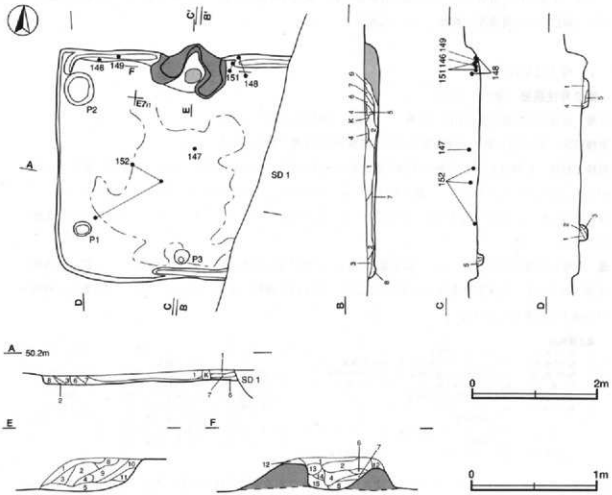
ピット土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量
3 黒 褐 色 ロームブロック中量
4 黒 色 ロームブロック微量
5 褐 色 ロームブロック多量

覆土 9層からなり，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

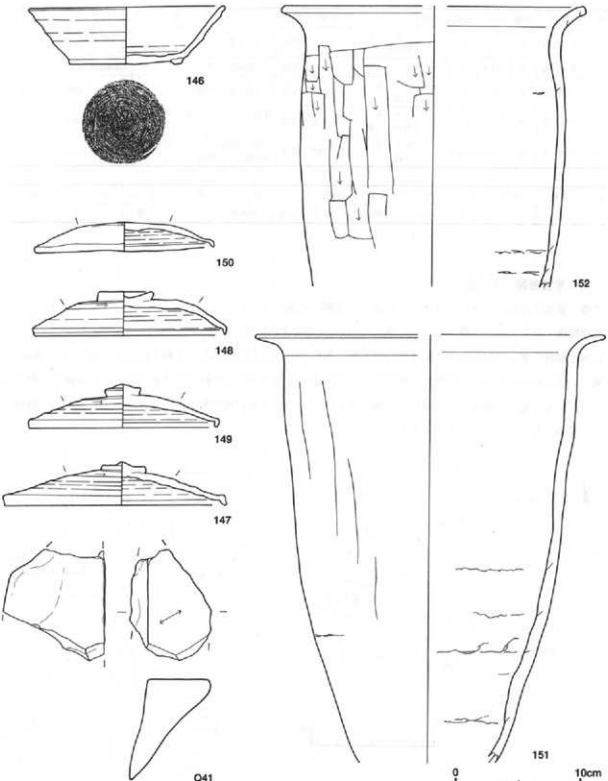
土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量
4 黒 色 ロームブロック微量
5 黒 褐 色 砂粒少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
6 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
7 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8 黒 褐 色 ローム粒子微量
9 黒 色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・砂粒微量

遺物出土状況 縄文土器片92点，土師器片364点（坏63，甕301），須恵器片47点（坏・蓋40，甕7），土師質土器片19点が出土している。縄文土器片や土師質土器片は，流れ込みや後世の混入によるものと考えられる。土器片は全体的に覆土中層からの出土が多い。146は，竈に対して左壁際覆土下層から斜位の状態で，149はそのすぐ東側から逆位の状態で出土している。148は2片が接合したものであるが，2/3以上を占める大きな部位は竈に対して右壁際の覆土下層から斜位の状態で出土している。151は甕の口縁から体部にかけてであるが，口縁を壁に向けて148とほぼ同じ位置から出土している。147は，覆土下層や床面付近から出土した他の遺物とほぼ同時期のものであるが，覆土上層から出土しているため混入の可能性がある。

所見 竈や壁付近の遺物は本跡に伴うものと判断でき，時期は8世紀中頃と考えられる。



第74図 第2号住居跡実測図



第75図　第２号住居跡出土遺物実測図

第２号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
146	須恵器	高台付坏	15.4	4.7	8.8	石英・長石	灰	普通	回転ヘラ切り後，高台貼り付け	北壁溝下層	70%	PL46
147	須恵器	蓋	17.5	3.5	－	長石・小礫	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り，天井部内側に指頭圧痕	中央部上層	80%	PL46

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
148	須恵器	蓋	15.1	3.5	－	石英・長石・黒色粒子	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	北壁溝下層	80%	PL46
149	須恵器	蓋	14.9	3.5	－	長石・小礫	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	北壁溝底面	100%	PL46
150	須恵器	蓋	14.1	2.4	－	石英・長石・小礫	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	98%	PL46
151	土師器	甕	[27.4]	(34.5)	－	石英・長石・雲母・小礫	にぶい褐	普通	体部外面ヘラナデ後ナデ，内面ナデ	竈付近下層	30%	
152	土師器	甕	[23.6]	(22.5)	－	石英・長石・小礫	にぶい黄橙	普通	体部外面縦方向のヘラ削り，口縁部横ナデ，内面ナデ	中央部下層	20%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q41	砥石	(8.8)	6.4	8.0	(400.0)	泥岩	一面使用，被熱痕	覆土中	

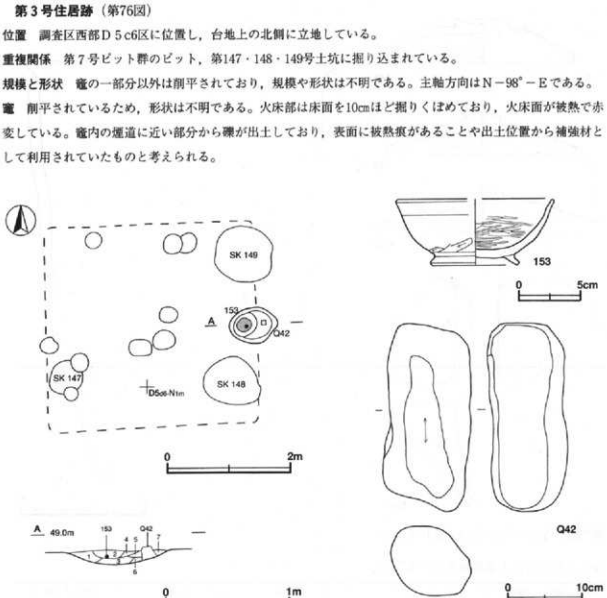
第3号住居跡（第76図）

位置　調査区西部D5c6区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　第7号ピット群のピット，第147・148・149号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　竈の一部分以外は削平されており，規模や形状は不明である。主軸方向はN－98°－Eである。

竈　削平されているため，形状は不明である。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており，火床面が被熱で赤変している。竈内の煙道に近い部分から礫が出土しており，表面に被熱痕があることや出土位置から補強材として利用されていたものと考えられる。



第76図　第3号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

1 黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
2 黒褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
3 黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，粘土粒子微量
4 暗灰黄色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック少量
5 黒褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量
6 暗赤褐色　焼土ブロック中層
7 黒褐色　焼土粒子少量，ロームブロック・粘土ブロック微量

覆土　削平されているため，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片20点（坏1，甕19），石器1点（砥石）が出土している。Q42は竈内の煙道に近い部分から横位の状態で出土している。153は竈内中央部の覆土中層から正位の状態で出土している。

所見　本跡内のピットは，周辺からも同様のピットが確認されていることから，ピット群内のピットと考えられる。Q42は砥石としての使用痕が確認できることから，砥石を竈の補強材に転用したものと考えられる。出土遺物が少ないが，竈内の土器から時期は10世紀代と推定される。

第3号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
153	土師器	鉢台付甕	(12.5)	5.4	6.8	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端部ヘラ削り，体部外面ナデ，口縁部横ナデ，内面ヘラ磨き，高台貼り付け	竈内中層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	砥石	25.8	12.0	10.3	4300.0	花崗岩	一面使用	竈内煙道	P1.60

第4号住居跡（第77～79図）

位置　調査区中央部のE7c1区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　西側を第41号溝に，東隅中央部を第6号地下式壙にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸は3.9m，短軸は西側が第41号溝に掘り込まれているため最大で3.1mしか確認できなかった。主軸方向はN－2°－Wである。壁高は14～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で中央部の一部が踏み固められている。残存していた部分では壁溝が確認されており，本来は周回していたものと推定される。

竈　焚口部から煙道部までは160cmである。左袖の一部が溝に掘り込まれているため，袖部幅の最大は160cmである。火床面は床面を20cmほど掘りくぼめており，被熱で赤変している。袖部は砂質粘土で構築されており，右袖の先端部では甕片を芯材に袖を構築している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

1 黒褐色　焼土ブロック・ロームブロック少量，粘土ブロック微量
2 暗褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量
3 黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
4 黒色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
5 にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量，炭化物微量
6 黒色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
7 黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
8 黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
9 黒褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
10 暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量，砂粒微量
11 灰褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
12 黒褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック・砂粒微量
13 黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒微量
14 にぶい褐色　粘土ブロック少量，焼土ブロック微量

ピット　3か所。P1，P2とも深さが約20cmあり，配列から主柱穴と考えられる。また，P3は南壁寄りの竈に向かい合う位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

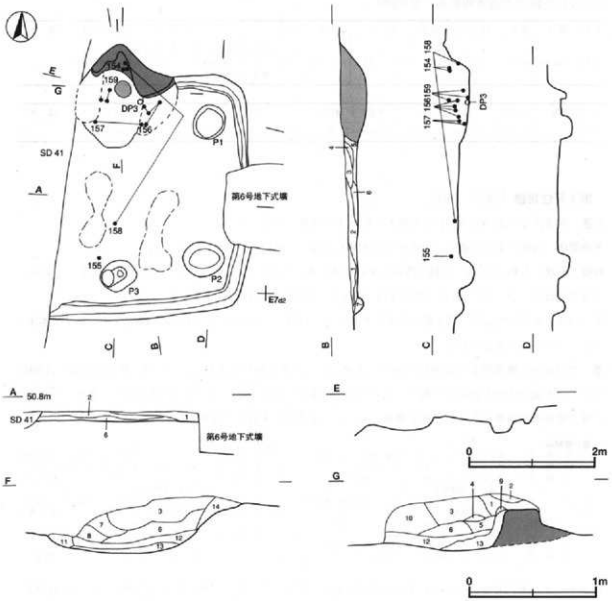
覆土　7層からなり，ロームブロックや焼土ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

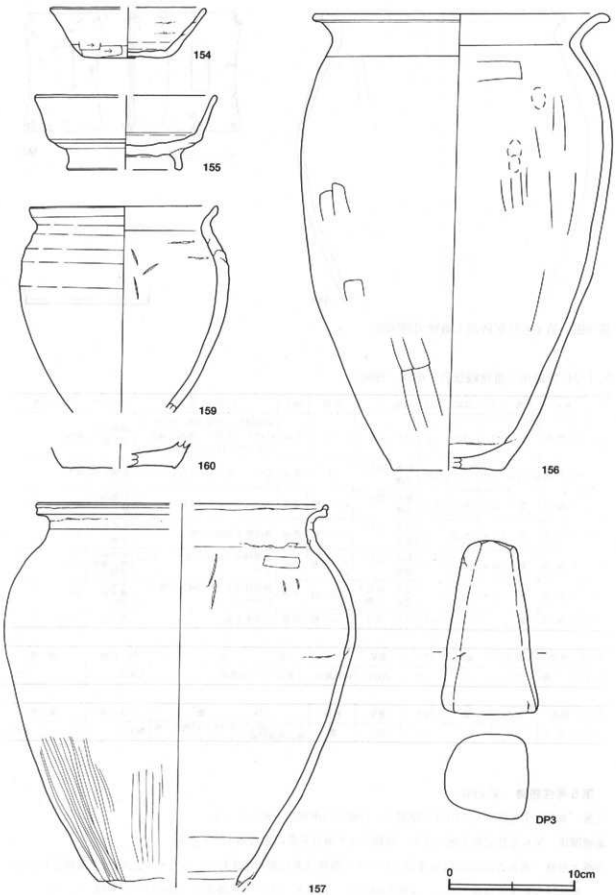
1	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	5	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
2	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量	6	黒　褐　色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
3	暗赤褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量	7	極暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
4	黒　褐　色	粘土ブロック少量，焼土ブロック微量			

遺物出土状況　縄文土器片62点，土師器片372点（坏36，甕336），須恵器片36点（坏27，甕9）が出土している。縄文土器片は，人為堆積時の混入によるものと考えられる。156は右袖の先端部から出土している。159は左袖内側の火床面付近から出土している。154は煙道部付近から出土しており，本跡に伴うものと考えられる。

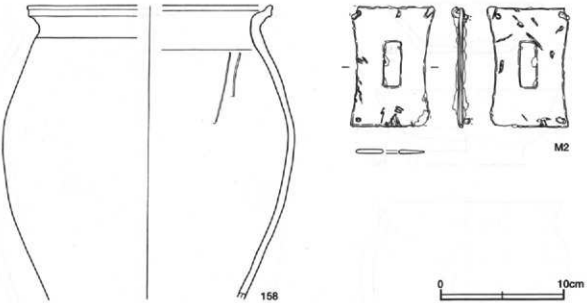
所見　時期は，竈内の出土土器から8世紀後半と考えられる。



第77図　第4号住居跡実測図



第78図　第４号住居跡出土遺物実測図(1)



第79図　第４号住居跡出土遺物実測図(2)

第４号住居跡出土遺物観察表（第78・79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
154	須恵器	坏	[12.1]	4.0	7.1	石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向への手持ちヘラ削り，体部下端部一方向への手持ちヘラ削り	煙道部付近上層	40%
155	須恵器	高台付坏	[14.0]	6.0	[9.0]	石英・長石・小礫	灰	普通	回転ヘラ切り後，高台貼り付け	南側中層	40%
156	土師器	甕	23.2	36.9	[8.6]	長石・雲母・小礫	にぶい橙	普通	内面ヘラによる工具痕	石釜部中層	50%
157	土師器	甕	[22.8]	(30.9)	—	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	体部面下端部ヘラ磨き	左石釜部下層	50%
158	土師器	甕	[19.8]	(23.9)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ後ナデ，内面ナデ	中央部下層，竈煙道部付近	25%
159	土師器	甕	14.8	(16.6)	—	石英・長石・雲母・小礫	にぶい橙	普通	体部外面ナデ，口縁付近横ナデ，内面ナデ	火床部，竈下層，中層	40%
160	土師器	甕	—	(2.1)	[8.9]	長石・雲母	にぶい褐	普通	底部木葉痕	覆土中	3%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
DP3	支脚	13.9	7.2	7.0	760.0	四角錐状，丁寧なナデ，被熱痕	火床部	PL57

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	不明品	9.6	6.4	1.0	73.5	鉄	コーナー部３か所の孔に釘残存，裏面に木質付着	覆土中	PL61

第５号住居跡（第80図）

位置　調査区中央部のＥ７b1区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　第６号住居跡を掘り込み，西側半分を第41号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南北方向には3.1m確認されたが，西側は溝に掘り込まれているため，2.2mしか確認されなかった。形状は方形または長方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁高は15～25cmほどで外傾している。

床　ほぼ平坦で，南から北東にかけての広い範囲が踏み固められている。壁溝は北東コーナー部で確認された。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，左袖部が溝により掘り込まれているため袖部幅は90cmしか確認されなかった。焚口部から煙道部までは100cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており，火床面は被熱で赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量	6	極暗褐色	焼土粒子中量，ロームブロック微量
2	灰　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量	7	暗　褐　色	焼土ブロック・砂粒少量，ロームブロック・粘土ブロック微量
3	黒　褐　色	焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック微量	8	黒　褐　色	粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
4	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	9	褐　　色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
5	黒　褐　色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量	10	暗赤褐色	焼土ブロック中量，砂粒少量，炭化粒子微量
			11	褐　　色	粘土粒子多量，砂粒少量

ピット　2か所。P1，P2ともに深さは30cmで，配列から主柱穴と考えられる。

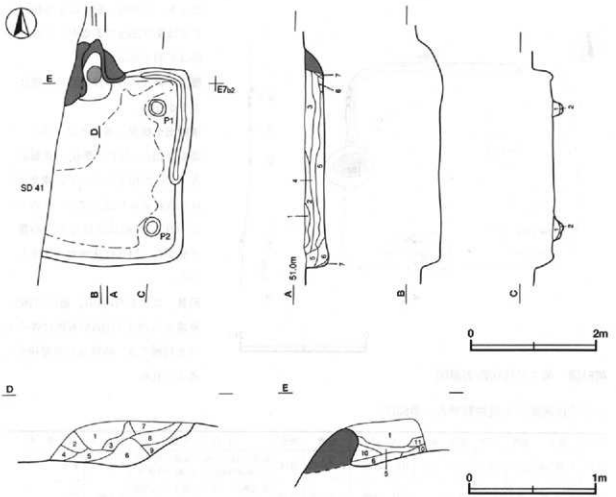
ピット土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子微量
2	極暗褐色	ローム粒子少量

覆土　7層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子少量	5	褐　灰　色	ロームブロック少量
2	黒　褐　色	ロームブロック少量	6	灰黄褐色	砂粒多量，ローム粒子・粘土粒子微量
3	黒　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	7	灰　褐　色	ローム粒子中量
4	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子少量，粘土ブロック微量			



第80図　第5号住居跡実測図

遺物出土状況　縄文土器片22点，土師器片122点（坏18，甕104），須恵器片８点（坏１，甕７）が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入と考えられる。坏片は出土数が少なく，すべて細片であるため図示することができなかった。甕片もほとんどが体部片であり，磨耗が激しい。

所見　坏片が少なく，磨耗した土器が多いため，時期の絞込みは難しいが，本住居が掘り込んでいる第６号住居跡が古墳時代のものであること，須恵器片が出土していること，さらに近辺から規模，形状，主軸方向が同じ住居が確認されていることから，時期は平安時代と考えられる。

第７号住居跡（第81・82図）

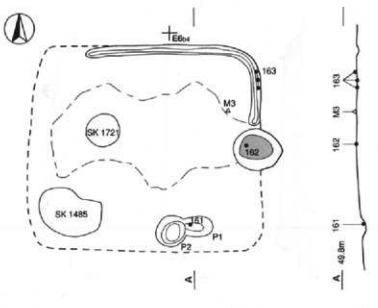
位置　調査区西部のＥ６b3区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　南側を第1485号土坑に，中央部分を第1721号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南西部分が削平されているが，北東部分で確認された壁や硬化面の様子から，長軸3.7m，短軸3.3mほどの長方形と推定される。主軸方向はＮ－90°－Ｅである。

床　竈から西方向に向かって，踏み固められた部分が確認された。また，東壁の竈から北側と北壁の一部に壁溝が確認された。

竈　袖部が削平されており，火床面しか確認されなかった。



第81図　第７号住居跡実測図

ピット　２か所。Ｐ１は深さ10cm，Ｐ２は深さ20cmであるが，ともに性格は不明である。

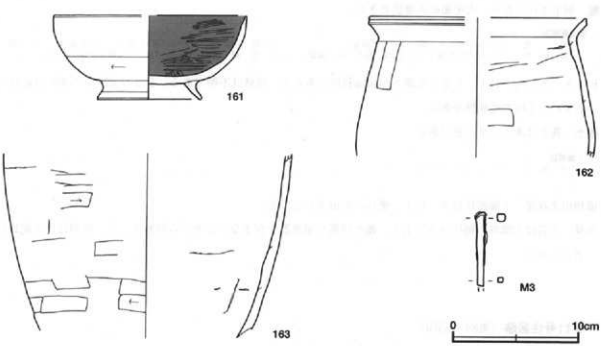
覆土　掘り込みが浅いため，確認できなかった。

遺物出土状況　縄文土器片25点，土師器片18点（坏12，甕６），鉄製品１点（釘）が出土している。縄文土器片は流れ込みや混入によるものと考えられる。161は正位でＰ１の覆土下層から，Ｍ３は床面から出土している。

所見　ピット内の161，竈内の162，壁溝から出土の163が本跡に伴うものと判断でき，時期は10世紀後半と考えられる。

第７号住居跡出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
161	土師器	高台付坏	(15.1)	6.7	8.1	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け，坏部外面ナデ，内面ヘラ磨き	Ｐ１下層	40%
162	土師器	甕	(17.2)	(11.2)	－	雲母・小礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ後ナデ，内面ヘラナデ	火床面	10%
163	土師器	甕	－	(14.7)	－	雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	東壁溝底部	5%



第82図　第７号住居跡出土遺物実測図

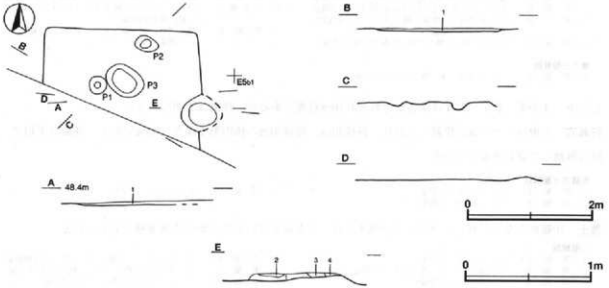
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　　徴	出土位置	備　考
M3	釘	(5.9)	0.8	0.7	(9.6)	鉄	角釘，先端部欠損	東側床面	PL61

第８号住居跡（第83図）

位置　調査区西部のＥ４a0区に位置し，台地上の南側に立地している。

規模と形状　南側が調査区域外になっているため，長軸は2.5mまで，短軸は1.9mしか確認できなかったが，方形または長方形と推定される。主軸方向はＮ－90°－Ｅである。

床　ほぼ平坦である。



第83図　第８号住居跡実測図

竈　削平されており，火床面のみ確認できた。

竈土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム・ブロック・焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
3　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット　3か所。P1，P2とも深さが10cm程度であるが，性格は不明である。P3は形状から本跡以前に掘り込まれた土坑の可能性がある。

覆土　覆土は薄く，単一層である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片17点（坏1，甕16）が出土している。

所見　土器は土師器の細片のみである。竈の位置や須恵器を含まないことから判断すると，時期は10世紀以降と考えられる。

第11号住居跡（第84・85図）

位置　調査区西端部のD4j0区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　第438号土坑に竈の東端を掘り込まれている。第12号住居跡の北西部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.6m，短軸3.2mの長方形で，主軸方向はN－90°－Eである。壁高は5～12cmで外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から東方向，西方向へ向けて踏み固められている。壁溝は南西コーナー部を除き全周している。

竈　2か所確認された。竈1は南東コーナー部付近に付設されており，袖部幅は115cm，焚口部から煙道部までは105cmである。火床面と床面はほぼ同じ高さで，被熱により赤変している。竈2は南西コーナー部付近で，袖部は大部分が削平されており火床面のみ確認された。火床面と床面はほぼ同じ高さである。火床面付近で確認された石は，その配置から袖部の芯材として使用されていたものと考えられる。

竈1土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム・ブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
3　黒　　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
5　黒　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
6　灰黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
7　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土ブロック微量

竈2土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット　4か所。P1～P4は深さがそれぞれ10cm程度であるが，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置しており，長径40cm，短径30cmの楕円形で深さは30cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

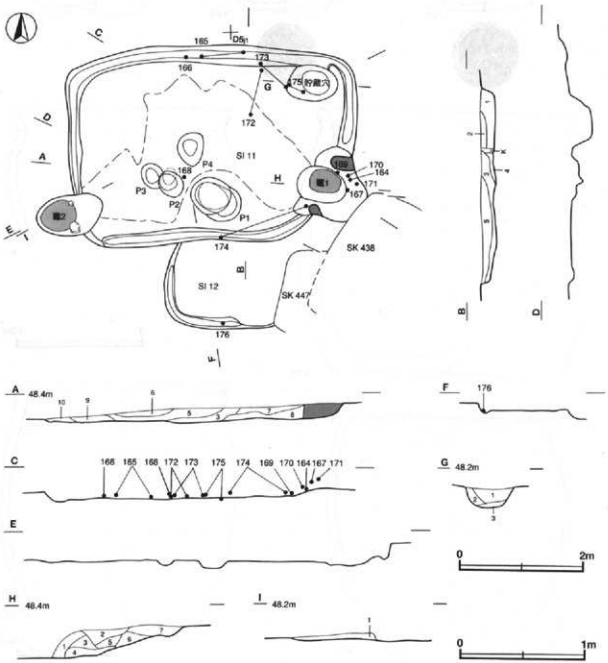
貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

覆土　10層からなり，ローム・ブロックや焼土ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

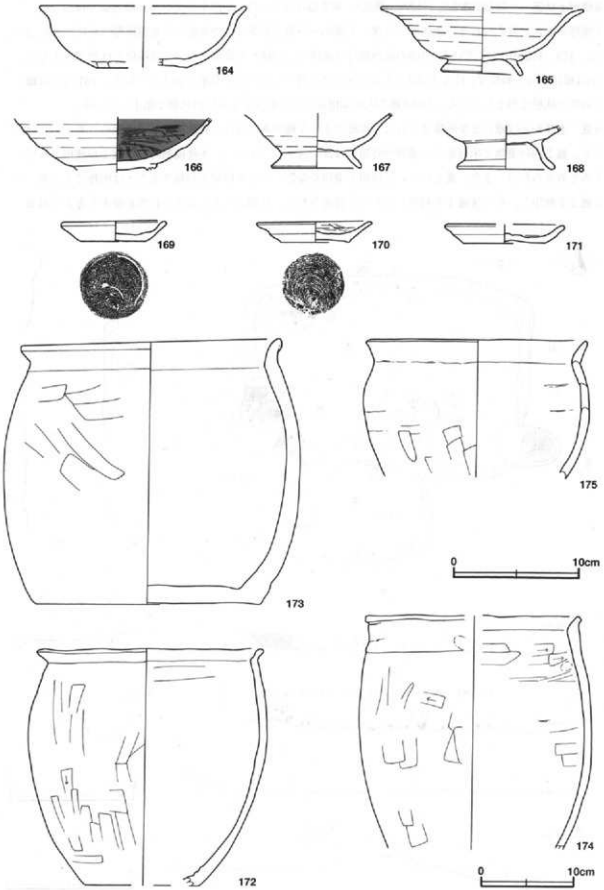
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム・ブロック・焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ローム・ブロック・焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
8　暗　褐　色　ローム・ブロック・焼土ブロック少量
9　灰　褐　色　ロームブロック少量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片303点（坏208，甕95），須恵器片６点（坏）が出土している。須恵器片は細片で，人為堆積時の混入と考えられる。全体的には覆土下層からの出土が多く，中央部から北側壁際にかけて165，166，172，173，175が出土している。165の高台部分は逆位で，口縁から底部にかけては斜位の状態で出土している。166は壁に沿って斜位で，172，173はともに土圧により押しつぶされた状態で出土している。164，167は竈内から斜位の状態で出土している。169は竈の火床部付近から完形のまま逆位の状態で出土している。

所見　本跡からは竈が２か所確認された。本跡のような竈のあり方は一般住居としては極めてめずらしい例である。竈１内の遺物と床面からの遺物の時期がほぼ一致することから，本跡廃絶時には竈１が使用されていたものと考えられる。また，竈２については出土遺物がなかったため時期を判断することは困難であるが，当初は竈２を使用し，その後竈１を利用したものと推測される。時期は出土土器から11世紀前半と考えられる。



第84図　第11・12号住居跡実測図



第85図　第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
164	土 師 器	坏	[16.2]	5.0	[7.2]	雲母	橙	普通	底部回転糸切り，下端部手持ちヘラ削り後ナデ，内面ナデ	竈内底面	25%
165	土 師 器	高台付坏	[16.0]	5.4	6.5	赤色粒子	灰黄褐	普通	高台貼り付け，ロクロナデ	北壁溝下層	70% PL46
166	土 師 器	高台付坏	－	(4.0)	－	長石	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け，内面ヘラ磨き	北壁溝下層	40%
167	土 師 器	高台付坏	－	(4.5)	7.0	石英・長石	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け，内面ナデ	竈内上層	30%
168	土 師 器	高台付坏	－	(3.5)	7.6	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り後ナデ，その後高台貼り付け	中央部下層	30%
169	土 師 器	小皿	8.0	1.7	4.9	雲母	にぶい褐	普通	底部回転糸切り後ナデ	火床部付近	95% PL46
170	土 師 器	小皿	9.0	1.7	5.4	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	竈内下層	70% PL46
171	土 師 器	小皿	[9.2]	1.5	6.6	石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈内上層	50% PL46
172	土 師 器	甕	23.2	25.6	[11.9]	石英・長石	灰黄褐	普通	体部外面下端を中心にヘラ削り後ナデ，口縁部横ナデ	北側床面	80% PL46
173	土 師 器	甕	20.3	21.3	17.8	長石・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ後ナデ	北側下層	70% PL46
174	土 師 器	甕	[22.3]	(25.2)	－	長石	灰黄褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ	南側壁溝・竈内下層	25%
175	土 師 器	甕	17.2	(11.0)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，口縁部横ナデ	貯蔵穴内上層	60%

第12号住居跡（第84・86図）

位置　調査区西部のD 5j1区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　南西部を除いて大部分を第11号住居，第438・447号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸が最大で1.9m，短軸が最大で1.4mしか確認できなかった。形状は方形または長方形と推測される。壁高は最も高い部分で11cmあり，外傾して立ち上がっている。

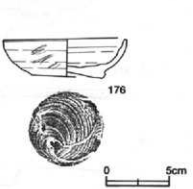
床　ほぼ平坦で，南西コーナー部で壁溝が確認された。

竈　住居や土坑に掘り込まれているため，確認されなかった。

覆土　掘り込みが浅く，確認できなかった。

遺物出土状況　土師器片7点（坏1，甕6），須恵器片1点（甕）が出土している。出土数が少なくほとんどが細片である。また覆土が薄く層位を決定することは困難である。176はほぼ完形で，南壁の壁溝から斜位で出土している。

所見　第11号住居に掘り込まれていることと出土土器から，時期は10世紀後半と考えられる。



第86図　第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第86図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
176	土 師 器	小皿	9.6	3.2	5.7	石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	南壁溝内	95%

第15号住居跡（第87図）

位置　調査区西部のD515区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　南壁を第236号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北側が調査区域外となっており，長軸は4.0m，短軸は1.8mしか確認できなかった。壁高は最大で10cmである。

床　ほぼ平坦である。本跡との関係は不明であるが，調査区域際の床面から縦50cm，横30cm程度の表面が平らな礫が確認されている。また壁際からも表面が平らな礫が確認されている。

ピット　3か所。いずれも性格不明である。

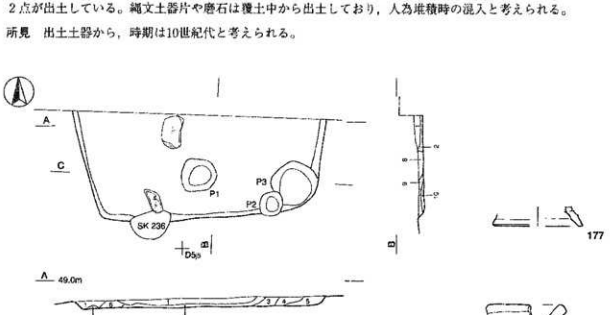
覆土　10層からなり，ロームブロックや焼土ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	6	黒色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	7	褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量	8	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	9	黒色	ローム粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	10	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片3点，土師器片52点（坏22，甕30），須恵器片2点（坏，甕），石器1点（磨石），礫2点が出土している。縄文土器片や磨石は覆土中から出土しており，人為堆積時の混入と考えられる。

所見　出土土器から，時期は10世紀代と考えられる。



第87図　第15号住居跡・出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
177	土師器	表面付坏	—	(1.5)	[6.6]	白色粒子	にぶい橙	普通	外面ヘラ磨き	覆土中	10%
178	土師器	甕	—	(2.5)	—	雲母	にぶい黄橙	普通	外面丁寧撫	覆土中	5%

第16号住居跡（第88・89図）

位置　調査区西部のＥ５a5区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　東壁の竈北側部分を第387号土坑に，また西壁を第４号地下式壙に，東壁を第1723号土坑に掘り込まれている。

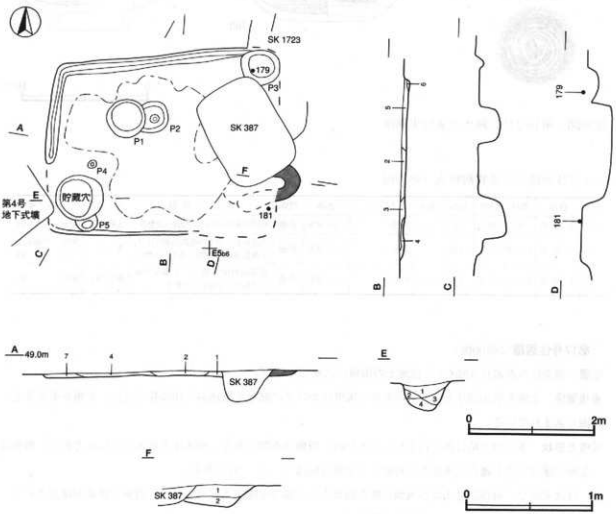
規模と形状　長軸3.6m，短軸2.9mの長方形で，主軸方向はＮ－95°－Ｅである。壁高は２～10cmで外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部の広い範囲が踏み固められている。北壁下と西壁下に壁溝が確認されている。

竈　東壁の南側コーナー付近に竈を構築していたと考えられる粘土が確認されていることから，この部分に竈が付設されていたものと考えられる。

竈土層解説
1　灰　褐　色　　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　　ロームブロック少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ３，Ｐ５はともに深さ20cm程度で性格不明である。Ｐ４は深さが約30cmあり，西壁寄りの竈に向い合う位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第88図　第16号住居跡実測図

貯蔵穴　南西コーナー付近に位置し，径70cmほどの円形である。深さ40cmで底面は皿状を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量		3	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	
2	褐色	ロームブロック中量		4	灰色	粘土ブロック多量，ロームブロック少量	

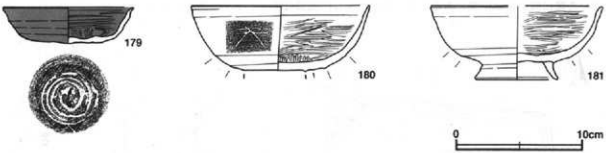
覆土　6層からなり，ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐灰色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量		4	褐色	ロームブロック中量	
2	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量		5	黒褐色	ロームブロック少量	
3	褐色	ロームブロック少量		6	褐色	ロームブロック多量	

遺物出土状況　土師器片53点（坏27，甕26）が出土している。179は北東コーナー付近の覆土下層から正位の状態で，181は南東コーナー付近の床面から正位の状態で出土している。

所見　時期は，須恵器を伴っていないことや東竈であることなどから，10世紀前半と考えられる。



第89図　第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第89図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
179	土師器	坏	10.2	3.0	5.5	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り，内面ヘラ磨き	下層	90%　PL47
180	土師器	高台付坏	13.9	(5.3)	－	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け，下端部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土中	70%　外面に刻書「夫」　PL47
181	土師器	高台付坏	[13.4]	5.9	6.4	長石	にぶい黄橙	普通	底部高台貼り付け，下端部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈付近床面	80%　PL47

第17号住居跡（第90図）

位置　調査区の西部D 5j6区で，台地上の南側に立地している。

重複関係　北側を第1653号土坑に，中央から東壁にかけての部分を第1654・1655号土坑に，南側を第2号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　多くの土坑に掘り込まれているため，規模は不明である。形状は方形あるいは長方形で，西壁溝と北壁に確認できた竈の火床部から判断して主軸方向はN－2°－Wである。

床　ほぼ平坦で，第1653号土坑の南側に踏み固められた部分が確認された。また，西側に壁溝が確認された。

竈　北壁側に被熱で赤変した火床面のみ確認できた。

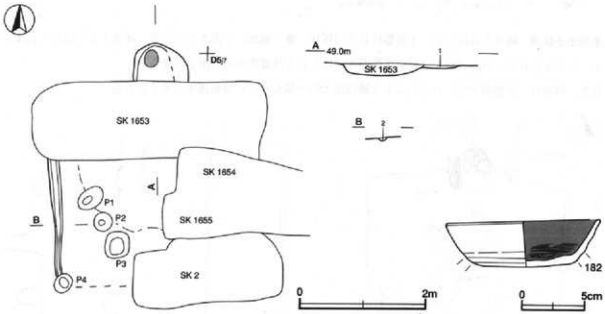
ピット　4か所確認できたが，本跡に伴うものかどうかは不明である。

覆土　覆土はほとんどが削平されており堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　　焼土ブロック少量，粘土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片33点（坏19，甕14），須恵器片２点（甕）が出土している。すべて細片であるが，坏片には体部外面にロクロナデが確認できるものがみられる。

所見　時期は，出土土器から10世紀代と考えられる。



第90図　第17号住居跡・出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
182	土師器	坏	12.0	3.9	6.9	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ，下端部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土中	80%　PL47

第18号住居跡（第91図）

位置　調査区西部のＤ５d7区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　竈の煙道付近を第355号土坑に，北西コーナー部を第221号土坑に，床面中央部から南部にかけて第450・451・452号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北東部分を除き削平されているため，南北方向に2.8m，東西方向に3.1mほどで，方形あるいは長方形と推定でき，主軸方向はＮ－10°－Ｗである。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁に付設されており，袖部幅は65cmである。煙道部付近が第355号土坑に掘り込まれているため，確認できた焚口部から煙道部までは65cmである。袖部は砂質粘土で構築されており，火床面は床面とほぼ同じ高さで，被熱により赤変している。

竈土層解説

1	黒	色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
2	黒	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
3	黒	色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
4	黒	褐 色	ロームブロック・炭化物・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
5	黒	褐 色	炭化物・粘土粒子微量
6	黒	褐 色	粘土粒子中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
7	黒	褐 色	焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量，ロームブロック微量
8	灰	褐 色	ローム粒子微量，焼土ブロック・炭化物微量
9	暗	褐 色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
10	褐	色	粘土粒子中量，砂粒少量，焼土ブロック・炭化物微量
11	黒	褐 色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
12	極暗褐色		焼土ブロック少量，炭化物・砂粒微量
13	極暗褐色		焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量

ピット　3か所。いずれも深さ10～35cmであるが，性格は不明である。

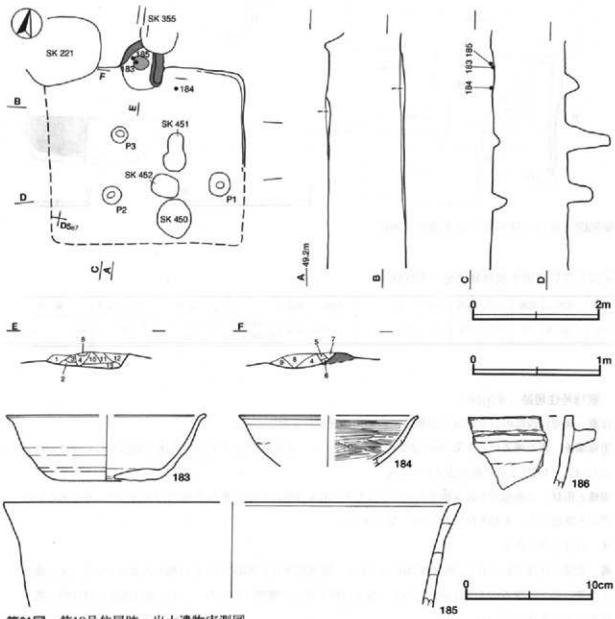
覆土　単一層である。覆土の大部分が削平されており，堆積状況は不明である。

土層解説

1	褐	色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況　縄文土器片12点，土師器片41点（坏16，甕・甑25）が出土している。縄文土器片は混入によるものと考えられる。183，185をはじめ土師器片のほとんどは竈内からの出土である。

所見　時期は，須恵器が見られないことと竈内出土の土器から，10世紀後半と考えられる。



第91図　第18号住居跡・出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表（第91図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
183	土師器	坏	[15.8]	5.2	[8.6]	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後穿孔	火床面	30%
184	土師器	坏	[14.0]	(3.1)	－	雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き	竈付近床面	20%
185	土師器	甕ヵ	[36.2]	(8.5)	－	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面ヘラナデ後ナデ	竈内下層	5%
186	土師器	羽釜ヵ	－	(5.8)	－	石英・長石	橙	普通	内面ナデ，羽部に指頭圧痕	覆土中	5%

第19号住居跡（第92・93図）

位置　調査区西部のD5j5区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　南東部を第1723号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.8m，短軸2.5mの長方形で，主軸方向はN－90°－Eである。壁高は約15cmで直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部から各コーナー部に向かって広い範囲が踏み固められている。また，一部土坑に掘り込まれている部分を除き，壁溝が確認されていることから，全周していたものと推測される。

竈　第1723号土坑の底面から焼土が確認されている。焼土の規模は径10cm，深さ3cmほどで皿状を呈している。規模と形状から火床部と推定され，南東コーナー部に竈が付設されていた可能性がある。第1723号土坑に掘り込まれているため，竈の規模と形状は不明である。

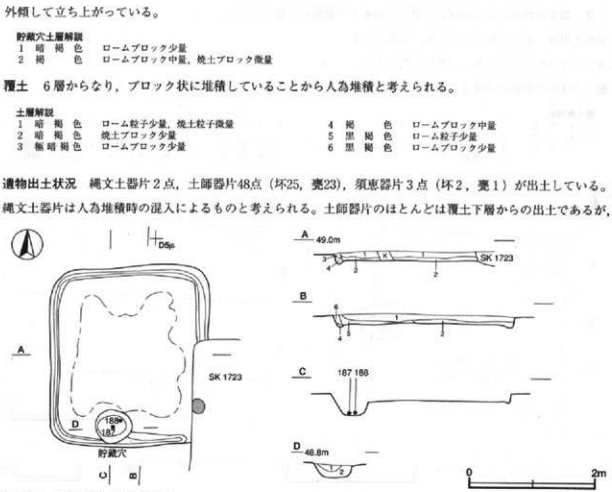
貯蔵穴　南壁際の中央やや西寄りに位置している。長軸60cm，短軸50cmの楕円形である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　　ロームブロック少量
2　褐　　色　　ロームブロック中量，焼土ブロック微量

覆土　6層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　　焼土ブロック少量
3　極暗褐色　　ロームブロック少量
4　褐　　色　　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　　ロームブロック少量

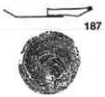
遺物出土状況　縄文土器片2点，土師器片48点（坏25，甕23），須恵器片3点（坏2，甕1）が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。土師器片のほとんどは覆土下層からの出土であるが，



第92図　第19号住居跡実測図

細片が多い。土師器坏片には内面が黒色処理されたもの，内面に磨きが入っているもの，高台が剥離しているものが見られる。187は貯蔵穴の底面から，188は貯蔵穴の覆土下層から斜位の状態で出土している。

所見　時期は，貯蔵穴内の土器から10世紀後半と考えられる。



第93図　第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表（第93図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
187	土師器	小皿	－	(0.7)	4.9	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	貯蔵穴底面	10%
188	土師器	高台付坏	－	(2.9)	－	赤色粒子	にぶい橙	普通	底部ヘラ切り後ナデ，その後高台貼り付け，下端部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	貯蔵穴下層	20%

第20号住居跡（第94図）

位置　調査区西部のD5g0区に位置し，台地上の北側に立地している。

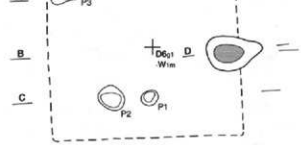
規模と形状　削平されているため，不明である。

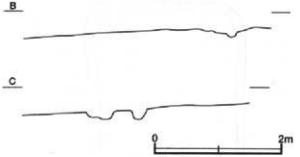
床　削平されているため，状態は不明である。

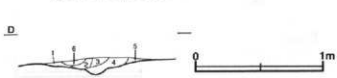
竈　火床部の範囲のみ確認された。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめており，被熱で赤変している。

竈土層解説

1　灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ロームブロック微量
4　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量，ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
6　灰　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量







第94図　第20号住居跡・出土遺物実測図

ピット　3か所。いずれも深さ10～20cmで，本跡に伴うかどうかも含め性格不明である。

覆土　削平されており，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片18点（坏10，甕8）が出土しているが，すべて細片である。

所見　時期は，火床面から出土した土器から平安時代と推測される。

第20号住居跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
189	土師器	坏	－	(0.6)	[6.0]	密	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	火床面	5％

第30号住居跡（第95・96図）

位置　調査区西部のＥ６c9区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　竈の煙道部付近を第32号住居に掘り込まれている。また，第２号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.6m，短軸3.3mの方形で，主軸方向はＮ－０°である。壁高は10～30cmで東壁は直立し，他の壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，出入り口ピット付近から竈へ向かっての広い範囲が踏み固められている。また，壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されており，袖部幅は130cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。煙道部の一部を，北側の第32号住居に掘り込まれているため，確認できた焚口部から煙道部までは110cmである。火床面は床面を８cmほど掘りくぼめており，被熱で赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量	7	暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
2	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	8	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	9	極暗褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量
4	褐色	粘土粒子多量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量	10	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5	赤褐色	焼土粒子多量，炭化材微量	11	暗赤褐色	粘土粒子多量，焼土粒子中量
6	にぶい黄褐色	粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化材微量	12	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
			13	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量

ピット　４か所。Ｐ２，Ｐ３は深さがともに15cmで，配列から主柱穴と考えられる。また，Ｐ４の深さは15cmで，南壁寄りの竈に向い合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１は，性格不明である。

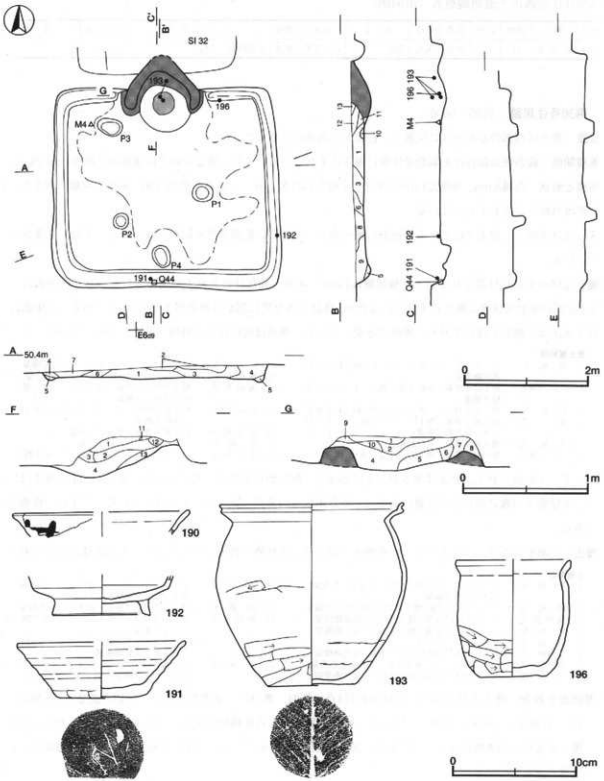
覆土　13層からなり，ロームブロックや焼土ブロック，炭化物を含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

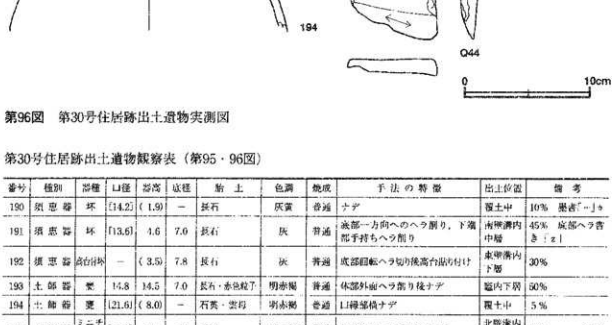
1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物・粘土ブロック微量	9	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量	10	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック微量
3	極暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	11	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量	12	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	13	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
6	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量			
7	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量			
8	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量			

遺物出土状況　縄文土器片13点，土師器片171点（坏24，甕147），須恵器片15点（坏13，甕２），鉄製品１点（釘），石器１点（砥石）が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。全体的に覆土下層からの遺物がほとんどである。193は竈内から出土している。191，192，196，Q44は検際から斜位の状態で出土している。

所見　竈内の193は，本跡に伴うものと考えられる。191，192，196は，壁際覆土下層からの出土であり，壁上から転落した土器とも考えられ，本跡に伴う可能性がある。時期は，出土土器から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。



第95図　第30号住居跡・出土遺物実測図



第96図　第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表（第95・96図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
190	須恵器	坏	(14.2)	(1.9)	—	長石	灰黄	普通	ナデ	覆土中	10% 墨書「一」か
191	須恵器	坏	(13.6)	4.6	7.0	長石	灰	普通	底部一方向へのヘラ削り，下端部手持ちヘラ削り	南壁溝内中層	45% 底部ヘラ書き「z」
192	須恵器	高台付坏	—	(3.5)	7.8	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	東壁溝内下層	30%
193	土師器	甕	14.8	14.5	7.0	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ	竈内下層	60%
194	土師器	甕	(21.6)	(8.0)	—	石英・雲母	明赤褐	普通	LR種縄横ナデ	覆土中	5%
196	土師器	ミニチュア甕	(9.2)	9.4	5.4	長石	にぶい赤褐	普通	体部ナデ，下端部ヘラ削り	北壁溝内中層	60% PL47

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q44	砥石	(9.1)	7.0	1.5	(111.7)	緻密質砂岩	二面使用	南側壁溝内下層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	釘	(4.5)	0.5	0.5	(3.7)	鉄	角釘，両端部欠損	P 3付近床面	

第32号住居跡（第97図）

位置　調査区中央部のE 6 b9区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　第30号住居跡の竈の煙道部付近を，また第33号住居跡の南西部分を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.0m，短軸2.6mの長方形で，主軸方向はN－0°である。壁高はいずれも5cm程度で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から南北方向に向かって踏み固められている。また，壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は袖部幅が60cmで，煙道部付近が削平されているため，確認できた焚口部から煙道部までは最大で85cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床面は床面をわずかに掘りくぼめ，被熱で赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

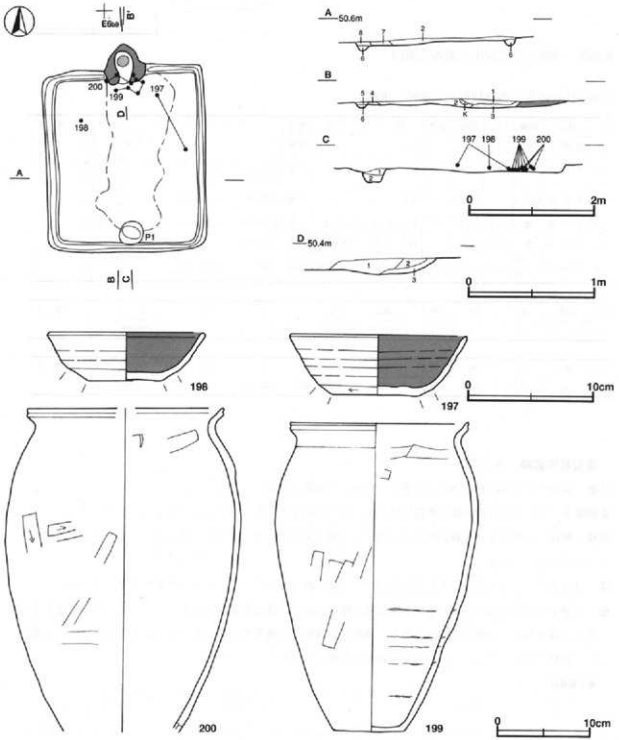
竈土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・粘土ブロック少量，焼土粒
2　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量
3　暗赤褐色　ロームブロック少量，粘土粒子微量

ピット　1か所。P 1は深さが20cmで，南壁寄りの竈に向かい合う位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1 黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2 黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量

覆土　8層からなり，ロームブロック，焼土ブロック，炭化物を含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1 黒　　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック微量
2 黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
3 黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4 暗 褐 色　焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
5 黒 褐 色　砂粒少量，焼土ブロック・ロームブロック微量
6 極暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
7 暗 褐 色　ロームブロック少量
8 暗 褐 色　ローム粒子少量



第97図　第32号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片36点，弥生土器片１点，土師器片242点（坏25，甕217），須恵器片３点（坏１，甕２），灰釉陶器片１点が出土している。縄文土器片，弥生土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。甕片は竈から出土しているものが多い。199，200はそれぞれ破片が焚口付近に密集しており，土圧によりつぶされた状態で出土している。198は床面から逆位でつぶされた状態で出土している。197は床面からの出土であるが小片が離れた位置から出土しており，廃絶時に投棄された可能性がある。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉と考えられる。

第32号住居跡出土遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
197	土師器	坏	13.8	4.8	6.9	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ，下端部回転ヘラ削り	東側床面	80% PL47
198	土師器	坏	12.3	3.9	5.9	石英・長石	にぶい赤褐	普通	底部ナデ，下端部回転ヘラ削り	西側下層	95% PL47
199	土師器	甕	18.5	32.6	7.3	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面縦方向ヘラ削り後ナデ，口縁部横ナデ	竈焚口付近	90% PL47
200	土師器	甕	[20.6]	(34.2)	—	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈焚口付近	40%

第34号住居跡（第98図）

位置　調査区西部のＥ６a5区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　第28号住居跡の南西コーナー部を掘り込んでいる。第50号土坑に北西コーナー部を，第52号土坑に西壁を掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.9m，短軸2.5mの長方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｅである。壁高はいずれも23cm程度で，ほぼ直立している。

床　おおむね平坦で，床のほぼ全面が踏み固められている。また，壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は袖部幅が80cmで，焚口部から煙道部まで95cmである。袖部は地山を掘りのこし，その上に砂質粘土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，被熱で赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。土層は14層からなり，第１～５層が竈内の覆土，第６～14層が袖部の土層である。

竈土層解説

1 暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック微量
3 黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4 極暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5 黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6 暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土ブロック微量
7 灰黄褐色　小礫中量，焼土ブロック・砂粒少量
8 黒褐色　砂粒少量，焼土粒子微量
9 灰黄褐色　粘土粒子多量，砂粒・小礫微量
10 黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒・小礫少量
11 暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
12 暗赤褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量
13 黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化物微量
14 黒褐色　ローム粒子・小礫少量

ピット　２か所。Ｐ１，Ｐ２とも深さは約20cmである。Ｐ２は南壁寄りの竈に向かい合う位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１については性格不明である。

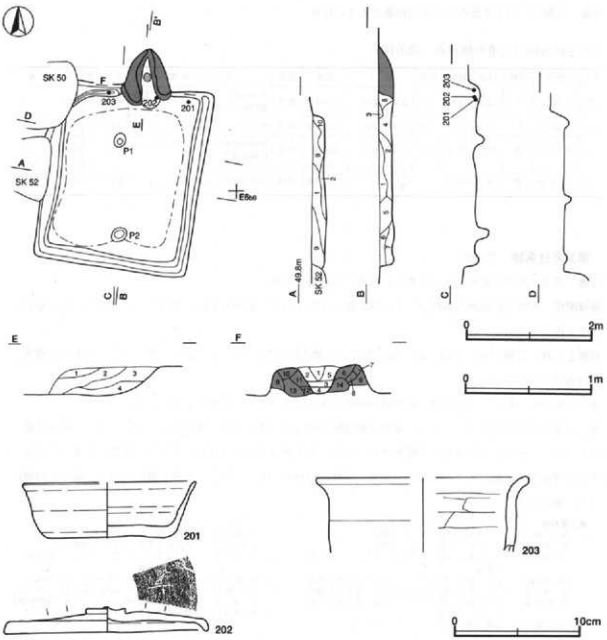
覆土　10層からなり，ローム粒子を多く含み，不規則な堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色　ローム粒子・褐色パミスブロック少量，焼土粒子微量
2 極暗褐色　ローム粒子中量，炭化物微量
3 黒褐色　褐色パミスブロック少量，ローム粒子微量
4 黒色　ローム粒子少量，褐色パミスブロック微量
5 暗褐色　ローム粒子少量
6 暗褐色　ローム粒子中量
7 暗褐色　ローム粒子中量
8 暗褐色　ローム粒子・褐色パミスブロック少量
9 黒褐色　ローム粒子少量
10 黒褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片51点（坏5，甕46），須恵器片8点（坏7，蓋1）が出土している。201は北壁東コーナー付近の床面から正位の状態で出土している。202は右袖の先端から斜位で出土している。203は北壁際竈の左袖付近の壁溝上から横位で出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第98図　第34号住居跡・出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
201	須恵器	坏	[13.7]	4.4	9.5	石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後，周縁手持ちヘラ削り	北壁付近床面	70%　PL47
202	須恵器	蓋	16.1	2.0	－	石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	竈右袖下層	60%　刻書　PL47
203	土師器	甕	[17.0]	(6.0)	－	長石	にぶい褐	普通	内面ヘラナデ	北壁溝内	10%

第46号住居跡（第99・100図）

位置　調査区西部のＤ５b2区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　北壁中央部を第145号土坑に，北東コーナー部を第136号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.8m，短軸3.1mの長方形で，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。壁高は10～20cmではほぼ外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から東西方向にかけて踏み固められている。壁溝は，北壁，西壁，南壁の一部で確認された。

竈　東壁中央部に付設されている。削平されており，袖の一部分しか確認できないため規模は不明である。袖は砂質粘土で構成され，火床面は床面とほぼ同じ高さで被熱により赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒　褐　色	焼土粒子少量，ローム粒子微量		5	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・粘土ブロック少量
2	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量		6	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，ローム ブロック少量
3	黒　褐　色	ローム ブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量		7	にぶい黄褐色	ローム ブロック少量，ローム ブロック微量
4	黒　褐　色	ローム粒子・焼土ブロック少量，粘土ブロック微量		8	暗　褐　色	ローム ブロック・焼土粒子少量

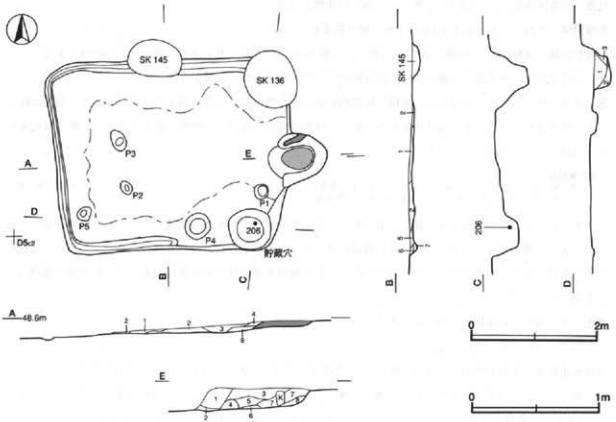
ピット　５か所。深さは10～40cmで性格は不明である。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置し，深さは25cmである。底部は平坦で直立して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒　色	ローム ブロック・粘土ブロック微量		3	黒　褐　色	ローム ブロック少量
2	黒　色	ローム粒子少量				

覆土　８層からなり，ローム ブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。



第99図　第46号住居跡実測図

土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 色 ロームブロック微量
3 黒 褐 色 焼土ブロック少量，ロームブロック微量
4 褐 灰 色 ロームブロック少量
5 暗 褐 色 ロームブロック少量
6 褐 色 ロームブロック多量
7 暗 褐 色 ロームブロック中量
8 暗 褐 色 ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片３点，土師器片90点（坏26，甕64），須恵器片４点（坏２，甕２）が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。206は貯蔵穴内から逆位で出土している。

所見 時期は，出土土器から９世紀前半と考えられる。

第100図 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
204	土 師 器	坏	(14.0)	(3.2)	－	赤色粒子	褐灰	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5％
205	土 師 器	坏	(14.0)	(3.1)	－	雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5％
206	土 師 器	高台付坏	－	(2.8)	8.1	雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	貯蔵穴内	40％

第47号住居跡（第101図）

位置 調査区西部のＤ５b4区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係 南西コーナー部を第146号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.8m，短軸2.5mの長方形で，主軸方向はＮ－93°－Ｅである。壁高は２cm前後である。

床 ほぼ平坦で，中央部から竈へかけて踏み固められている。また，壁溝が全周している。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は袖部幅が85cmで，焚口部から煙道部までは80cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床面は床面を少し掘りくぼめた部分を使用し，被熱で赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1 黒 褐 色 焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土ブロック少量，粘土粒子・炭粒微量
3 褐 色 ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子微量

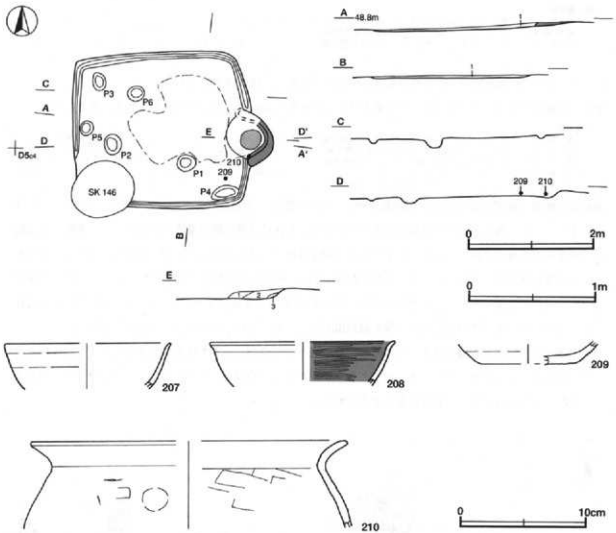
ピット ６か所。Ｐ６は約30cmの深さであるが，Ｐ１～Ｐ５はいずれも10cm前後である。Ｐ５は西壁寄りの竈に向い合う位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ５以外のピットについては性格不明である。また，本跡周辺に小ピットが点在しており壁外の補助柱穴の可能性があるが，配列等の確認はできなかった。

覆土 単一層のため堆積状況は不明である。

土層解説
1 黒 色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片43点（坏24，甕19），須恵器片２点（坏，甕）が出土している。須恵器片が出土しているが細片であり，混入の可能性がある。覆土が薄いため出土の層位は判断できないが，細片がほとんどである。209は床面から逆位の状態で出土している。210の細片はすべて竈の右袖部から出土している。

所見 時期は，東竈であることや出土土器から10世紀後半と考えられる。



第101図　第47号住居跡・出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
207	土師器	坏	[13.1]	(3.6)	－	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面磨き後ナデ	覆土中	20%
208	土師器	坏	[14.6]	(3.5)	－	雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	10%
209	土師器	坏	－	(1.6)	[7.4]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り，内面ヘラ磨き	Ｐ４付近床面	10%
210	土師器	甕	[25.0]	(7.0)	－	長石	にぶい褐	普通	内面ヘラナデ	竈石袖下層	10%

第48号住居跡（第102・103図）

位置　調査区東部のＦ10l0区に位置し，台地上の南側に立地している。

規模と形状　南側が調査区域外となっており，規模は長軸が5.6m，短軸が2.7mしか確認することができなかった。形状は方形または長方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｗである。壁高は12～28cmでほぼ直立しているが，北壁の竈から東側は壁が残存しておらず，地山が北から南へなだらかなスロープ状を呈している。

床　おおむね平坦で，ほぼ全面が硬化している。また北壁寄りに焼土塊が確認された。

竈　北壁中央部に付設されている。上層部が削平されているため，規模は不明である。火床部付近の広い範囲が赤変硬化している。

竈土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量	4	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量
2	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量			

ピット　1か所。深さ20cmで中央やや東寄りの部分に位置し，性格は不明である。

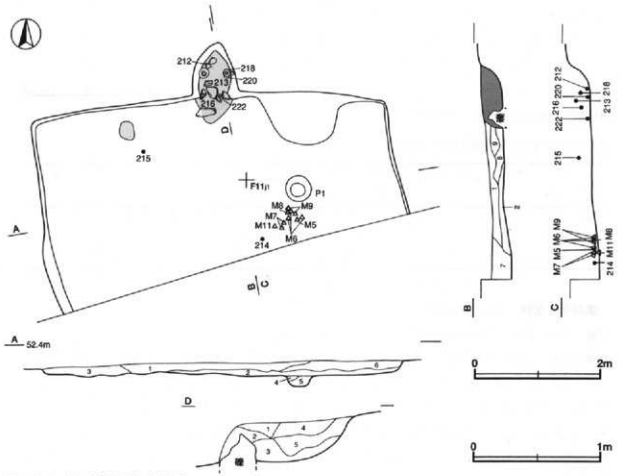
覆土　9層からなり，ロームブロックや焼土ブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

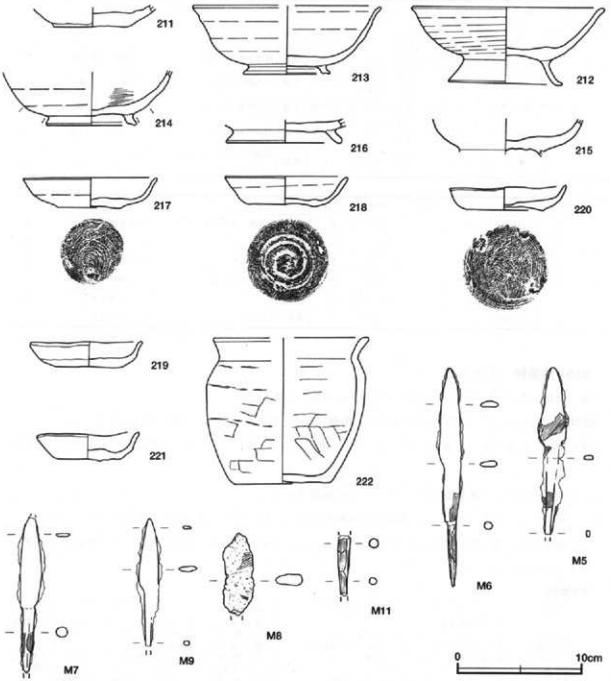
1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	6	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
2	黒褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量	7	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	8	褐色	焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック中量	9	褐色	焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物少量
5	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量			

遺物出土状況　縄文土器片236点，土師器片88点（坏60，甕28），須恵器片8点（坏2，甕6），鉄製品12点（鏃）が出土している。縄文土器片が多量に出土しているが，本区には縄文期の遺構が比較的多く，本跡が南に低くなる斜面部の南端に立地していることなどから，埋没過程での混入と考えられる。鉄製品はすべて中央やや東寄りの位置の床面から出土している。222は焚口付近から押しつぶされた状態で出土している。218，220は火床部の右袖に近い部分からともに逆位で出土している。212は火床部の左袖に近い部分から逆位で，213，216は正位で出土している。焚口部付近から礫が数点出土している。これらの礫は平らな面を上に向けている。

所見　竈内から出土した遺物はすべて被熱し，煤や焼土が付着している。鉄製品が多量に出土していることは，それらを所持し得た階層の住居であったことをうかがわせる。時期は，出土土器に足高高台付杯や小皿があることから，10世紀後葉から11世紀前葉と考えられる。



第102図　第48号住居跡実測図



第103図　第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表（第103図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
211	土師器	坏	—	(1.8)	5.8	雲母	明赤褐	普通	底部内面にハケ目。底部に工具痕	覆土中	20%
212	土師器	足高高台付坏	15.3	6.3	8.9	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	火床部	95%　PL48
213	土師器	高台付坏	[14.8]	5.5	6.8	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部高台貼り付け	竈内中層	40%
214	土師器	高台付坏	—	(4.3)	7.0	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	底部多方向へヘラ削り後高台貼り付け，下端部回転ヘラ削り	南側下層	60%
215	土師器	高台付坏	—	(2.9)	—	雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	北側上層	20%
216	土師器	高台付坏	—	(2.0)	9.2	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部ヘラ切り後高台貼り付け	竈内中層	15%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
217	土師器	小皿	10.4	2.4	5.1	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	底部回転糸切り	覆土中	90%	PL48
218	土師器	小皿	9.7	2.3	5.7	雲母・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈内中層	100%	PL48
219	土師器	小皿	8.7	2.1	5.4	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	覆土中	100%	PL48
220	土師器	小皿	9.1	2.1	5.1	石英・長石	にぶい赤褐	普通	底部回転糸切り	火床面	100%	PL48
221	土師器	小皿	8.0	2.0	4.9	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	100%	PL48
222	土師器	甕	(12.3)	11.7	7.5	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ	火床面	75%	PL48

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	鎌	(13.4)	－	0.3	(33.9)	鉄	柳葉式，刀身・茎部に木質付着	P1南側床面	PL61
M6	鎌	17.4	1.8	0.6	33.6	鉄	柳葉式	P1南側床面	PL61
M7	鎌	(12.6)	1.7	0.2	(29.1)	鉄	柳葉式，茎部欠損	P1南側床面	PL61
M8	鎌	(7.3)	1.7	0.2	(21.1)	鉄	粘土の砂粒の付着が激しい	P1南側床面	鎌身か
M9	鎌	(10.1)	1.6	0.4	(23.2)	鉄	柳葉式か	P1南側床面	PL61
M11	鎌	(4.9)	1.0	0.7	(4.2)	鉄	茎部に木質付着	P1南側床面	

第55号住居跡（第104図）

位置　調査区西部のE5a4区に位置し，台地上の南縁に立地している。

重複関係　北西コーナー部を第410号土坑に，南東コーナー部を第4号地下式壙に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.5m，短軸2.9mの長方形で，主軸方向はN－13°－Eである。壁高は25cm程度で，ほぼ直立している。

床　おおむね平坦で，壁溝は全周していたものと推測される。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は袖部幅が95cmで，焚口部から煙道部までは90cmである。袖部は一部分のみ確認され，残存部分は砂質粘土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘土ブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
5　暗褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
6　暗褐色　焼土粒子・粘土ブロック少量
7　黒褐色　ロームブロック少量，ロームブロック微量
8　赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子少量
9　暗褐色　焼土ブロック少量
10　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
11　極暗褐色　粘土粒子中量，ロームブロック少量，炭化物微量
12　灰褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
13　暗赤褐色　焼土粒子中量
14　黄褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
15　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
16　灰褐色　ロームブロック中量，炭化物微量

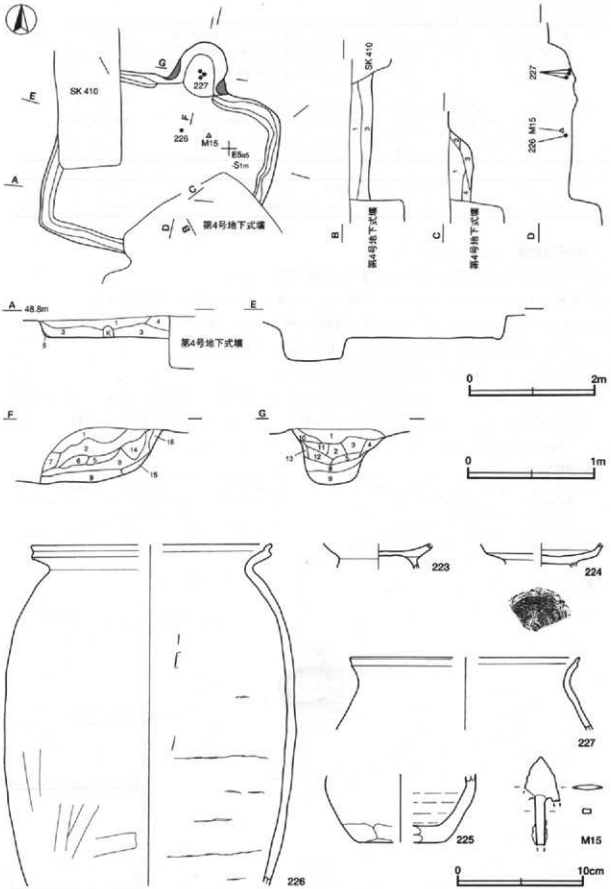
ピット　確認されなかった。

覆土　5層からなり，ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・小礫微量
2　黒褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土粒子少量
3　黒褐色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
4　黒褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
5　褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片1点，土師器片110点（坏18，甕92），須恵器片10点（坏1，甕・壺9），陶器片1点（常滑甕），鉄製品1点（鎌）が出土している。縄文土器片や陶器片は流れ込みや混入によるものと考えられる。227は細片の集まりで竈内の覆土下層から出土している。226は竈南側の覆土下層から細片となって出土している。223，224は覆土中から出土している。

所見　時期は，竈内の出土土器から9世紀後半と考えられる。



第104図　第55号住居跡・出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表（第104図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
223	土師器	高台付坏	－	(2.0)	－	雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中	30%
224	須恵器	高台付坏	－	(1.8)	－	長石	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後周縁ナデ後高台貼り付け	覆土中	20% 底部刻書「／」
225	須恵器	壺	－	(5.4)	[6.1]	長石	褐灰	良好	下端部手持ちヘラ削り	覆土中	5％ 外面一部自然釉
226	土師器	甕	[18.9]	(27.1)	－	雲母	にぶい橙	普通	体部下端部ヘラナデ	竈南側下層	30%
227	土師器	甕	[18.1]	(5.8)	－	石英・長石・小礫	にぶい黄褐	普通	体部内・外面ナデ	竈内下層	5％

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	鏃	(7.2)	(2.8)	0.6	(14.2)	鉄	長三角形式，茎部欠損	竈南側中層	PL61

第59号住居跡（第105・106図）

位置　調査区西部のＤ５d6区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　第117・119号土坑，第７号ピット群のピットに掘り込まれていたものと推測される。

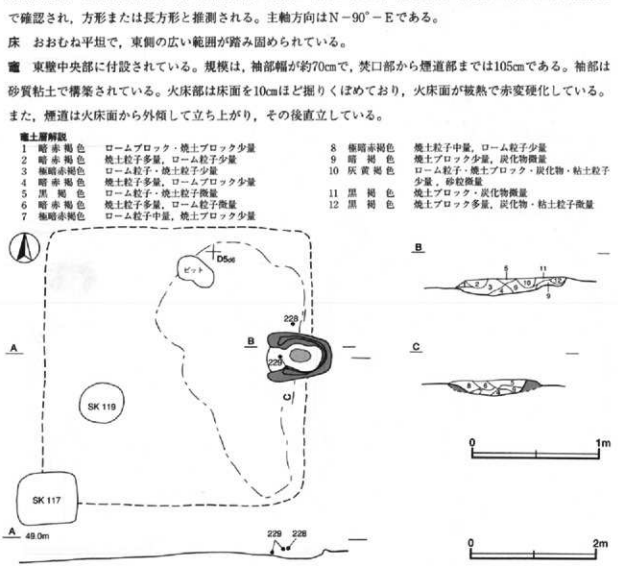
規模と形状　西側が削平されており東西方向の規模は不明であるが，南北方向は硬化面の広がりから4.1ｍまで確認され，方形または長方形と推測される。主軸方向はＮ－90°－Ｅである。

床　おおむね平坦で，東側の広い範囲が踏み固められている。

竈　東壁中央部に付設されている。規模は，袖部幅が約70cmで，焚口部から煙道部までは105cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており，火床面が被熱で赤変硬化している。また，煙道は火床面から外傾して立ち上がり，その後直立している。

竈土層解説

1　略赤褐色　ローム ブロック・焼土ブロック少量
2　略赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
3　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，ロームブロック少量
5　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　略赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子微量
7　極暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
8　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
9　暗褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量
10　灰黄褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量，砂粒微量
11　黒褐色　焼土ブロック・炭化物微量
12　黒褐色　焼土ブロック多量，炭化物・粘土粒子微量



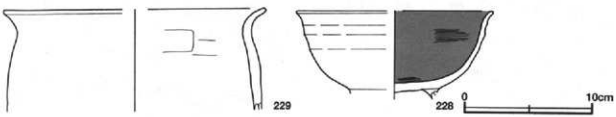
第105図　第59号住居跡実測図

ピット　確認されなかった。

覆土　削平されているため，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片30点（坏８，甕22），須恵器片１点（坏）が出土している。出土遺物のほとんどは竈内からのものである。228は左袖部の外側から逆位で出土している。229は，焚口部で口縁部から体部にかけての部分を外向きの状態で，右袖部からは体部片が出土している。

所見　時期は，竈内の出土土器から10世紀前半と考えられる。



第106図　第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表（第106図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
228	土師器	高台付坏	[15.2]	(5.9)	－	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部高台貼り付け，内面ヘラ磨き	竈北側上層	40%
229	土師器	甕	[20.2]	(7.9)	－	石英・長石	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ，内面ヘラナデ	竈内下層	5%

第60号住居跡（第107図）

位置　調査区西部のＤ６g7区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　第72号住居跡を掘り込んでいる。北側を第15号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北側が溝に掘り込まれており，さらに南側は調査区域外となっているため，規模は東西軸で3.2m，南北軸は1.2mしか確認できなかった。形状は方形または長方形と考えられる。主軸方向はＮ－０°である。壁高は30cm程度でほぼ直立している。

床　おおむね平坦で，確認できる床面の中央部が踏み固められている。また，東側と西側に盤溝が確認された。

竈　規模は不明であるが，北壁中央部に焼土や粘土が確認されており，この部分に竈が付設されていたものと考えられる。

ピット　５か所。盤溝内のＰ１～Ｐ４はそれぞれ対応しており，径は20cm前後で，深さ10～25cmであることから，盤溝に掘られた柱穴と考えられる。Ｐ５については性格不明である。

覆土　10層からなり，ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。また，第３～５層は竈の覆土に相当するものと考えられる。

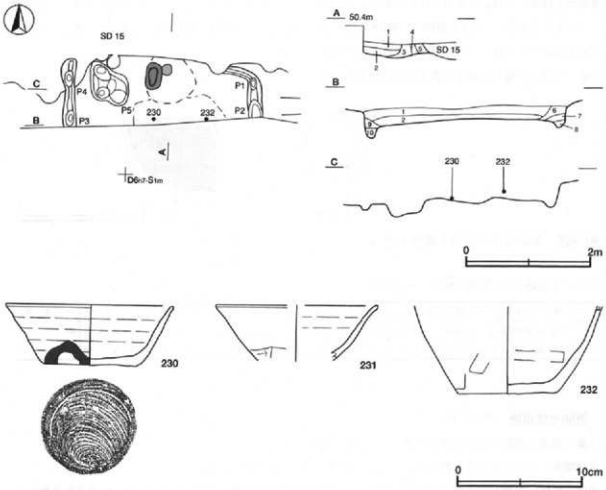
土層解説

1	黒	色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	6	黒褐	色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2	黒	色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	7	黒褐	色	ロームブロック少量
3	黒褐	色	焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土ブロック微量	8	暗褐	色	ロームブロック中量
4	暗赤褐	色	焼土ブロック中量，粘土ブロック微量	9	黒褐	色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
5	灰褐	色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック微量	10	暗褐	色	ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片８点，土師器片30点（坏５，甕25），須恵器片３点（坏）が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。230はほぼ完形で床面から正位の状態で出土しており，本跡に伴うものと考えられる。231は覆土中から，232は覆土中層から出土しており，埋め戻しの際の混入の可能性

がある。

所見　時期は，出土土器から９世紀前半と考えられる。



第107図　第60号住居跡・出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表（第107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
230	須恵器	坏	13.3	4.9	7.3	石英・長石・雲母	褐灰	普通	底部回転糸切り後周縁部回転ヘラ削り	竈付近床面	95% PL48
231	須恵器	坏	[12.8]	(4.4)	－	石英・長石	灰	普通	ヤ端部手持ちヘラ削り	覆土中	5%
232	土師器	甕	－	(7.0)	7.8	石英・長石	にぶい褐	普通	内面ヘラナデ	竈付近中層	10%

第64号住居跡（第108図）

位置　調査区西部のＤ５e0区に位置し，台地上の北側に立地している。

規模と形状　長軸，短軸とも３m弱のほぼ方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁高は東壁の高い部分で３cm程度である。

床　おおむね平坦で，中央部から東壁にかけて踏み固められている。

竈　袖部が削平されており規模は不明であるが，火床部が北壁中央部に確認された。火床面は床面を多少掘りくぼめており，被熱で赤変している。

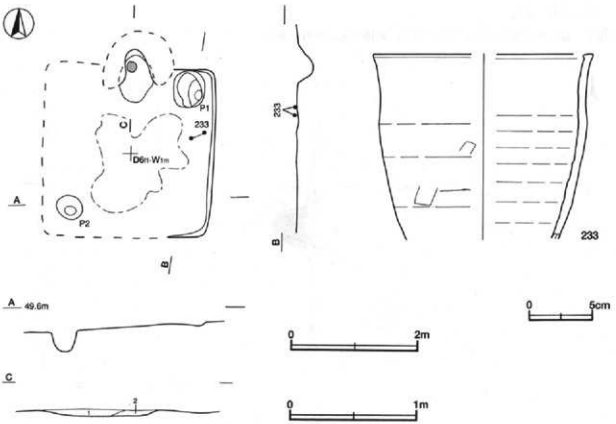
竈土層解説
1　黒　褐　色　　炭化物多量，焼土粒子少量
2　赤　褐　色　　焼土ブロック多量

ピット　2か所。P１は北東コーナー部に位置しており，深さ25cm程度である。底部は皿状を呈しており，壁は外傾して立ち上がっている。P２は南西コーナー部に位置しており，深さ35cm程度である。底部は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。P１，P２とも性格は不明である。

覆土　北西部分を中心に覆土のほとんどが削平されており，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　縄文土器片２点，土師器片10点（坏２，甕８），須恵器片13点（甑）が出土している。ほとんどが細片で北東部の床面付近から出土している。233は東壁際の床面から出土している。また，須恵器片のほとんどは233と同一個体である。

所見　時期は，233などの床面からの出土土器から判断して，９世紀後半と考えられる。



第108図　第64号住居跡・出土遺物実測図

第64号住居跡出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
233	須恵器	甑	(17.4)	(14.7)	－	石英・長石	黄灰	普通	ロクロナデ	東壁付近床面	10%

第67号住居跡（第109・110図）

位置　調査区西部のＤ６f4区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　第375号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　削平されているため，南北方向は3.1m，東西方向は0.5mしか確認されなかった。主軸方向はN－83°－Eである。

床　竈のすぐ西側が床面と考えられる。床の状況は不明である。東壁に沿って竈の北側と南側に一部くぼみが確認されており，溝の可能性がある。

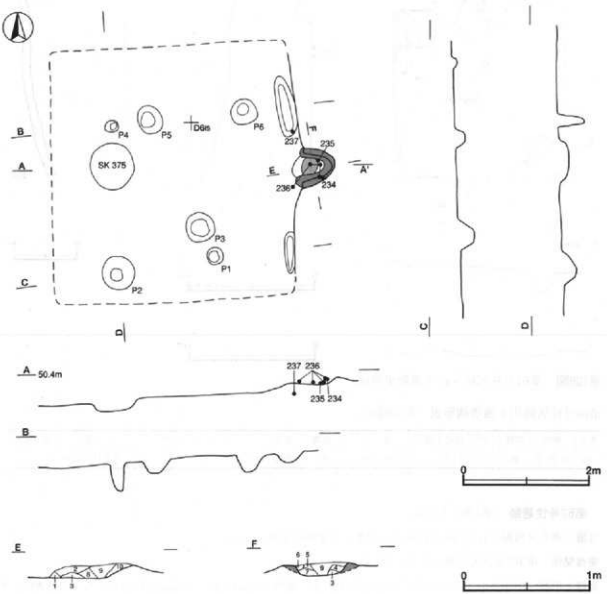
竈　東壁中央部に付設されている。規模は袖部幅が85cm，焚口部から煙道部までが120cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで，火床面が被熱で赤変している。煙道は，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰黄褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量	7	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量，砂粒微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	8	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，炭化物微量
3	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，粘土粒子・砂粒少量	9	赤黒色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物・粘土ブロック・砂粒微量
4	暗赤褐色	焼土ブロック多量，粘土粒子微量			
5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化物微量	10	暗赤灰色	焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，炭化物微量
6	黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量			

ピット　6か所。深さはＰ４が40cm，他は20cm程度であるが，床面が削平されているため本跡に伴うものかどうかは不明である。

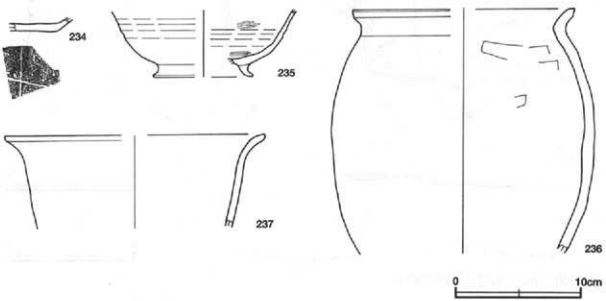
覆土　竈以外の覆土は削平されており，堆積状況は不明である。



第109図　第67号住居跡実測図

遺物出土状況　縄文土器片２点，土師器片58点（坏15，甕・甑43），須恵器片１点（坏）が出土している。縄文土器片や須恵器片は流れ込みや混入によるものと考えられる。遺物はすべて竈と北東コーナー部から確認された。237は東壁溝内から横位で出土している。他は竈からで，234は右袖部の内側から斜位で，235は横位で，236は右袖から火床部にかけての部分から，土圧により押しつぶされた状態で出土している。

所見　時期は，竈内出土の土器から10世紀中葉と考えられる。



第110図　第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表（第110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
234	須恵器	坏	－	(1.1)	－	石英・長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	竈右袖部下層	5％ 底部別書「×」
235	土師器	高台付坏	－	(5.4)	[7.7]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	高台貼り付け，内面ヘラ磨き	火床部	20％
236	土師器	甕	[17.7]	(19.6)	－	石英・長石	にぶい赤褐	普通	体部外面ナデ，口縁部横ナデ	火床部	30％
237	土師器	甑ヵ	[20.4]	(7.4)	－	石英・長石・雲母	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ	東壁溝下層	5％

第68号住居跡（第111・112図）

位置　調査区西部のＤ６d5区に位置し，台地上の北側に立地している。

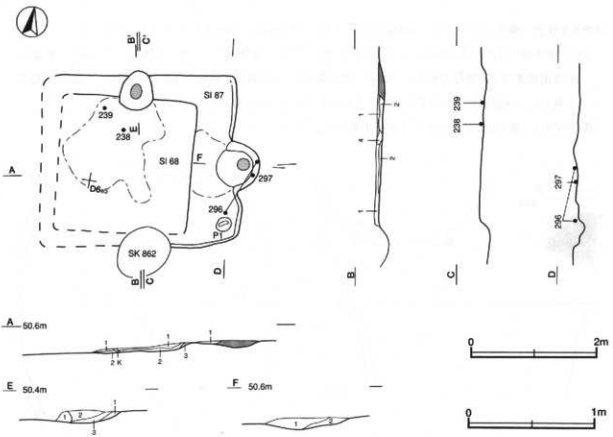
重複関係　第87号住居跡を掘り込んで，第862号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　覆土のほとんどが削平されているため，規模は東西方向，南北方向とも2.1mまでしか確認されなかった。主軸方向はＮ－６°－Ｗである。壁高は11cmで，外傾して立ち上がっている。

床　竈から南方向へ向かって踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。削平されているため規模は不明であるが，火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面が被熱で赤変している。

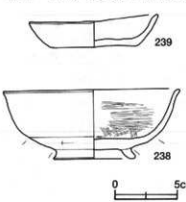
竈土層解説
1　黒　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
2　暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物少量
3　暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量



第111図　第68・87号住居跡実測図

ピット　確認されなかった。

覆土　4層からなるが，覆土が薄く堆積状況は不明である。



第112図　第68号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1	黒	色	ロームブロック微量
2	黒	色	ローム粒子少量
3	暗褐	色	ローム粒子中量
4	黒	色	ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片5点，土師器片72点（坏23，甕49）が出土している。ほとんどが細片で，覆土下層から床面にかけての出土が多い。238は床面から逆位で押しつぶされた状態で出土している。239は床面から正位で出土している。

所見　時期は，須恵器が出土していないことや床面出土の土器から，10世紀後半と考えられる。

第68号住居跡出土遺物観察表（第112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
238	土師器	甕付坏	14.0	5.5	6.5	石英・長石	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け，下端部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈付近床面	70%	PL48
239	土師器	小皿	10.2	2.6	6.7	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	底部回転糸切り	竈付近床面	70%	PL48

第69号住居跡（第113・114図）

位置　調査区西部のD６d4区に位置し，台地上の北側に立地している。

規模と形状　長軸2.8m，短軸2.4mの長方形で，主軸方向はN－7°－Eである。壁高は10cm程度でほぼ外傾している。

床　ほぼ平坦で，中央部の広い範囲が踏み固められている。壁溝は竈の両脇をのぞき周回している。

竈　北東東コーナー付近に付設されている。規模は，袖部幅が100cmで，焚口部から煙道部までは75cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，被熱で赤変している。煙道は火床面から緩やかに外傾している。火床面のやや奥側から幅13cm，長さ30cmほどの割り石が縦に刺さるように置かれており，この割り石が支脚の役割を果たしていたものと考えられる。

竈土層解説

1　黒　　色　焼土ブロック微量
2　黒　　色　焼土ブロック少量，粘土ブロック・砂粒微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・砂粒少量，炭化物微量
4　黒　　色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
5　灰 黄 褐 色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量
6　暗　褐　色　粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量
8　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
9　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量

ピット　1か所。深さが30cmで，南壁沿いの竈に向い合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

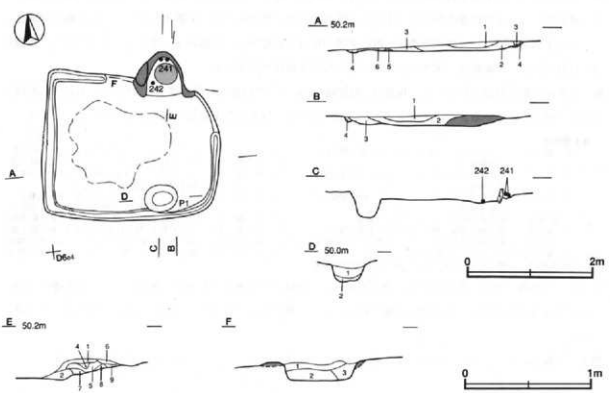
ピット土層解説

1　黒　　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量

覆土　6層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

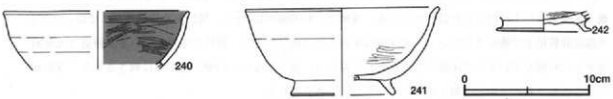
1　極 暗 褐 色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量



第113図　第69号住居跡実測図

遺物出土状況　縄文土器片６点，土師器片44点（坏36，甕８），須恵器片３点（甕），碗１点（支脚）が出土している。縄文土器片は流れ込みによるものと考えられる。242は竈内左袖部付近の覆土下層から正位の状態で，241は竈内の覆土上層から逆位の状態で出土している。240はピット内の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。



第114図　第69号住居跡出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表（第114図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
240	土師器	坏	[14.8]	(4.6)	－	雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	Ｐ１覆土中	５％
241	土師器	高台付坏	15.3	6.9	[7.8]	雲母	にぶい黄橙	普通	底部高台貼り付け，内面ヘラ磨き	竈内上層	55%
242	土師器	高台付坏	－	(1.5)	7.5	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け，内面ヘラ磨き	竈内下層	10%

第70号住居跡（第115～117図）

位置　調査区西部Ｄ６f2区に位置し，台地上の北側に立地している。

規模と形状　一辺2.9mの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁高は18～34cmでほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は，東壁と西壁さらに南壁では中央部分を除き東側と西側に確認された。北壁の竈両側には，床より一段高い平面が煙道部と同じ位置まで広がっており棚状遺構と考えられる平面を確認した。棚状遺構は，竈の東側の施設で長軸70cm，短軸40cm，深さ５cmが確認され，西側施設では長軸90cm，短軸40cm，深さ５cmであり，ともに底面は平坦である。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は，袖部幅が90cmで，焚口部から煙道部までは110cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
2　黒褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　黒褐色　粘土粒子中量，ロームブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
4　灰黄褐色　粘土粒子中量，ロームブロック微量
5　黒褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・砂粒少量
6　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
7　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
8　極暗褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック微量
9　褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
10　黒褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子微量
11　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
12　黒褐色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・泥炭パミス微量
13　黒褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
14　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
15　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
16　黒褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１，Ｐ２はともに深さが20cmで，主柱穴とも考えられるが，配列のバランスが悪く不明である。Ｐ３は深さが20cmで南壁寄りの竈に向かい合う位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

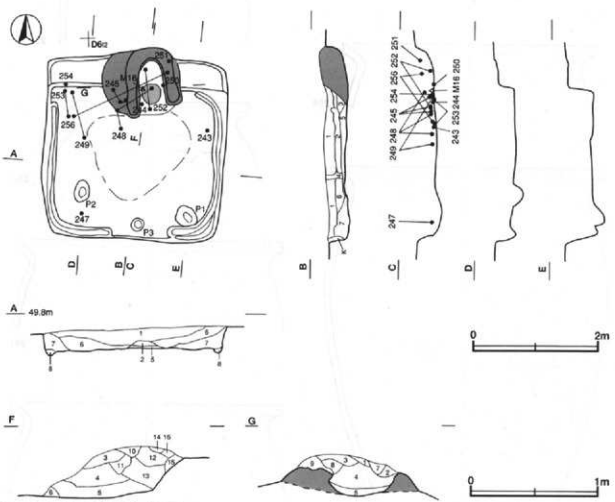
覆土　８層からなり，ロームブロックや焼土ブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

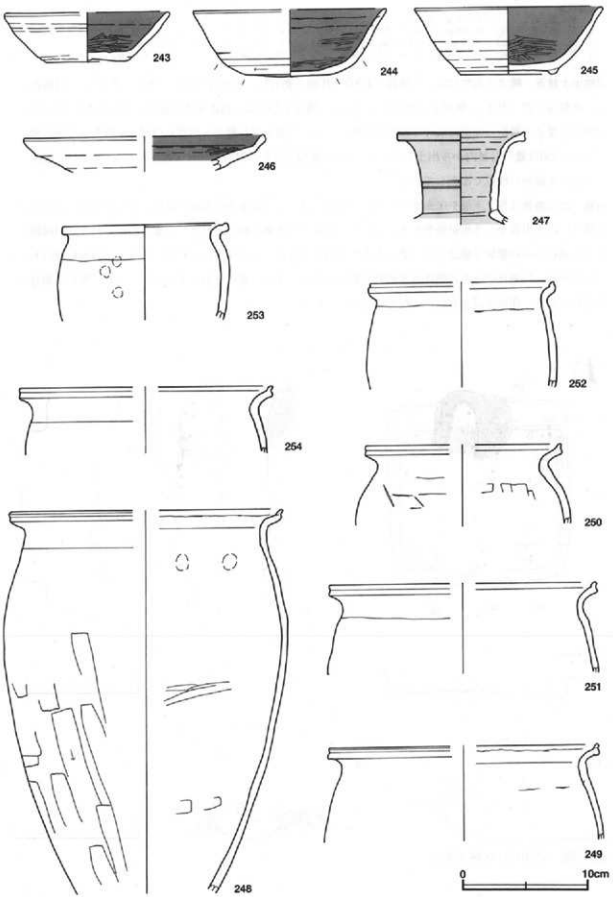
1	黒褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量		5	黒褐色	焼土ブロック少量	
2	黒褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック微量		6	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量	
3	灰色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量		7	黒色	ローム粒子少量	
4	黒褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック微量		8	灰褐色	ロームブロック中量	

遺物出土状況　縄文土器片12点，土師器片479点（坏68，甕411），須恵器片16点（坏8，甕8），灰釉陶器片1点，鉄製品1点（刀子），鉄滓2点が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。全体的に覆土下層から床面にかけての出土が多く，とくに竈を含む竈から西寄りの部分や壁際から多く出土している。250は竈の右袖内から出土している。248は竈周辺部から複数の細片で出土している。247は南西コーナー部の床面から横位で出土している。

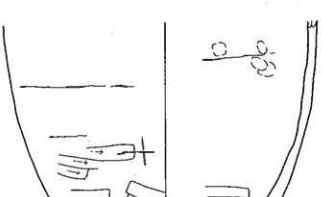
所見　出土遺物は覆土下層や床面からの出土が多く，ほとんどの遺物が本跡の時期に関わるものと考えられる。時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。本跡では土師器類の9割近くを甕が占めており，口縁部の大きさの違いから15個体を確認した。甕の大きさを口径で分けると直径が15cm程度のものと，21cm程度のものに二分される。15個体のうち12個体は常総甕と考えられる。また，竈の左右に床よりも一段高い平坦な部分が確認されており，棚状施設を有していたものと考えられる。

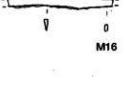


第115図　第70号住居跡実測図



第116図　第70号住居跡出土遺物実測図(1)





第117図　第70号住居跡出土遺物実測図(2)

第70号住居跡出土遺物観察表（第116・117図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
243	土師器	坏	[13.0]	3.9	6.3	石英・長石	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き	東側床面	70%　PL48
244	土師器	坏	[15.2]	5.4	6.6	雲母	にぶい橙	普通	下端部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	火床部	30%
245	土師器	高台付坏	14.8	5.4	7.7	石英・長石	橙	普通	底部高台貼り付け，内面ヘラ磨き	覆土中	90%　PL48
246	土師器	鉢	[19.0]	(2.8)	—	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5%
247	灰釉陶器	長頸瓶	10.0	(7.4)	—	長石	灰白	普通	頸部ロクロナデ・釉流しがけ	P２付近床面	30%　猿投窯K-90 ｻ
248	土師器	甕	[21.5]	(30.7)	—	雲母・小礫	にぶい褐	普通	体部縦方向のヘラ削り，口縁部横ナデ	竈付近下層	50%
249	土師器	甕	[21.2]	(7.2)	—	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ	西側下層	5%
250	土師器	甕	[15.5]	(6.4)	—	石英・長石	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ，内・外面ヘラナデ	火床部	10%
251	土師器	甕	[21.0]	(7.3)	—	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，内面横方向ナデ	竈内中層	5%
252	土師器	甕	[14.4]	(8.4)	—	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ	火床部	30%
253	土師器	甕	13.1	(7.1)	—	石英・長石	明赤褐	普通	口縁部横ナデ	北西コーナー掘底面	30%
254	土師器	甕	[20.0]	(5.4)	—	長石	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ	北壁溝底面	5%
256	須恵器	甕ｵ	—	(18.0)	14.7	石英・長石	にぶい褐	普通	下端部横もしくは斜め方向のヘラ削り，中央部より上方ナデ	西側下層，竈内中層	30%　外面刷毒

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M16	刀子	(8.7)	1.1	0.4	(8.3)	鉄	両端部欠落	火床面	PL61

第72号住居跡（第118・119図）

位置　調査区西部のＤ６g6区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　南側を第15号溝に掘り込まれている。また，第60号住居とも重複しているものと推測される。

規模と形状　溝に掘り込まれているため，長軸は5.2m，短軸は2.1mまでしか確認できず，方形または長方形と考えられる。主軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁高は最も高い部分が10cmで外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から北東コーナー部にかけて踏み固められている。また，西壁の一部を除き壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は袖部幅が110cmで，焚口部から煙道部までは140cmである。袖部は地山を掘り込んだ後，砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	6	黒褐色	炭化粒子・粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
3	黒褐色	焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	7	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量	8	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，粘土粒子少量，ロームブロック微量

ピット　4か所。P1，P2は配列から主柱穴と考えられる。P3，P4については性格不明である。

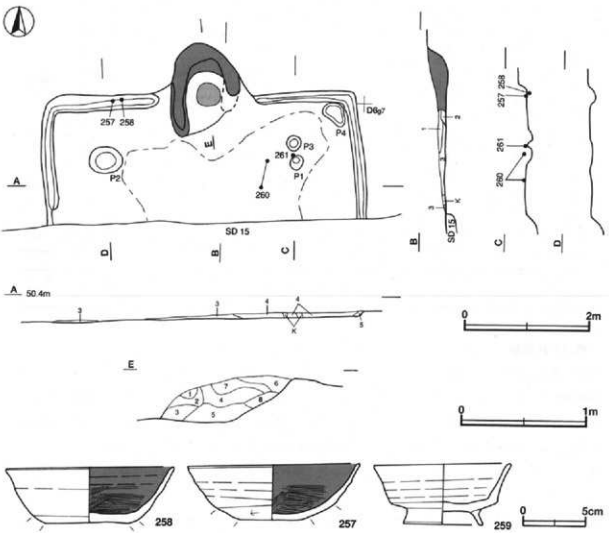
覆土　5層からなるが，層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

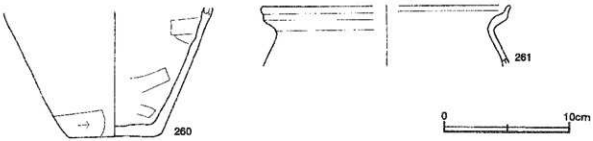
1	黒色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・鹿沼パミス微量			

遺物出土状況　縄文土器片28点，土師器片226点（坏42，甕184），須恵器片45点（坏27，甕18）が出土している。縄文土器片は流れ込みや混入によるものと考えられる。竈西側の壁溝内から257は正位で，258は横位でほぼ完形に近い状態で出土している。259は竈周辺の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀前半と考えられる。



第118図　第72号住居跡・出土遺物実測図



第119図　第72号住居跡出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表（第118・119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
257	土師器	坏	13.6	4.5	5.4	長石	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り，下端部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	北壁溝下層	85%　PL49
258	土師器	坏	13.3	4.5	6.9	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り，周縁部ナデ，下端部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	北壁溝下層	60%
259	須恵器	高台付坏	11.0	5.0	6.3	長石	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中	90%　PL48
260	土師器	甕	-	(10.2)	7.1	長石・雲母	褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ	P 1付近床面	30%
261	土師器	甕	[19.6]	(4.8)		石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	P 1南東面	5%

第74号住居跡（第120図）

位置　調査区西部のD 6 c7区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　第73号住居跡を掘り込んでいる。

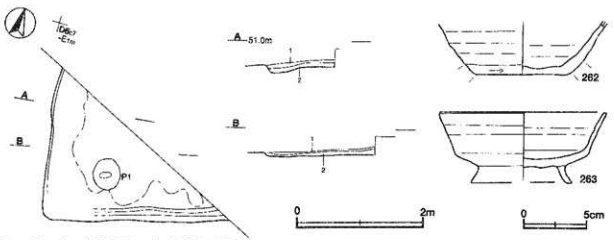
規模と形状　南西コーナー部が確認されたのみで，大部分が調査区域外となっている。確認された規模は，東西方向に3 m，南北方向に2.3mまでである。形状は方形または長方形と考えられ，主軸方向はN－10°－Wである。壁高は最も高い部分が15cmでほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，確認できる範囲の大部分が踏み固められている。壁溝は南壁下で一部確認された。

ピット　1か所。深さが50cmで，位置的に主柱穴の可能性がある。

覆土　2層からなるが，層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒褐色　　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2　褐灰褐色　　ローム粒子少量，焼土ブロック微量



第120図　第74号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片３点，土師器片30点（坏５，甕25），須恵器片24点（坏）が出土している。縄文土器片は流れ込みや混入によるものと考えられる。また，遺物はすべて覆土中から出土したものである。

所見　時期は，古墳時代の住居を掘り込んでいることと出土土器から，９世紀前半と考えられる。

第74号住居跡出土遺物観察表（第120図）

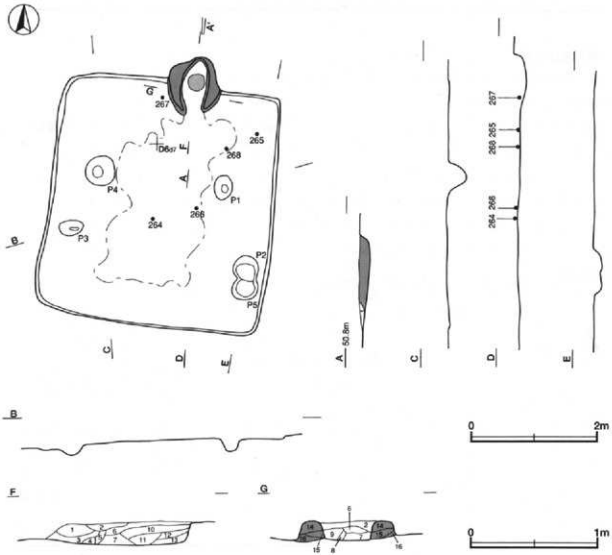
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
262	須恵器	坏	－	(4.3)	7.1	石英・長石・雲母・微礫	灰	普通	底部一方向ヘラ削り，下端部回転ヘラ削り	覆土中	30%
263	須恵器	高台付坏	13.1	5.6	[7.9]	長石・小礫	褐灰	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中	70% 外面一部自然釉 PL.49

第75号住居跡（第121・122図）

位置　調査区西部のＤ６d7区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　第73号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径が3.9m，短径が3.6mの方形である。主軸方向はＮ－８°－Ｅで，壁高は最も高い部分で７cmある。



第121図　第75号住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，中央部から南北に向かっての範囲が踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。袖部幅は80cm，焚口部から煙道部まで100cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦部を利用し，火床面が被熱で赤変している。煙道は火床面から直立している。

竈土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
2	黒	褐	色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
3	黒	褐	色	粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
4	黒	褐	色	焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土粒子微量
5	黒		色	焼土ブロック・粘土粒子微量
6	黒	褐	色	粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
7	黒	褐	色	焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土ブロック微量
8	黒	褐	色	焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
9	暗	赤	褐	色	焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
10	暗	赤	褐	色	焼土ブロック中量，炭化物少量，粘土ブロック微量
11	黒	褐	色	粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
12	黒		色	焼土ブロック・粘土ブロック微量
13	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
14	黒	褐	色	焼土粒子・炭化物少量，ローム粒子微量
15	黒	褐	色	ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16	灰	褐	色	焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量

ピット　5か所。P1，P4は深さ約20cm，P2，P3は深さ約15cmで，配列のバランスは悪いが主柱穴と考えられる。P5については，性格不明である。

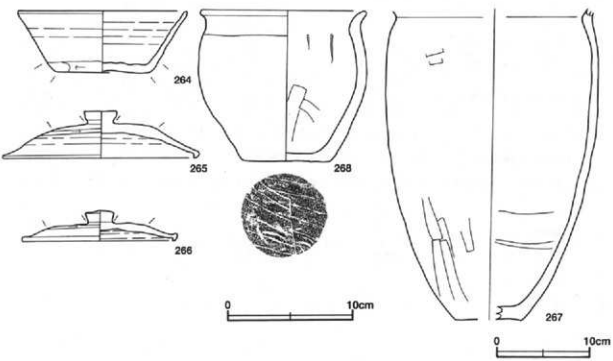
覆土　単一層であり，層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック少量，粘土ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片12点，土師器片83点（坏4，甕79），須恵器片8点（坏・蓋4，甕4）が出土している。縄文土器片は流れ込みや混入によるものと考えられる。264，266，268は完形のまま逆位で，265は正位で，それぞれ床面から出土している。

所見　図示した遺物のほとんどが完形品で，床面直上からの出土であることから，本跡に伴うものと考えられる。時期は，出土土器から9世紀前半と考えられる。



第122図　第75号住居跡出土遺物実測図

第75号住居跡出土遺物観察表（第122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
264	須恵器	坏	13.3	5.0	7.2	石英・長石・小礫	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後一方向ヘラ削り後ナデ，下端部回転ヘラ削り	中央部床面	100%	PL49
265	須恵器	蓋	15.2	3.7	－	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	東側床面	80%	PL49
266	須恵器	蓋	12.1	2.4		石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	中央部床面	100%	PL49
267	土師器	甕	－	(33.0)	[6.8]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面板方向ヘラナデ	竈付近床面	30%	
268	土師器	小形甕	13.0	12.1	6.9	石英・長石	明赤褐	普通	口縁部横ナデ，内面ヘラナデ	P 1 付近床面	95%	PL50

第77号住居跡（第123～125図）

位置　調査区西部のD 6 e8区に位置し，台地上の北側に立地している。

規模と形状　一辺が5.3mほどの方形で，主軸方向はN－3°－Eである。残高は22～34cmでほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部から南西コーナーにかけて踏み固められている。各コーナー部と南側の床面は，確認面から50～60cmほど掘り下げてからローム ブロック中心の土を埋め戻して床面を構築しているため脆らかい。また，壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は袖部幅が160cmで，焚口部から煙道部までは155cmである。袖部は地山を芯とし，その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は被熱で赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。第11～21層が袖部の土層で，第22～29層が竈の掘り方の埋土である。

竈土層解説

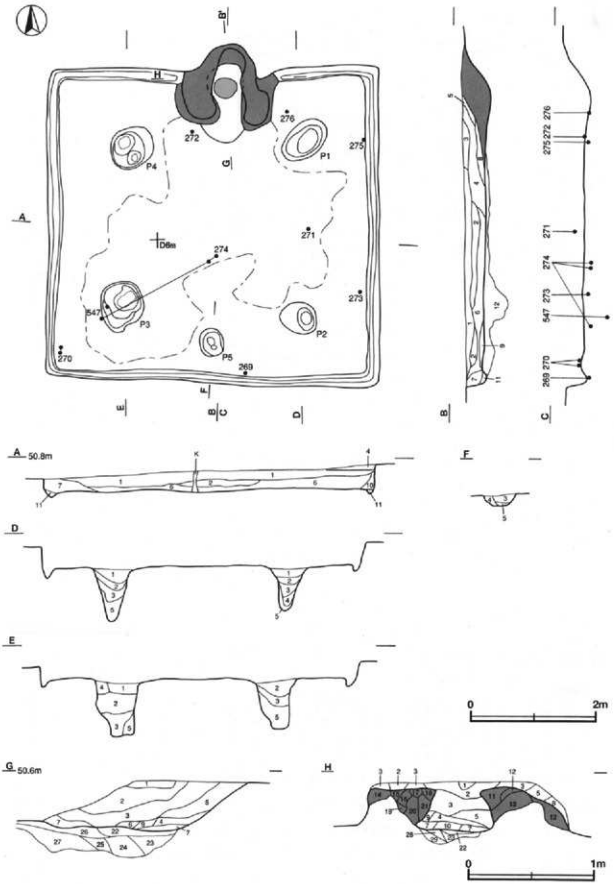
1 黒褐色　焼土ブロック少量
2 黒褐色　ローム ブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
3 灰色　ローム ブロック・焼土ブロック微量
4 暗褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量
5 褐灰色　ローム ブロック・極小ブロック微量
6 赤褐色　焼土粒子多量
7 灰色　ローム ブロック中量
8 黒褐色　ローム ブロック少量
9 にぶい赤褐色　焼土粒子多量
10 暗オリーブ色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
11 にぶい黄色　砂粒・小礫多量，ローム ブロック少量
12 黒褐色　粘土ブロック・砂粒・小礫中量，ローム ブロック少量
13 明黄褐色　砂粒・小礫多量，ローム ブロック少量
14 褐灰色　粘土ブロック多量，ローム粒子少量
15 黒褐色　粘土粒子中量，ローム ブロック・焼土ブロック少量
16 にぶい赤褐色　粘土粒子中量，ローム ブロック・焼土ブロック少量
17 にぶい黒褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
18 褐灰色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
19 灰褐色　粘土粒子多量，ローム ブロック少量，焼土粒子微量
20 赤褐色　焼土粒子多量，小礫微量
21 にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量
22 暗赤褐色　焼土ブロック多量
23 灰黄褐色　ローム ブロック・灰中量，焼土ブロック少量
24 灰黄褐色　灰多量，焼土ブロック中量，ローム ブロック少量
25 灰色　灰多量，焼土ブロック少量
26 黒褐色　灰中量，ローム ブロック微量
27 黄灰色　灰中量，ローム ブロック少量
28 灰褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量
29 暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子少量

ピット　14か所。P 1 ～P 4 は深さが70～90cmで，その配列から主柱穴と考えられる。また，P 5 は深さが20cmで，南壁寄りの竈に向い合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。掘り方の調査ではさらに9か所のピットが確認されており，そのうちの4か所（P 6，P 7，P 8，P 9）はP 1 ～P 4 の内側に配列されている。

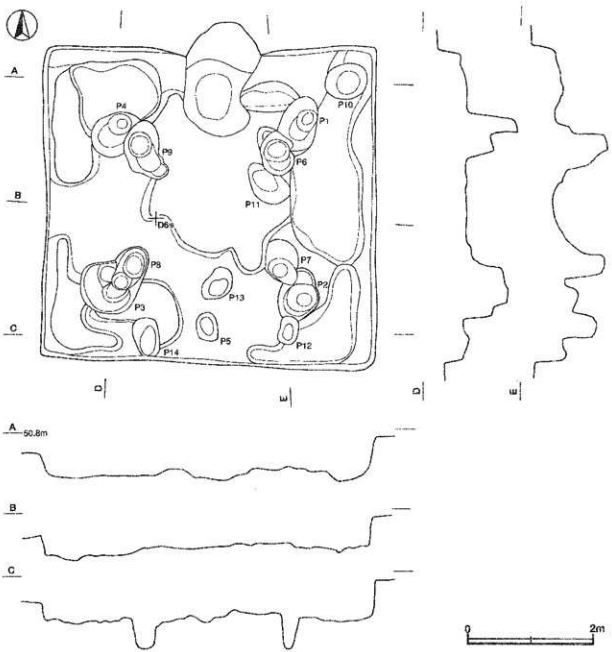
ピット土層解説

1 黒褐色　ローム ブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
2 黒褐色　ローム ブロック少量，炭化物微量
3 黒褐色　ローム ブロック少量
4 暗褐褐色　ローム ブロック中量
5 灰褐色　ローム ブロック中量

覆土　12層からなり，ローム ブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。第12層は掘り方の埋土である。



第123図　第77号住居跡実測図(1)



第124図　第77号住居跡実測図(2)

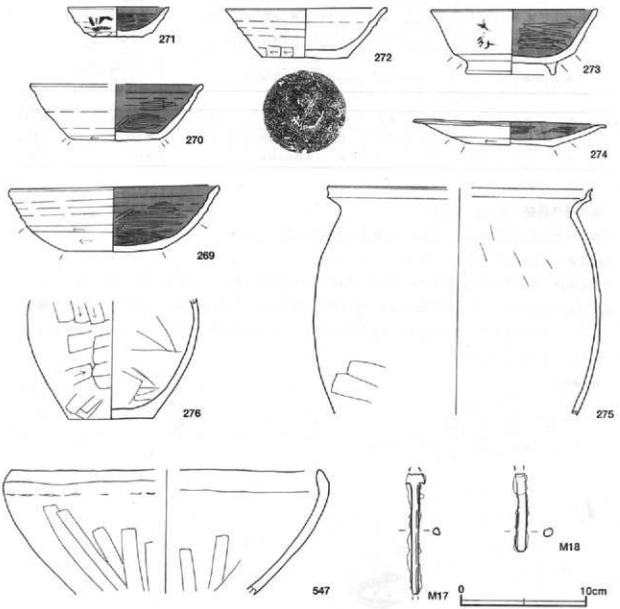
土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量，粘土粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，極細パミスブロック微量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
7	黒色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
8	灰黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
9	極暗褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
10	黒褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
11	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
12	黒褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片1016点（坏123，甕893），須恵器片163点（坏140，甕23），縄文土器片172点，鉄滓1点が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。覆土全体に遺物の散らばりが見られるが，特に下層から中層にかけて多く出土している。269は南壁際の床面から正位の状態で，270は南西コーナー部の壁際から逆位で，271は覆土中層から正位で，272，276は床面から正位で，273は東壁際の床面から正位で，274は中央部の床面から，275は東壁際の床面からそれぞれ出土している。また，547は床下に位置す

るが，Ｐ３にかかる位置から出土している。

所見　時期は，547が本跡構築過程に入り込んだ土器と考えられることや床面から出土している土器から，９世紀後半と考えられる。掘り方調査では，新たに床下から９か所のピットが確認されている。そのうちの４か所がＰ１～Ｐ４のすぐ内側に位置するように規則的に配置されている。このことからＰ６～Ｐ９はＰ１～Ｐ４以前に利用されていた主柱穴であり，本跡が建て替えを行ったことを示しているものと考えられる。



第125図　第77号住居跡出土遺物実測図

第77号住居跡出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
269	土師器	坏	16.3	5.2	7.6	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り，下端部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南壁際床面	60%　PL.50
270	土師器	坏	[13.5]	4.4	6.7	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り，下端部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南西コーナー床面	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
271	土師器	坏	7.9	2.4	4.1	雲母	にぶい黄橙	普通	底部不定方向ヘラ削り，下端部手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き	東側中層	80%体部横位に墨書文字「伊」か PL49
272	須恵器	坏	12.7	4.0	6.8	石英・長石	褐灰	普通	底部一方向ヘラ削り，下端部手持ちヘラ削り	竈付近床面	100%底部のヘラ削りと並行に墨書「ノ」 PL49
273	土師器	高台付坏	13.2	5.3	6.9	雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け，内面ヘラ磨き	東壁際床面	70%体部正位に墨書「大家」 PL49
274	土師器	皿	15.2	1.9	6.5	石英・長石	にぶい黄橙	普通	下端部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	中央部から P3付近床面	70% PL49
275	土師器	甕	(21.0)	(18.0)	—	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部下端部ヘラ削り	東壁際床面	10%
276	土師器	小形甕	—	(9.5)	6.6	石英・長石	にぶい赤褐	普通	体部下端部横方向ヘラ削り，上方は縦方向ヘラ削り	P1付近床面	40%
547	土師器	鉢	(24.2)	(9.9)	—	石英・長石	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ	P3掘り方中層	15%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M17	釘	(9.7)	1.5	0.6	(15.2)	鉄	角釘，先端部欠損	覆土中	PL61
M18	鏃	(6.2)	0.9	0.6	(9.8)	鉄	茎部のみ残存	覆土中	

第78号住居跡（第126・127図）

位置　調査区西部のD6f7区に位置し，台地上の北側に立地している。

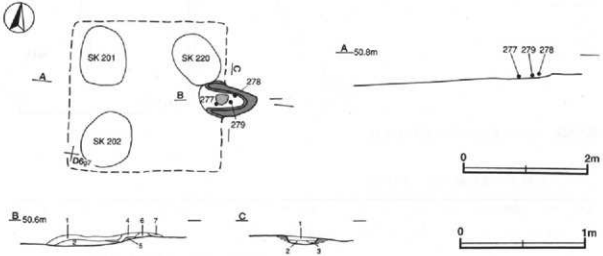
重複関係　第201・202・220号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　竈以外の部分は削平されており，規模・形状は不明である。主軸方向はN－80°－Eである。

竈　東壁に付設されている。袖部幅は60cm，焚口部から煙道部までは100cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦部を利用し，火床面が被熱で赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・粘土ブロック・砂粒微量
2 暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化物・粘土ブロック微量
3 黒色　ローム粒子・焼土ブロック微量
4 黒褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
5 暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
6 褐灰色　ローム粒子・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
7 黒褐色　焼土ブロック少量，炭化物・粘土ブロック微量



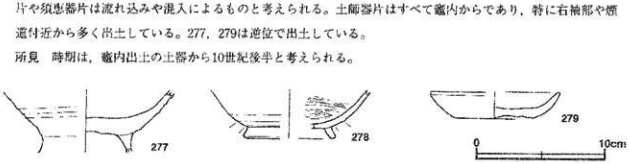
第126図　第78号住居跡実測図

ピット　確認されなかった。

覆土　削平されているため不明である。

遺物出土状況　縄文土器片２点，土師器片34点（坏17，甕17），須恵器片１点（坏）が出土している。縄文土器片や須恵器片は流れ込みや混入によるものと考えられる。土師器片はすべて竈内からであり，特に右袖部や煙道付近から多く出土している。277，279は逆位で出土している。

所見　時期は，竈内出土の土器から10世紀後半と考えられる。



第127図　第78号住居跡出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
277	土師器	高台付坏	－	(4.8)	－	石英・長石・赤色粒子	褐	普通	底部高台貼り付け	火床部	50%
278	土師器	高台付坏	－	(3.8)	(6.6)	雲母	にぶい橙	普通	底部高台貼り付け，下端部回転ヘラ指り，内面ヘラ磨き	火床部	10%
279	土師器	小皿	(9.8)	2.0	5.8	雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	火床部	50%

第82号住居跡（第128・129図）

位置　調査区西部のＤ５c8区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　第61号住居跡，第400・401号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　一辺2.7mの方形で，主軸方向はＮ－90°－Ｅである。壁高は，西側の高い部分で15cmほどあり，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から北東コーナー部に向かって踏み固められている。壁溝は東壁下でのみ確認された。

竈　東壁のほぼ中央部に付設されている。袖部幅は60cmで，焚口部から煙道部までは65cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの平坦部を利用しており，火床面が被熱で赤変している。また，煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
3　強暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　明褐色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
5　褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
6　暗褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
7　暗褐色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量

ピット　確認されなかった。

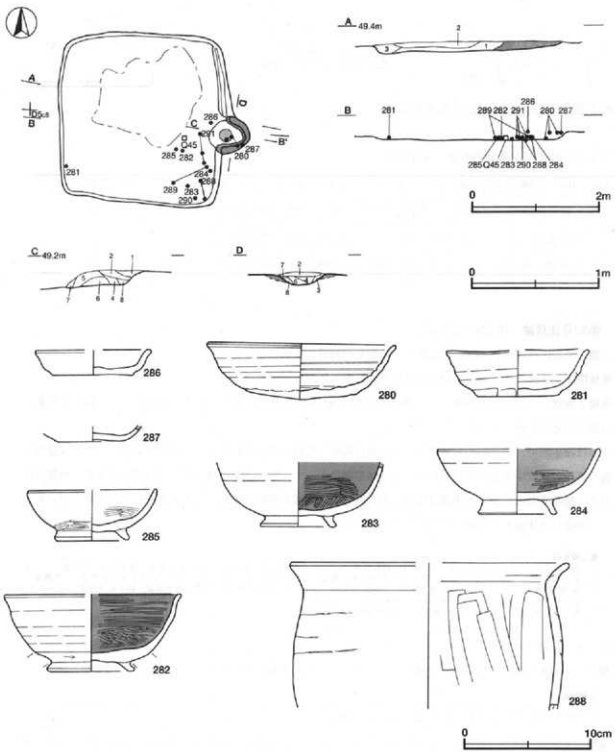
覆土　３層からなり，不規則に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒色　ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
2　黒色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
3　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量

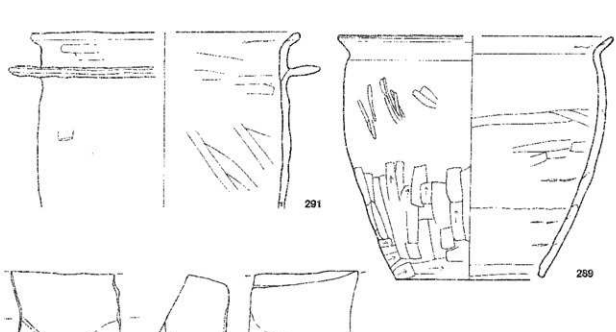
遺物出土状況　縄文土器片１点，土師器片124点（坏52，甕・鉢72），石器１点（砥石）が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。遺物は覆土下層や竈周辺に集中している。焚口部のやや

西側から291が内向きに，Q45は使用面を上向きに，280は竈内で逆位のまま押しつぶされたような状態でそれぞれ出土している。286は覆土上層から出土しており混入の可能性がある。

所見　南東側覆土下層に遺物が集中していることなどから，ほとんどの遺物は，住居廃絶の際に投棄されたものと考えられる。また，覆土上層の遺物も時期がほぼ一致することから，廃絶時の埋め戻しの過程で混入した可能性がある。時期は，東竈であることや須恵器を伴わないこと，また出土土器から10世紀後半と考えられる。



第128図　第82号住居跡・出土遺物実測図



第129図　第82号住居跡出土遺物実測図

第82号住居跡出土遺物観察表（第128・129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
280	土師器	坏	14.4	5.0	8.4	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り，内面当て具痕	竈内中層	95%	PL50
281	土師器	坏	(11.6)	3.2	6.3	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り，下端部手捻ヘラ削り	西壁部床面	80%	PL50
282	土師器	高台坏	(13.8)	6.1	6.3	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け，下端部回転ヘラ調整，内面ヘラ磨き	竈西袖床面	50%	PL50
283	土師器	高台坏	—	(5.1)	5.9	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後ナデ後高台貼り付け，内面ヘラ磨き	東東部床面	45%	
284	土師器	高台坏	(12.7)	5.2	6.0	雲母	にぶい橙	普通	底部高台貼り付け，内面ヘラ磨き	東壁際床面	50%	
285	土師器	高台坏	(16.1)	4.0	5.6	長石・雲母	にぶい橙	言為	底部ナデ後高台貼り付け，内・外面ヘラ磨き	中央部床面	50%	PL50
286	土師器	小皿	(8.0)	2.0	6.4	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	竈付近上層	30%	
287	土師器	小皿	—	(1.2)	5.2	赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	竈内下層	50%	
288	土師器	甕	(21.8)	(11.6)		石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面縦方向に工具痕，口縁部横ナデ	南東コーナー部床面	10%	
289	土師器	甕	(28.4)	35.7	15.4	長石・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	体部下端部横方向後縦方向ヘラ削り，上方ナデ，口縁部横ナデ	南東部床面	50%	
291	土師器	甕	(27.6)	(13.3)	—	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	竈付近床面	20%	PL50

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q45	砥石	13.2	(12.0)	8.5	(1650.0)	花崗岩	二面使用	竈西側床面	

第83号住居跡（第130図）

位置　調査区西部のＤ６c1区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　第249号土坑に掘り込まれていたものと推測される。

規模と形状　北側半分以上が調査区域外となっている。また大部分が削平されているため，規模・形状は不明である。竈の状況から主軸方向はＮ－90°－Ｅである。

竈　東壁に付設されている。北側が調査区域外のため袖部幅は不明である。焚口部から煙道部までは70cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。また，火熱を受けた礫が右袖部から２点出土しており，竈部材の一部として利用されていたものと考えられる。火床部は床面を多少掘りくぼめており，火床面が被熱で赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量，粘土ブロック微量
2　灰　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量

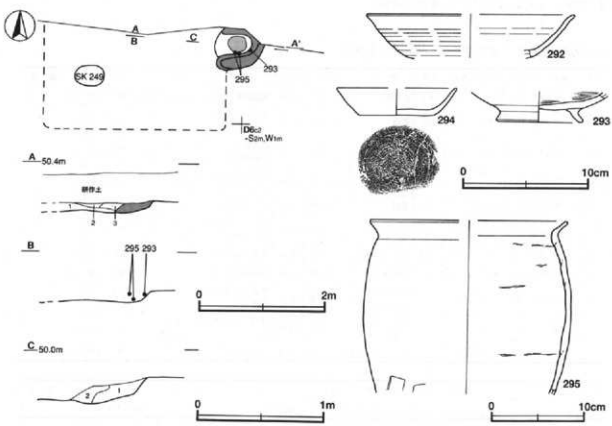
ピット　確認されなかった。

覆土　3層確認されたが，一部分のため堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片１点，土師器片65点（坏17，甕48），須恵器片１点（甕）が出土している。縄文土器片，須恵器片は流れ込みや混入によるものと考えられる。遺物のほとんどは竈内から出土したもので，293は右袖部煙道付近から斜位で，295は右袖部内から出土している。

所見　時期は，東竈であることや竈内出土の土器から，10世紀後半と考えられる。



第130図　第83号住居跡・出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
292	土師器	坏a	[16.6]	(3.5)	—	長石・雲母	橙	普通	ロクロナデ	覆土中	20%
293	土師器	高台付坏	—	(2.4)	6.3	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	底部高台貼り付け，内面ヘラ磨き	竈内下層	50%
294	土師器	小甕	[9.4]	2.2	5.8	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	50% PL50
295	土師器	甕	[20.4]	(18.1)	—	石英・長石・雲母	明褐	普通	口縁部横ナデ	竈内下層	10%

第87号住居跡（第111・131図）

位置　調査区西部のＤ６d5区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　第68号住居，第862号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　覆土のほとんどが削平されているため，規模は東西方向に1.1m，南北方向は2.6mまでしか確認されなかった。主軸方向はＮ－81°－Ｅで，長方形と考えられる。壁高は東側の最も高い部分で10cmである。

床　竈から西方向へ向かって硬化面の一部が確認された。

竈　東壁やや南寄りの部分に付設されている。削平されているため規模は不明であるが，火床部は床面を５cmほど掘りくぼめており，火床面が被熱で赤変している。

竈土層解説
1　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量

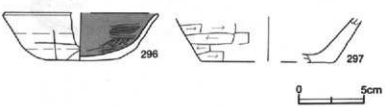
ピット　１か所。深さ10cmで南東コーナー部に位置している。性格は不明である。

覆土　単一層で覆土が薄く，堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　　色　ロームブロック・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片19点（坏３，甕16）が出土している。細片がほとんどで，竈と南東コーナー部から出土している。

所見　時期は，東竈であることや竈内出土の土器から９世紀後半と考えられる。



第131図　第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表（第131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
296	土師器	坏	[11.8]	3.7	6.4	雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ切り，内面ヘラ磨き	竈，Ｐ１付近下層	40%　体部外面に墨書「＋」
297	土師器	甕	—	(3.5)	[10.0]	石英・長石	にぶい橙	普通	下端部横方向ヘラ削り	竈内下層	5%

第91号住居跡（第132図）

位置　調査区西部のＤ５e7区に位置し，台地上の北側に立地している。

重複関係　竈寄りの部分を第352・353号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　竈以外が削平されているため規模・形状を確認することができなかった。なお，主軸方向はN－85°－Eである。

床　ほぼ平坦で，焚口付近に若干の硬化面が確認できた。

竈　東壁に付設されていたものと考えられる。袖部幅は95cmである。焚口部から煙道部までは90cmで，火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており，火床面が被熱で赤変している。煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。**礫**は，火床面から浮いた状態で確認されており，袖部の補強材または天井部に利用されていたものが竈の崩落時に落ち込んだものと考えられる。

竈土層解説

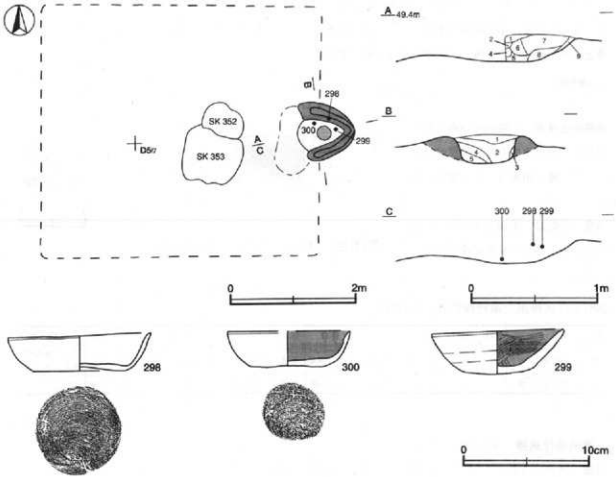
1	黒褐色	粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量		5	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量	
2	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック微量		6	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量	
3	黒色	粘土粒子少量，焼土ブロック微量		7	黒褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック微量	
4	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量		8	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	
				9	黒色	粘土粒子少量，砂粒微量	

ピット　確認されなかった。

覆土　削平されているため，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　縄文土器片１点，土師器片45点（坏12，甕33），礫４点が出土している。縄文土器片は混入によるものと考えられる。298は斜位で，299は逆位の状態でともに覆土中層付近から出土している。300は火床面付近から斜位で出土している。

所見　時期は，東竈であることや須恵器を伴わないこと，また竈内出土の土器から10世紀後半と考えられる。



第132図　第91号住居跡・出土遺物実測図

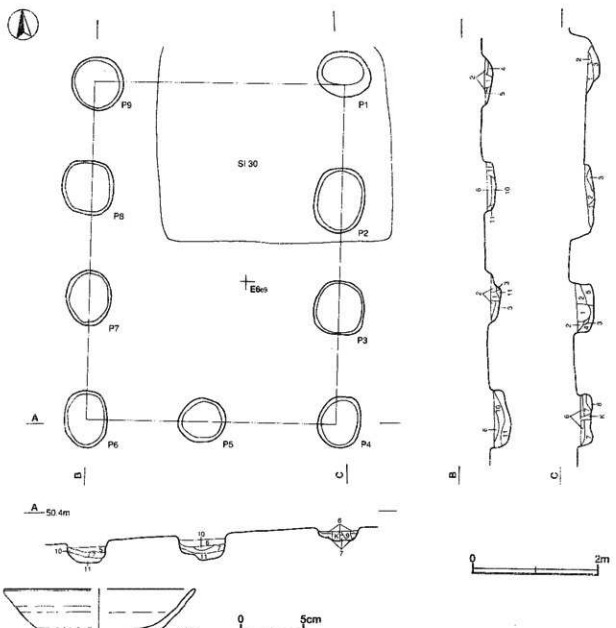
第91号住居跡出土遺物観察表（第132図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
298	土師器	坏	11.2	3.0	7.2	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	竈内中柱	70%	PL50
299	土師器	坏	10.4	3.5	6.0	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後ナデ，内面ヘラ磨き	竈内中層	55%	PL50
300	土師器	小皿	[9.7]	2.8	5.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転糸切り，内面ヘラ磨き	大床部	30%	

(2) 掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡（第133図）

位置 調査区西部のE6c8区に位置し，台地上の南側に立地している。



第133図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係　第30号住居に掘り込まれている。

規模と形状　桁行３間，梁間２間の側柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－０°の南北棟である。規模は桁行5.4m，梁間3.9mであり，柱間寸法は桁行が1.8～2.1m，梁間が1.8～2.4mである。

柱穴　平面形は長径70～100cmの楕円形，径70cmの円形，一辺80cmの隅丸方形の三種類で，深さは約20～40cmである。

土層解説（各柱穴共通）

1	黒褐色	ローム ブロック少量		7	暗褐色	ローム ブロック多量	
2	黒褐色	ローム ブロック少量，焼土ブロック微量		8	褐色	ローム ブロック少量	
3	暗褐色	ローム ブロック少量		9	暗褐色	ローム ブロック少量	
4	褐色	ローム ブロック少量		10	黒褐色	ローム ブロック少量，焼土粒子微量	
5	暗褐色	ローム ブロック少量		11	暗褐色	ローム ブロック少量	
6	暗褐色	ローム 粒子中量					

遺物出土状況　縄文土器片13点，土師器片17点（坏５，甕12），土師質土器片３点が出土している。縄文土器片や土師質土器片は後世の混入によるものと考えられる。550はＰ６覆土中から出土している。

所見　第30号住居に掘り込まれていることと出土土器から，時期は9世紀前半以前と考えられる。

第２号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第133図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
550	土師器	坏	(15.0)	3.8	(8.4)	雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ	Ｐ６覆土中	15%

(3)　井戸跡

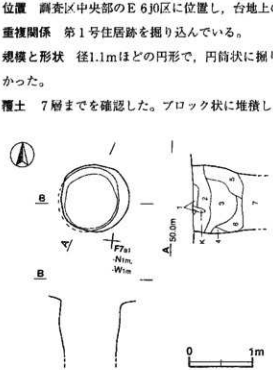
第２号井戸跡（第134図）

位置　調査区中央部のＥ６j0区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　第１号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　径1.1mほどの円形で，円筒状に掘り込まれている。深さは湧水のため96cmまでしか確認できなかった。

覆土　７層までを確認した。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。



第134図　第２号井戸跡実測図

土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量，ローム ブロック・炭化物微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化物・粘土ブロック微量
3	黒色	ローム ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
4	黒色	ローム ブロック少量，焼土粒子微量
5	黒色	ローム ブロック少量
6	黒色	ローム粒子中量，炭化物微量
7	黒色	ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片19点，土師器片40点，須恵器片３点，礫４点が出土している。全体的に細片が多い。また縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見　中世以降の遺物がなく古墳時代の住居跡を掘り込んでいることや，須恵器高台付坏片が確認されていることから，時期は平安時代と考えられる。

第3号井戸跡（第135図）

位置　調査区中央部のE 6j0区に位置し，台地上の南側に立地している。

重複関係　第1号住居跡を掘り込んでいる。

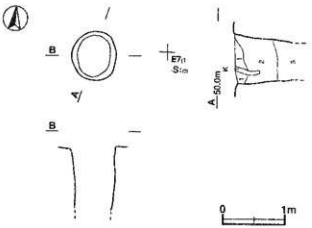
規模と形状　径0.8mほどの円形で，円筒状に掘り込まれている。深さは涌水のため98cmまでしか確認できなかった。

覆土　3層までを確認した。ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　灰　色　ロームブロック多量，鹿沼パミスブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量
3　黒　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片8点，土師器片15点，須恵器片2点が出土している。土器のほとんどが小片のため図示することができなかった。また，縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見　中世以降の遺物がなく古墳時代後期の住居跡を掘り込んでいることから，時期は奈良・平安時代と考えられる。



第135図　第3号井戸跡実測図

第8号井戸跡（第136図）

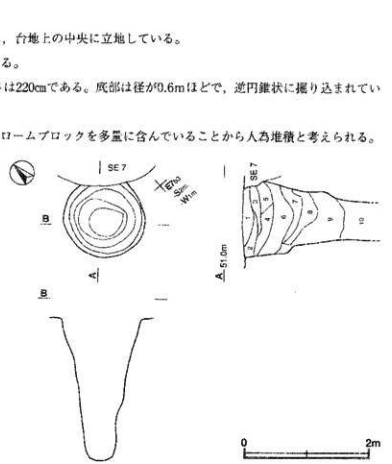
位置　調査区中央部のE 7b2区に位置し，台地上の中央に立地している。

重複関係　第7号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　径1.3mほどの円形で，深さは220cmである。底部は径が0.6mほどで，逆円錐状に掘り込まれている。

覆土　涌水のため10層までを確認した。ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　色　ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・軽石ブロック・鹿沼パミス少量
3　黒　色　ローム粒子・焼土粒子少量，鹿沼パミスブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス少量，焼土粒子微量
5　黒　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・鹿沼パミスブロック微量
6　褐　色　ロームブロック多量，鹿沼パミスブロック少量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミスブロック少量
8　黒　色　ロームブロック中量，鹿沼パミスブロック少量
9　極暗褐色　ロームブロック多量，鹿沼パミスブロック微量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミスブロック微量



第136図　第8号井戸跡実測図

遺物出土状況　縄文土器片42点，土師器片50点，須恵器片７点が出土している。図示はできなかったが，土師器の高台付坏の細片が覆土下層から出土している。また，縄文土器片も出土しているが，人為堆積時の混入によるものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から９～10世紀代と考えられる。

第16号井戸跡（第137図）

位置　調査区西部のＤ６g7区に位置し，台地上の北側に立地している。

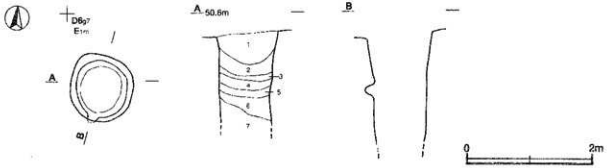
規模と形状　径1.1mほどの円形で，円筒状に掘り込まれている。深さは湧水のため175cmまでしか確認できなかった。また，確認面から0.8mほどの南側壁に20cmほどのくぼみを確認した。

覆土　７層までを確認した。ローームブロックを多量に含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローームブロック・焼土ブロック・褐沼パミスブロック少量
2　褐　色　ローームブロック中量，粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
3　黒　色　ローームブロック・褐沼パミスブロック少量
4　暗　褐　色　ローームブロック中量，焼土ブロック・褐沼パミスブロック・粘土ブロック少量
5　黒　色　ローームブロック・褐沼パミスブロック・粘土ブロック微量
6　暗　褐　色　褐沼パミスブロック中量，粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片３点，土師器片13点，須恵器片３点，礫３点が出土している。縄文土器片は人為堆積時の混入によるものと考えられる。図示できなかったが，土師器片には高台が剥離した椀が確認されている。また，須恵器片はすべて甕片である。

所見　出土土器や，近辺に10世紀前後の住居跡が点在していることから，時期は平安時代と考えられる。



第137図　第16号井戸跡実測図

第23号井戸跡（第138図）

位置　調査区西部のＤ６h9区に位置し，台地上の南側に立地している。

規模と形状　径1.2mほどの円形で，深さは湧水のため136cmまでしか確認できなかった。確認面から0.5mが漏斗状に掘り込まれており，それ以下はオーバーハングしている。

覆土　７層までを確認した。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。